

横浜市こども・子育て基本条例に基づく
令和 7 年度のこどもの意見表明に関する取組状況報告について

1 趣旨

横浜市こども・子育て基本条例（令和7年4月1日施行、以下「条例」という）第14条の規定に基づき、令和7年度のこどもの意見表明に関する取組状況等についてご報告します。

2 条例における位置づけ

- ・市の責務として、こども・子育てに関する施策を推進するに当たっては、こどもが、社会を構成する一員として、その年齢及び発達に応じて、意見を表明する機会を確保し、その意見を施策に反映させるよう努めること、こども・子育てに関連するあらゆる分野における施策を講ずるに当たっては、こどもの視点を重視するよう努めること等が定められています。
- ・また、市長は、毎年、こども・子育てに関する施策へのこどもの意見の反映の状況等について、市会に報告することとされています。

3 市会に報告する取組

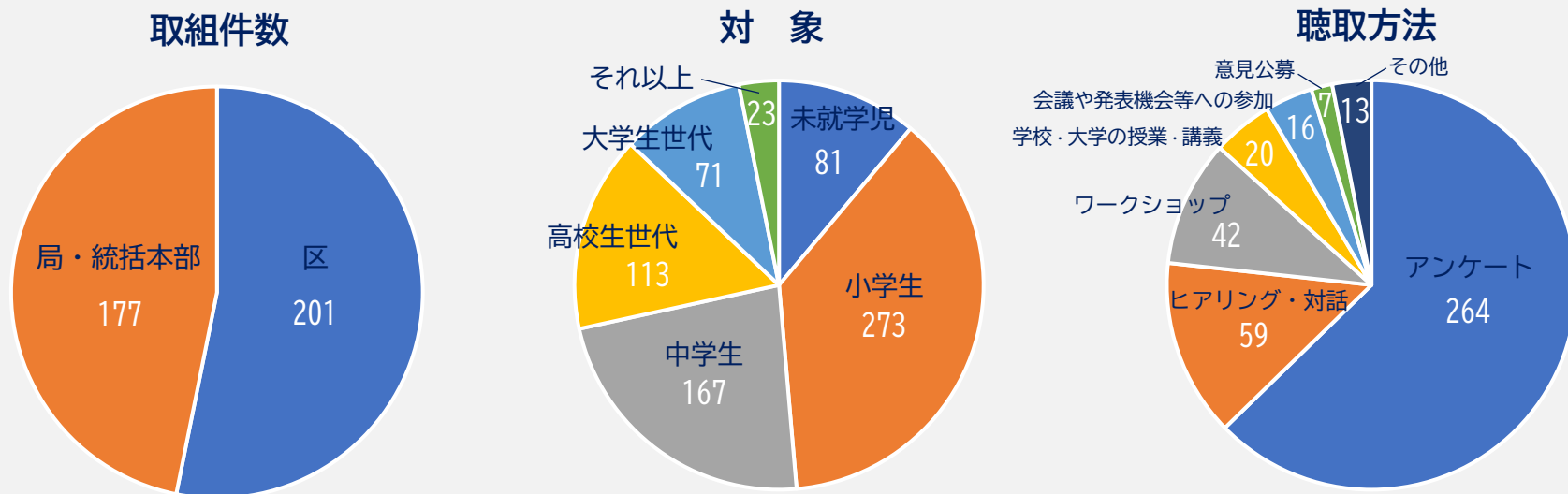
市会に報告する取組は、施策・事業・取組への反映を主な目的として、アンケートやワークショップ、会議、意見公募、インタビュー・ヒアリングなど、こどもから直接意見を聴いている取組のうち、次の内容に該当するものとしています。

- 本市（指定管理者・委託事業者を含む）が主催・共催しているもの
- こども・若者（未就学児から20代程度まで）が意見を聴く対象に含まれているもの
- すべての市民等を対象とする取組については、こども・若者から意見を聴くための工夫を行っているもの

（例）・難しい漢字や用語を使わずに、一般向けとは別に、こども・若者にわかりやすく書かれた資料を使っている
・特にこども・若者に特化した広報PRを行っている

4 各区局統括本部の取組状況

- ・「3 市会に報告する取組」に該当する取組は、全区局統括本部で374件ありました。
- ・取組件数については、区と局統括本部の間に大きな差は無い状況です。
- ・対象については、小学生、中学生、高校生世代の順で多い状況です。
- ・聴取方法については、全374件のうち、アンケートでの実施は71%、ヒアリングやワークショップ、学校の授業の活用など対面での聴取は35%となっています。



※複数の区局に跨る取組や、対象や聴取方法が複数に及ぶ取組があるため、グラフ内の数字の合計と取組件数は一致しません。4

5 こども青少年局の取組状況

取組①

青少年地域活動拠点の当事者視点を生かした広報活動

【青少年育成課】

取組内容

青少年地域活動拠点の魅力を発信する広報ボランティアを中学生・高校生・大学生から募集し、拠点を利用する高校生やスタッフへのインタビューを行った。

同世代の若者が取材することで、等身大の意見を引き出すとともに、若者に響く拠点の魅力を記事としてまとめ、発信した。



対象

中学生、高校生、大学生（41人）

実施時期

令和7年5月～令和8年3月

主な意見と活用方法等

青少年地域活動拠点は誰でも心地よく過ごせる居場所であり、多様な人との交流や体験の機会が得られるといった魅力が挙げられた。

若者の視点で作成したWEB記事の掲載や拠点を紹介するパンフレット、ポスターの作成など、青少年地域活動拠点の魅力発信や利用促進につながっている。

5 こども青少年局の取組状況

取 組 ②	中学・高校生の保育所・幼稚園見学促進事業参加者アンケート 【保育・教育運営課】	
取組内容	将来に向けた保育・幼児教育の担い手を確保するため、中学・高校生を対象に、地域の保育所や幼稚園で保育士・幼稚園教諭の仕事を体験する機会を提供し、実施後に、今後の実施方法等の検討に活用するためアンケートを実施した。	
対 象	中学生、高校生（390人）	
実施時期	令和7年7月～令和8年3月	
主な意見と活用方法等	「現場で少し働いたことで、保育士という仕事の責任の重さ、大変さややりがいを知ることができた。また、参加したい。」「ふだん幼稚園生や年下の子と接する機会があまりないので、とてもよい経験になり、次年度も参加したい。」といった意見があった。 約9割の参加者が「また参加したい」と回答していることから、さらに多くの中高生が参加できるよう、受入園を増やすとともに、中高生と園とのマッチングの円滑化を図った。あわせて、ボランティア保険へ市が一括して加入することで、参加者の利便性を高めた。	

6 令和7年度の取組のまとめ

- こども青少年局では、施設を利用しているこどもや事業・イベントに参加したこどもへのアンケート・聴き取りをはじめ、学生ボランティアからの意見聴取、シンポジウムでのグループトークなど、様々な方法でこどもの意見を聴く取組を進めました。
- 令和7年度は、報告の対象となる全25件のうち、13件についてこどもの意見を既に何らかの形で施策に活用・反映し、残りの12件についても、今後反映を検討していきます。
- 全庁的には、条例が施行された初年度の令和7年度は、まずは広くこどもの意見を聴く取組に重点を置き、各区局統括本部において、アンケートやワークショップ、ヒアリングなど様々な方法で意見聴取を行いました。
- こどもの意見推進会議の開催等を通じて、こどもの声に耳を傾ける取組は全庁的に広がっています。今後は、例えば今回、他の対象と比べて取組件数が少なかった未就学児や大学生世代以上の意見表明の機会を確保することをはじめ、いただいた意見の施策への反映やこどもへの結果のフィードバックなどについても充実を図っていく必要があります。

- 一方、いただいた意見を施策に直接反映させることが難しい場合であっても、こどもたちからは、行政や大人が意見を聴いてくれたことに対する肯定的な声がありました。引き続き、意見を聴くプロセス自体も大切にしながら、こどもの意見を丁寧に受け止め、適切にフィードバックすることで、こどもの自己肯定感の向上を図っていきます。
- 今後も、好事例の共有や職員の意識醸成等を進め、こどもの視点に立ってこども・子育て施策を総合的に推進することで、こどもたちの健やかな成長と子育てしやすいまちの実現につなげていきます。

【参考】 こども青少年局の取組一覧

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	地域ユースプラザ利用者アンケート	15～39歳までの利用者（89人）	令和7年11月～12月	「外に出る機会が増えた」「家族以外の人と関わりが増えた」等の意見が寄せられた。 今後のプログラム実施や施設運営の改善に活用していく。	青少年育成課
2	SNS相談事業（よこはま子ども・若者相談室）アンケート	39歳までの利用者（相談終了後350人、年度末142人）	・相談終了後（通年） ・令和8年3月	「相談に乗ってもらい心が軽くなった」「文字を打つことでゆっくり気持ちを整理したり、後で見返すことができるのがよかった」等の意見が寄せられた。 今後の相談対応や事業の改善に活用していく。	青少年育成課
3	青少年地域活動拠点利用者アンケート	中学生、高校生を中心とした、大学生までの拠点利用者（430人）	令和7年8月～10月	「学校以外の人たちと関わることができ、新しい考え方を知る機会になっている」「毎年ボランティアに参加しており、活動が楽しい」といった意見が寄せられた。 多様な交流機会やボランティア活動の充実を図るとともに、安心して過ごせる居場所づくりや事業運営の改善に活用していく。	青少年育成課
4	野島青少年研修センター体験教室参加者アンケート	小学生、中学生（54人）	令和7年6月～令和8年3月	お泊り会や野外キャンプなどの宿泊を伴う体験活動を希望する意見が多く寄せられた。 調理体験や特別な工作など、研修センターの施設機能を活用したプログラムを希望する意見が多く寄せられた。 次年度の体験教室の事業企画に反映していく。	青少年育成課
5	青少年地域活動拠点の当事者視点を生かした広報活動	中学生、高校生、大学生（41人）	令和7年5月～令和8年3月	青少年地域活動拠点は誰でも心地よく過ごせる居場所であり、多様な人との交流や体験の機会が得られるといった魅力が挙げられた。 若者の視点で作成したWEB記事の掲載や拠点を紹介するパンフレットやポスターの作成など、青少年地域活動拠点の魅力発信や利用促進につなげている。	青少年育成課

【参考】 こども青少年局の取組一覧

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
6	「こども・若者の居場所と体験を考えるシンポジウム」における意見聴取	高校生、大学生 (14人)	令和8年3月	シンポジウム参加者によるグループトークでは、若者が安心して過ごせる居場所の重要性や、居場所の魅力に関する情報発信の必要性、居場所に求められる機能・環境、利用しやすい運営方法等について意見が出された。 今後の居場所づくりや広報手法の検討に活用していく。	青少年育成課
7	横浜市青少年育成センターの次世代人材育成事業に関わる大学生ボランティアからの意見聴取	大学生 (19人)	令和8年2月～3月	ボランティア活動を通じてコミュニケーション力の向上や、自身の成長を実感しているとの意見や、中高生が自由に過ごせる居場所の充実を求める意見があった。 大学生ボランティアの参画機会の充実や、中高生の居場所づくりの推進に活用していく。	青少年育成課
8	令和7年度放課後キッズクラブ児童向けアンケート	小学生 (1,484人)	令和8年1月～4月	こどもの意見の反映状況やクラブでの過ごし方、プログラム内容、スタッフ対応等に対する児童の意見を聞いている。 アンケート結果は区こども家庭支援課で集計・分析し、運営法人の評価に活用している。 区こども家庭支援課から運営法人へ結果をフィードバックすることで、事業の質の向上や運営改善の検討に活用している。	放課後児童育成課
9	令和7年度放課後キッズクラブ・放課後児童クラブ利用者アンケート	小学生 (4,883人)	令和7年11月～12月	「クラブは楽しいですか」との設問に、5段階評価でアンケートを実施しており、令和7年度の結果では、「楽しい」、「どちらかという楽しい」と回答した児童の割合が94.5%となった。 アンケート結果は、小学生の放課後の居場所づくりに関する施策の効果を測る指標として活用している。	放課後児童育成課

【参考】 こども青少年局の取組一覧

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
10	小学生の朝の居場所づくりモデル事業に係るアンケート	小学生（32人）	令和7年7月～8月	「朝の時間はいつも何をして過ごしていますか」（複数回答可）の設問に対して、1位が「折り紙・塗り絵」で41%、2位が「読書」で16%だった。 この結果を受けて、令和8年度の物品を用意する際に、新たに折り紙の書籍を追加した。また、一部の小学校では、小学校の協力・理解のもと、学校図書やタブレット端末の読書アプリを朝の時間中に使えるようにした。	放課後児童育成課
11	放課後キッズクラブ・放課後児童クラブにおける夏休みの昼食提供事業に関するアンケート	小学生（436人）	令和7年8月	「美味しかった」、「量がちょうど良かった」、「全部食べた」という意見が前年度（令和6年度）の調査と比較して増加した。 おかずとして入れてほしいものの1位が「ハンバーグ」で48件、2位が「唐揚げ」で43件と、特に多かった。この2メニューを提供する日を増やすことでこどもの意見を反映した。	放課後児童育成課
12	プレイパーク支援事業に係るアンケート	市内のプレイパークを利用する児童（178人）	令和7年6月	「プレイパークで遊ぶのは楽しいですか」との設問に5段階評価でアンケートを実施しており、「とても楽しい」、「まあまあ楽しい」と回答した割合が97%を超えた。 こうした意見も踏まえ、より多くのこどもたちが、自然の中で豊かな体験の機会が得られるよう、令和8年度から、新たに出張プレイパークを開催できるよう支援を拡充した。	放課後児童育成課
13	こどもの思いや主体性を尊重した「よこはま☆保育・教育宣言」を活用した保育・幼児教育の実践	市内の保育・教育施設に所属する未就学児	日常的に実施（通年）	各園において、こどもからの言葉をはじめ表情や行動なども含めた日々の生活や遊びの中で生まれる「もっと知りたい」、「やってみたい」、「どうしたらできるかな」といった思いや気付き、興味・関心を大切に、遊びや活動内容、環境づくりに反映している。 また、クラス運営や行事づくりへの参画、話し合いによるルールづくりなど、保育者とこどもが対話を重ねながら園生活を共に創り上げる取組を進めている。	保育・教育支援課

【参考】こども青少年局の取組一覧

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
14	中学・高校生の保育所・幼稚園見学促進事業参加者アンケート	中学生、高校生 (390人)	令和7年7月～ 令和8年3月	「現場で少し働いたことで、保育士という仕事の責任の重さ、大変さややりがいを知ることができた。また、参加したい。」「ふだん幼稚園生や年下の子と接する機会がありませんので、とてもよい経験になり、次年度も参加したい。」といった意見があった。 約9割の参加者が「また参加したい」と回答していることから、さらに多くの中高生が参加できるよう、受入園を増やすとともに、中高生と園とのマッチングの円滑化を図った。あわせて、ボランティア保険へ市が一括して加入することで、参加者の利便性を高めた。	保育・教育運営課
15	「保育・幼児教育の魅力発信」に関する家庭科授業・職業講話等での出前授業参加者アンケート	中学生 (茅ヶ崎中学校3年生、190人)	令和7年11月～ 12月	「2年生時の職場体験と合わさることで、保育・幼児教育の魅力が一層伝わった。」「元々あまり興味のない仕事だったが説明を聞いてみて保育士はこどもの発育を支援する上で重要な責任があることを知り、挑戦してみたいと感じた。」といった意見があった。 次年度の授業内容の検討に活用する。	保育・教育運営課
16	保育に携わる仕事の魅力を発信するイベント「よこはま保育フォーラム」参加者アンケート	中学生、高校生、 養成校の学生(24人)	令和7年9月	「保育士の生の声が聞けるとよい。」「保育士の仕事内容や施設でのサポート内容などがわかってよかった。(福利厚生の話は特にしっかりと聞きたい。)」といった意見があった。 これらの意見を、次年度の取組内容を検討する際に活用する。	保育・教育運営課

【参考】 こども青少年局の取組一覧

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
17	ヤングケアラーの実態を把握するための児童・生徒へのアンケート及び相談を希望する児童・生徒との面談	小学4年生、中学1年生、高校1年生(41,242人、面談81人)	令和7年12月	アンケートにより、実際に家族の世話を担う児童・生徒が一定数存在していることが分かった。 面談内容は、「ヤングケアラー」に関する相談が約5割(47.6%)、「ヤングケアラー」以外の学校生活などに関する相談が約3割(32.5%)見られた。 アンケート及び面談をきっかけとして、関係部署が連携して保護者と関係を築き、継続的な相談・支援につなげることで、ヤングケアラーとして新たな支援開始につながった。	こども家庭課
18	児童福祉施設等に入所しているこどもを対象とした意見表明支援員による意見聴取	児童福祉施設等に入所している児童(144人)	児童福祉施設等ごとに年に2回訪問	施設や学校での生活に関すること等児童からの意見や相談があった場合は、児童本人の同意のうえ児童相談所や施設に共有し、必要に応じて回答している。 (アドボケイト：意見表明支援員は、こどもの声を大きくするマイクのような存在として、こどもたちが言いたいこと話したいことを拾い上げ、関係する大人に届ける役割を果たしている。)	こどもの権利擁護課
19	児童福祉施設等に入所しているこどもを対象としたはがき(こどもの権利擁護課あて)による意見聴取	児童福祉施設等に入所している児童(5人)	児童福祉施設等の入所時に児童相談所職員がはがきを直接手渡し	施設や学校での生活に関すること等児童からはがきが届いたときは、市役所から直接本人に返答し、児童本人の同意のうえ児童相談所や施設に共有している。	こどもの権利擁護課
20	一時保護所に対する外部評価に伴うこどもへのアンケート	一時保護所に入所している児童(136人)	年1回	「希望は聞いてもらえているか」「嫌なことや困っていることはあるか」などのアンケート結果について、評価委員に内容を確認してもらい、実地での職員ヒアリングや、評価に当たって参考としている。	こどもの権利擁護課

【参考】 こども青少年局の取組一覧

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
21	一時保護所入所児童を対象としたアンケート等による意見聴取	一時保護所（4所）入所中の児童（620人）	・入所児童アンケート（月1回） ・退所時アンケート ・意見箱の設置（通年） ・意見表明支援員の訪問（月1回、令和8年度からは月2回） ・入所児童によるこども会議（月1回）	一時保護所入所中の児童に対し、アンケートや意見箱の設置、意見表明支援員の訪問による意見聴取、入所中児童によるこども会議等により、こどもたちの意見や希望を聴き取り、一時保護所でのよりよい生活や支援の質の向上及び運営の信頼性の確保を図った。	中央児童相談所
22	一時保護所における盗撮事件に関する再発防止策検討のためのアンケート	令和7年10月1日時点で一時保護所（4所）に入所している全児童のうち、回答を希望しない児童、虐待等の影響により実施が難しい児童を除く（123人）	令和7年10月	「優しい職員に相談しやすい」、「声をかけてほしい」、「意見箱を設置してほしい」、「紙に書いて伝えたい」といった意見を基に、こどもが相談しやすい環境づくりを進めた。 また、一時保護所で生活する上で、「部屋が狭い」、「他児との関係で困っている」、「親と離れたくない」といった不安の声や、「防犯カメラの設置」（賛否あり）、「個室を希望」、「職員の態度改善を希望」など、安全、安心な生活に関する意見もあり、これらを参考に再発防止策を検討した。	中央児童相談所

【参考】 こども青少年局の取組一覧

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
23	児童相談所における健全育成事業参加児童に対するアンケート	健全育成事業参加児童（156人）	プログラム実施後 各所年2～3回 （主に夏・冬）	児童相談所における在宅指導中の児童を対象に、社会生活技術・対人スキルの向上を目的として行うレクリエーション活動について、アンケートを実施した。 「楽しかった」、「景品をふやしてほしい」といった意見を基に、次回以降のプログラムの企画に活かした。	中央児童相談所
24	障害児入所施設に入所している児童を対象とした地域移行カンファレンス	高校生（20人）	令和7年4月～ 令和8年3月	本人や保護者一人ひとりの意向を確認しながら、18歳以降の生活を検討し、具体的な生活の場を見つけることができた。 例えば本人の希望する仕事、生活する場所の意見を踏まえて、実習先の調整、見学する施設の調整などを行った。 本人の希望する生活の実現に近づけることができた。	障害児福祉保健課
25	次期障害者プラン策定に向けた当事者へのグループインタビュー	中学生、高校生（4人）	令和7年8月	「必要な支援を受けることは重要なので、今の制度を継続してほしい。」「『障害』という言葉がなくなるくらいの社会になってほしい。」、「ヘルプマークが浸透してきたことで生活しやすいと感じる場面が増えた。」といった意見があった。 また、「直接話を聞いてもらえる機会があることがうれしい。」との感想をいただいた。 いただいた意見も踏まえ、「障害理解の促進」を次期障害者プランの中に位置づける方向で検討を進めている。	障害児福祉保健課

令和7年度

横浜市こども・子育て基本条例に基づく
こどもの意見表明に関する取組状況報告書

令和8年9月

横浜市

目次

1	はじめに	- 4 -
2	取組の趣旨	- 4 -
3	取組の推進体制	- 5 -
4	各区局統括本部の取組報告	- 5 -
(1)	市会に報告する取組	- 5 -
(2)	取組状況の概要	- 6 -
(3)	各区局統括本部の取組	- 7 -
■	脱炭素・GREEN×EXPO 推進局の取組.....	- 7 -
■	政策経営・国際戦略局の取組.....	- 10 -
■	行財政局の取組	- 12 -
■	防災・危機管理統括本部の取組.....	- 15 -
■	総務局の取組	- 18 -
■	市民局の取組	- 20 -
■	にぎわいスポーツ文化局の取組.....	- 23 -
■	経済局の取組	- 33 -
■	こども青少年局の取組	- 37 -
■	健康福祉局の取組.....	- 44 -
■	医療局の取組	- 47 -
■	資源循環局の取組.....	- 50 -
■	都市整備局の取組.....	- 52 -
■	みどり環境局の取組	- 55 -
■	下水道河川局の取組	- 58 -
■	建築局の取組	- 61 -
■	道路・交通政策局の取組.....	- 64 -
■	港湾局の取組	- 66 -
■	消防局の取組	- 68 -
■	水道局の取組	- 70 -
■	交通局の取組	- 73 -
■	教育委員会事務局の取組.....	- 75 -
■	選挙管理委員会事務局の取組.....	- 81 -
■	人事委員会事務局の取組.....	- 83 -
■	議会局の取組	- 84 -
■	鶴見区の取組	- 87 -
■	神奈川区の取組	- 91 -
■	西区の取組.....	- 95 -
■	中区の取組.....	- 99 -
■	南区の取組.....	- 103 -

■ 港南区の取組.....	- 107 -
■ 保土ヶ谷区の取組.....	- 111 -
■ 旭区の取組.....	- 114 -
■ 磯子区の取組.....	- 118 -
■ 金沢区の取組.....	- 121 -
■ 港北区の取組.....	- 125 -
■ 緑区の取組.....	- 129 -
■ 青葉区の取組.....	- 131 -
■ 都筑区の取組.....	- 133 -
■ 戸塚区の取組.....	- 138 -
■ 栄区の取組.....	- 141 -
■ 泉区の取組.....	- 146 -
■ 瀬谷区の取組.....	- 148 -
5 まとめ.....	- 152 -
【参考資料】	- 153 -

1 はじめに

本市では、こども基本法の精神にのっとり、すべてのこどもが健やかに育ち、安心して子育てができる社会の実現を目指して、「横浜市こども・子育て基本条例」（以下「条例」という。）が令和6年6月に制定、令和7年4月に施行されました。

本報告書では、条例第14条に基づき、令和7年度に実施したこどもの意見表明に関する取組やこどもの意見の施策への反映状況等について、取りまとめています。

【参考】横浜市こども・子育て基本条例（抜粋）

（市会への報告等）

第14条 市長は、毎年、こども・子育てに関する施策へのこどもの意見の反映の状況等について、市会に報告するとともに、インターネットの利用その他の方法により公表するものとする。

2 取組の趣旨

こども基本法では、地方公共団体の責務としてこども施策の策定、実施及び評価の各段階において、こどもの意見を反映させるために必要な措置を講ずることが定められており、国においても、こどもの権利の保障及び社会参画の推進が重要な政策課題とされています。

また、こども大綱では、こどもの意見が尊重され、政策形成過程に参画できる環境の整備が求められており、こどもが主体として社会に関わる経験を通じて、自らの意見が社会に反映される実感を持つことができる仕組みづくりが重要とされています。

条例においても、こどもは社会を構成する一員として、その年齢及び発達に応じて意見を表明する機会が確保されるとともに、その意見が尊重され、施策に反映されることが基本的な考え方として示されています。また、市は、こどもの視点を重視し、あらゆる分野における施策の実施に当たって、こどもの意見を施策に反映させるよう努めることとされています。

これらの趣旨を踏まえ、本市では、こどもの意見を聴き、可能な限り施策に反映するとともに、その結果をこどもにフィードバックするという一連の取組を通じて、こどもの視点に立ったこども・子育て施策の推進に取り組んでいます。

3 取組の推進体制

本市において、こどもの意見を反映させる施策には、こどもの成長に対する支援等を主な目的とする施策だけではなく、教育、雇用、医療など幅広い分野の施策を含んでいます。

「こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン」（令和6年3月・こども家庭庁発行）では、「こども・若者が暮らすまちの未来、通学・通勤路の道路、公園や公共施設等の居場所や住宅、気候変動に関すること等、こども・若者の今と将来の生活に影響を与える政策や計画、施策、事業について、こども・若者は当事者になります。こども・子育て担当課だけではなく、あらゆる部署の施策は、こども・若者が当事者になり得ると考えられます。」との解釈が示されています。

本市では、条例の趣旨を踏まえ、こどもの意見を表明する機会を確保し、その意見を施策に反映させる推進体制として、令和7年6月、こども青少年局の所管副市長を議長とし、各区局統括本部長を委員とする「こどもの意見推進会議」を設置するとともに、各区局統括本部の企画担当課長を幹事とする「こどもの意見推進会議幹事会」を設置しました。

令和7年度は、こどもの意見推進会議及び幹事会を各2回開催し、全庁的な機運醸成と意見表明の機会のさらなる確保に向けて、条例の趣旨や各区局統括本部における好事例の共有等を行いました。

4 各区局統括本部の取組報告

(1) 市会に報告する取組

本報告書では、以下の内容に該当する各区局統括本部の取組を掲載しています。

施策・事業・取組への反映を主な目的として、アンケートやワークショップ、会議、意見公募、インタビュー・ヒアリングなど、こどもから直接意見を聴いている取組のうち、次の項目に該当するもの。

- 本市（指定管理者・委託事業者を含む）が主催・共催している
- こども・若者（未就学児から20代程度まで）が意見を聴く対象に含まれている
- すべての市民等を対象とする取組については、こども・若者から意見を聴くための工夫を行っている

（例）

- ・ 難しい漢字や用語を使わずに、一般向けとは別に、こども・若者にわかりやすく書かれた資料を使っている
- ・ 特にこども・若者に特化した広報PRを行っている

また、区局統括本部ごとに、主な取組2事例を個別具体的に紹介したうえで、他の取組については一覧表にまとめて記載しています。

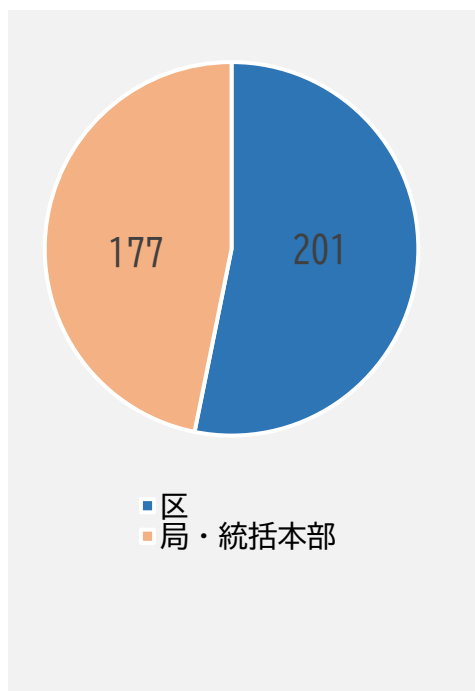
(2) 取組状況の概要

「(1) 市会に報告する取組」に該当する取組は、全区局統括本部で 374 件でした。

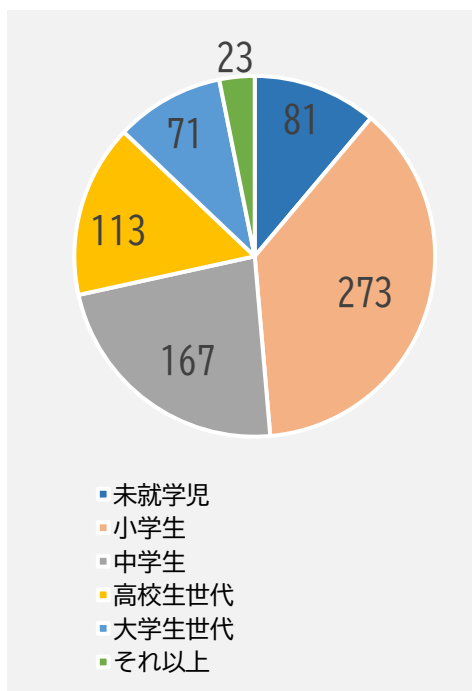
区局統括本部の取組件数、対象、意見聴取の方法の内訳は下のグラフのとおりです。

※複数の区局に跨る取組や、対象や聴取方法が複数に及ぶ取組があるため、グラフ内の数字の合計と取組数は一致しません。

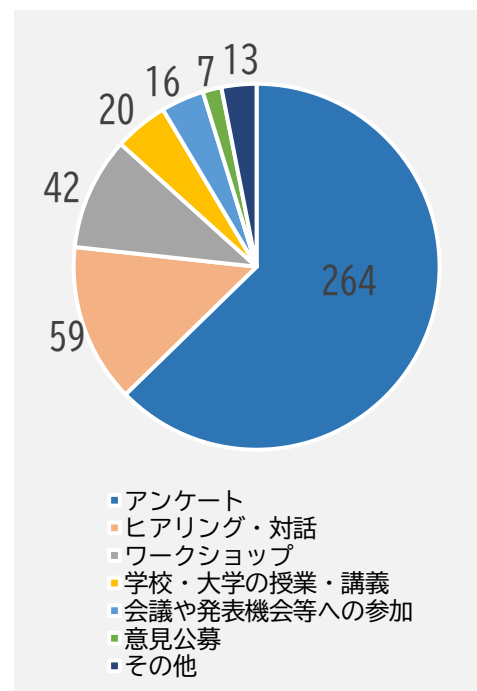
取組件数



対象



聴取方法



区	201
局・統括本部	177

未就学児	81
小学生	273
中学生	167
高校生世代	113
大学生世代	71
それ以上	23

アンケート	264
ヒアリング・対話	59
ワークショップ	42
学校・大学の授業・講義	20
会議や発表機会等への参加	16
意見公募	7
その他	13

- ・取組件数については、区と局統括本部の間に大きな差は無い状況です。
- ・対象については、小学生、中学生、高校生世代の順で多い状況です。
- ・聴取方法については、全 374 件のうち、アンケートでの実施は 71%、ヒアリングやワークショップ、学校の授業の活用など対面での聴取は 35%となっています。

(3) 各区局統括本部の取組

■ 脱炭素・GREEN×EXPO 推進局の取組

取組①	若者とともにつくる、地球にやさしい STYLE 【GREEN×EXPO 推進課】	
取組内容	大学生や若者のアイデアと企業等のノウハウや技術を掛け合わせ、環境に配慮した持続可能な社会の実現に向けた共創プロジェクトを実施した。	
対 象	大学生及び横浜に関わりがあり実施テーマに関心を持つ 20 代の方（65 人）	
実施時期	令和 7 年 4 月～令和 8 年 2 月	
主な意見と活用方法等	【プロジェクト例】神奈川県 × 株式会社ダイイチ 「“紙糸”を活用した暑熱対策プロダクト開発」 リサイクル率の低い紙製パッケージと、横浜市が保有する水源林の間伐材をアップサイクルした「紙糸」を活用し、暑熱環境への適応を掲げてプロジェクトを開始した。 「紙糸を日用品に取り入れ、環境にやさしい製品を日常に広げたい」や「地元のものを使う・花で染める」という学生からのアイデアを取り入れ、プロダクトを共同で製作した。 本取組は、横浜グリーンエキスポの会場において紹介する予定。	

取組②	世界の明日を、みんなでひらく。～こどもプロジェクト～ 【GREEN×EXPO 推進課】	
取組内容	横浜グリーンエキスポの会期前から、環境問題や横浜グリーンエキスポへの興味・関心を高める取組として「世界の明日を、みんなでひらく。～こどもプロジェクト～」を実施している。 その一環として、横浜グリーンエキスポに関わる企業等と学校がつながり、ともに特別な授業や体験をつくり上げる共創事業を実施した。	
対 象	横浜市立学校（小学校 3 校・335 人）	
実施時期	令和 8 年 2 月～3 月	
主な意見と活用方法等	【プロジェクト例】 脱炭素・資源循環・自然共生について考え、行動変容のきっかけが生まれるような「リジェネラティブすごろく」について、株式会社竹中工務店と issue+design が制作するにあたり、三保小学校の児童がプロトタイプのごろくゲームを体験した。 いただいたこどもたちの意見を踏まえて共創した内容は、横浜グリーンエキスポの会場内で発表や展示を通して、公表する予定。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	若者とともにつくる、地球にやさしいSTYLE	大学生及び横浜に関わりがあり実施テーマに関心を持つ20代の方(65人)	令和7年4月～令和8年2月	【プロジェクト例】神奈川大学 × 株式会社ダイイチ 「紙系」を活用した暑熱対策プロダクト開発」リサイクル率の低い紙製パッケージと、横浜市が保有する水源林の間伐材をアップサイクルした「紙系」を活用し、暑熱環境への適応を掲げてプロジェクトを開始した。 「紙系を日用品に取り入れ、環境にやさしい製品を日常に広げたい」や「地元のものを使う・花で染める」という学生からのアイデアを取り入れ、プロダクトを共同で製作した。 本取組は、横浜グリーンエキスポの会場において紹介する予定。	GREEN×EXPO 推進課
2	GREEN×EXPO 2027 開催 500 日前シンポジウム	シンポジウム パネラーの大学生(3人)	令和7年 11 月	「一人ひとりが小さなことを、多くの人を取り組めば大きな環境へのアプローチになる」、「横浜グリーンエキスポを通して、身近にできることを体験して、学んで、環境に優しい行動をとることが当たり前になってほしい」等の意見があった。 日頃から環境活動に取り組まれている大学生の現状やそれぞれの思い、横浜グリーンエキスポへの期待を踏まえ事業の参考とする。	GREEN×EXPO 推進課
3	世界の明日を、みんなでひらく。～こどもプロジェクト～	横浜市立学校(小学校3校・335人)	令和8年2月～3月	【プロジェクト例】 脱炭素・資源循環・自然共生について考え、行動変容のきっかけが生まれるような「リジェネラティブすごろく」について、株式会社竹中工務店と issue+design が制作するにあたり、三保小学校の児童がプロトタイプのごろくゲームを体験した。 いただいたこどもたちの意見を踏まえて共創した内容は、横浜グリーンエキスポの会場内で発表や展示を通して、公表する予定。	GREEN×EXPO 推進課
4	小学校と地元企業の連携によるアップサイクルの取組	蒔田小学校6年生(26人)	・令和7年12月～取組開始 ・令和8年3月9日～3	アップサイクルする備品については、児童自らが校内の課題を調査し、「本棚に本が入りきらず整理しづらい」「理科室で大型の実験器具を扱うための台が欲しい」「落とし物を見つけやすくしたい」などの意見を出し合いな	循環型社会推進課

			月 13 日 (SDGs ス テーション 横浜関内展 示期間)	がら企画した。 これらの意見を反映し、本棚や理科室の作 業台、落とし物箱等を製作することで、学習 環境や学校生活環境の向上を図った。	
--	--	--	--	--	--

■ 政策経営・国際戦略局の取組

政策・施策検討にこどもの声を生かす取組	
【経営戦略課】	
取組①	
取組内容	令和7年4月に施行された「横浜市こども・子育て基本条例」を契機として、市政運営の方向性の検討にこどもの声を生かすため、ワークショップやデジタルツールを活用して「未来の横浜」に関するアイデア募集を実施した。 また、「新たな中期計画の基本的方向」について、こどもを対象とした意見募集を実施した。 【寄せられたキーワード】 ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析
対 象	18 歳以下の横浜市民（合計 744 人）
実施時期	・ 令和7年6月1日（ワークショップ）※24 人 ・ 令和7年6月2日～6月30日（デジタルツールを活用した意見募集）※473 人 ・ 令和7年9月22日～10月21日（「新たな中期計画の基本的方向」（令和7年9月公表）へのこどもの意見募集）※247 人
主な意見と活用方法等	街の美化や自然保護、安心して遊べる公園の整備、学校給食の充実、いじめや差別のない社会づくりなど、多様で真剣な思いや願いが挙げられた。 いただいた意見は令和7年9月公表の「新たな中期計画の基本的方向」に反映したほか、「横浜市中期計画 2026-2029」の策定に当たって参考にした。

取組②	2027 年開催「第 9 回アジア太平洋都市フォーラム（APUF-9）」の ロゴ選定に係る意見聴取【グローバル都市戦略課】
取組内容	持続可能な都市づくりをテーマとした国際会議 「第 9 回アジア太平洋都市フォーラム（APUF-9）」に 若い世代の視点を反映するとともに、当該会議への理解 を深めることを通じて次世代育成につなげるため、国際 協力や SDGs などに関心を持つ学生等を対象に、当該会議 のロゴデザイン案を提示し、意見聴取を実施した。 
対 象	「第 1 回 横浜ピース・サークル」※に参加する高校生、大学生等（63 人） ※国連が世界的な展開を呼びかけている若者主体の対話の場
実施時期	令和 8 年 3 月 8 日
主な意見と 活用方法等	複数のデザイン案を提示して意見を聴取した結果、「見やすい」、「横浜らしさがある」や 「多様性や未来を感じさせる」などといった意見が寄せられた。 このうち、最も多くの支持が得られたデザイン案を APUF-9 のロゴとして採用した。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	政策・施策検討にこどもの声を生かす取組	18 歳以下の横浜市民(合計 744 人)	令和7年6月1日(ワークショップ) ※24 人 令和7年6月2日～6月30日 (デジタルツールを活用した意見募集)※473 人 令和7年9月22日～10月21日(「新たな中期計画の基本的方向」(令和7年9月公表)へのこどもの意見募集)※247 人	街の美化や自然保護、安心して遊べる公園の整備、学校給食の充実、いじめや差別のない社会づくりなど、多様で真剣な思いや願いが挙げられた。 いただいた意見は令和7年9月公表の「新たな中期計画の基本的方向」に反映したほか、「横浜市中期計画 2026-2029」の策定に当たって参考にした。	経営戦略課
2	2027 年開催「第9回アジア太平洋都市フォーラム(APUF-9)」のロゴ選定に係る意見聴取	「第1回 横浜ピース・サークル」※に参加する高校生、大学生等(63 人) ※国連が世界的な展開を呼びかけている若者主体の対話の場	令和8年3月8日	複数のデザイン案を提示して意見を聴取した結果、「見やすい」、「横浜らしさがある」や「多様性や未来を感じさせる」などといった意見が寄せられた。 このうち、最も多くの支持が得られたデザイン案を APUF-9 のロゴとして採用した。	グローバル都市戦略課

■ 行財政局の取組

取組①	「よこはまネイチャーキッズ」に参画する小学生との対話による意見聴取 【共創推進課】
取組内容	横浜グリーンエキスポを契機として、脱炭素やネイチャーポジティブ、循環経済の取組を実践する小学生が中心のプロジェクト。各校の取組を支援する企業や団体のマッチングをはじめとする伴走支援や、取組の発表や児童が交流する機会を創出した。 こどもたちからの意見をもとにサーキュラーエコノミーplusの取組を推進している。 
対 象	小学生（200 人）
実施時期	・ 令和7年10月11日 ・ 令和8年3月20日 ※伴走支援は通年
主な意見と活用方法等	「脱炭素や循環経済の取組を進めたい」「企業や地域団体の方とつながりたい」「取組を多くの人に知ってもらいたい」という意見があった。 こうした意見をもとに、企業や団体とのマッチングを進めることで、未利用食材を活用した商品開発の支援や、廃棄予定の花を活用したフラワーアレンジメント等を実施した。 取組の成果を、10月の「ネイチャーキッズフェスタ」や、3月の「サーキュラーエコノミーplus×EXPO 2026」において広く発信した。

取組②	高校生・大学生等を対象とした「財政出前講座」及び、 小学生を対象とした「財政や税に関する出前授業」における意見聴取 【財政課】
取組内容	持続可能な財政運営に向けて、市民の理解と共感を深めるため、本市の財政について、高校、市内大学や専門学校へ財政課職員が訪問して、財政出前講座を実施した。 また、横浜F・マリノスと連携し、公式キャラクター「マリノスケ」を活用した子ども向け財政広報コンテンツを作成しており、当該資料を用いて、税務署と合同で、財政や税に関する出前授業を小学校で実施した。 これらの講義内容や授業内容について、質問やアンケートを通して意見を聴取した。  

対 象	①高校生、大学生、専門学生（6校・13回・605人） ②小学6年生（1校・4回・101人）
実施時期	①令和7年4月15日～令和8年1月22日 ②令和8年2月26日
主な意見と活用方法等	「自分に何ができるか知りたい」「市債の活用について知りたい」「税金がどのようなところに使われているかもっと知りたい」という意見や、グループワークのやり方に対する意見があった。意見を受けて、資料や説明内容に本市での活用事例を追加した他、グループワークの進め方を改善した。

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	「よこはまネイチャーキッズ」に参画する小学生との対話による意見聴取	共創推進課	小学生(200人)	・令和7年 10月11日 ・令和8年3月20日 ※伴走支援は通年	「脱炭素や循環経済の取組を進めたい」「企業や地域団体の方とつながりたい」「取組を多くの人に知ってもらいたい」という意見があった。 こうした意見をもとに、企業や団体とのマッチングを進めることで、未利用食材を活用した商品開発の支援や、廃棄予定の花を活用したフラワーアレンジメント等を実施した。 取組の成果を、10月の「ネイチャーキッズフェスタ」や、3月の「サーキュラーエコノミーplus×EXPO 2026」において広く発信した。
2	「ヨコハマゼロワン」に参画する若者との対話による意見聴取	共創推進課	中学生、高校生、大学生(50人)	・令和7年 11月8日 ・令和8年3月20日 ※伴走支援は通年	「脱炭素や循環経済の取組を進めたい」「若者が主体となって取り組むことで、社会全体に行動変容を促していきたい」という意見があった。 こうした意見をもとに、ヨコハマゼロワンの活動について対話を重ね、メンバー同士の交流を促進する機会の創出や、他局事業との連携等の支援を行った。 取組の成果を、11月の「ヨコハマゼロワン作戦会議」や、3月の「サーキュラーエコノミーplus×EXPO 2026」において広く発信した。
3	高校生・大学生等を対象とした「財政出前講座」及び、小学生を対象とした	財政課	①高校生、大学生、専門学生(6校・13	①令和7年 4月15日 ～令和8年	「自分に何ができるか知りたい」「市債の活用について知りたい」「税金がどのようなところに使われているかもっと知りたい」という

	「財政や税に関する出前授業」における意見聴取		回・605 人) ②小学6年生 (1校・4回・ 101 人)	1月 22 日 ②令和8年 2月 26 日	意見や、グループワークのやり方に対する意見があった。意見を受けて、資料や説明内容に本市での活用事例を追加した他、グループワークの進め方を改善した。
--	------------------------	--	---	-----------------------------	---

■ 防災・危機管理統括本部の取組

取組①	防災・減災普及啓発事業におけるイベント参加者へのシールアンケート （わくわく！こどもハロウィン in 横浜北仲フェス） 【地域防災課】	
取組内容	こどもや保護者が防災を身近なものとしてとらえ、楽しみながら防災について考える機会を提供するとともに、今後実施する防災啓発事業や体験型研修の企画・内容の充実に向けた市民ニーズを把握することを目的として、株式会社良品計画との共創事業にて、「わくわくこどもハロウィン」において「いつものもしも防災ひろば」をブース出展した。 当日は会場内において、子どもを対象としたシールアンケートを実施し、「どちらの防災研修に参加してみたいか」をテーマに、「つくってたべられる防災研修」と「こうさくができる防災研修」のいずれかを選択してもらい、子どもの意向を把握した。	 
対 象	幼児～小学生（約 500 人）	
実施時期	令和 7 年 10 月 19 日	
主な意見と活用方法等	どちらの防災研修に参加してみたいかを聞いたところ、「つくってたべられる研修」と答えた割合が約 61%だった。 来場者のニーズに応じた複数の体験型防災プログラムの企画立案に活用することとし、今年度は体験型防災クッキングイベント及び体験型防災工作教室の両事業を実施する予定。	

取組②	防災・減災普及啓発事業におけるイベント参加者へのアンケート（防センアカデミー） 【地域防災課】	
取組内容	家庭における防災対策の実践につながる工夫を学んでもらうことを目的として、横浜市民防災センターにおいて「親子ぼうさい工作教室」を実施した。 教室終了後には、学んだ内容を今後家庭でどのように生かしていきたいかや、防災への市民の関心事項を把握することを目的として、親・子それぞれにアンケートを実施した。子どもへの主な聴取項目として、「おうちでやってみたいぼうさいのくふう」を聴取した。	

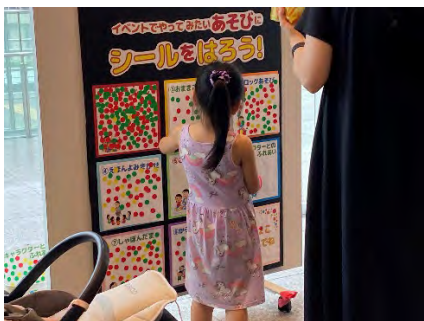
対 象	幼児～小学生（約 50 人）
実施時期	令和 7 年 11 月 1 日
主な意見と活用方法等	「おうちでやってみたいぼうさいのくふう」として、「テレビの固定をする」「ベッドの近くにライトを置く。」などの回答があった。 研修により防災意識の高まりに加え、家庭で実際に取り組もうとする意識の向上がうかがえ、本事業の効果が確認できた。これらの意見を今後の啓発内容や事業の進め方に反映し、こどもや子育て世代をはじめとした市民の意識変容につなげていく。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	防災・減災普及啓発事業におけるイベント参加者へのシールアンケート(わくわくこども夏まつり)	幼児～小学生（約 600 人）	令和7年8月9日、10日	アンケートで「ダンゴムシのポーズを知っている」と答えた割合は 75%だった。 地震時における基本的な身の守り方の認知度を定量的に把握し、防災意識の現状分析及び今後の普及啓発の検討・改善に活用した。	地域防災課
2	防災・減災普及啓発事業におけるイベント参加者へのシールアンケート(横浜防災フェア 2025)	幼児～小学生（約 800 人）	令和7年9月6日、7日	アンケートで地震と台風どちらに興味があるか聞いたところ、「地震のことを知りたい」と答えた割合は約 70%だった。 来場者のうち約 70%が地震に関心を示したことから、市民ニーズの高い地震対策に関する情報発信の充実を図るとともに、台風対策についても関心喚起を図る施策検討の基礎資料として活用した。	地域防災課
3	防災・減災普及啓発事業における避難所生活体験研修参加者へのアンケート(ぼうさい縁日)	幼児～小学生（66 人）	令和7年 9 月 20 日	「今日の研修で避難所生活を知ることができた」と答えた割合は、約 96%だった。 研修参加者の約 96%が避難所について理解できたと回答したことから、本研修の有効性を確認するとともに、今後の防災啓発事業における体験型プログラムの推進及び内容改善の検討に活用した。	地域防災課
4	危機対処・防災訓練事業における横浜市総合防災訓練参加者へのシールアンケート	小学生、中学生(53 人)	令和7年 9 月 28 日	「総合防災訓練を見学し、楽しかったため来年も参加したい。」といった意見があった。 意見を次年度以降の訓練計画に反映させ、より子どもにとっても理解しやすく参加しやすい訓練を実施する。	緊急対策課
5	防災・減災普及啓発事業におけるイベント参加者へのシールアンケート(わ	幼児～小学生（約 500 人）	令和7年 10 月 19 日	どちらの防災研修に参加してみたいかを聞いたところ、「つくってたべられる研修」と答えた割合が約 61%だった。	地域防災課

	くわく！こどもハロウィン in 横浜北仲フェス)			来場者のニーズに応じた複数の体験型防災プログラムの企画立案に活用することとし、今年度は体験型防災クッキングイベント及び体験型防災工作教室の両事業を実施する予定。	
6	防災・減災普及啓発事業におけるイベント参加者へのアンケート(防センアカデミー)	幼児～小学生 (約 50 人)	令和7年 11 月 1 日	「おうちでやってみたいぼうさいのくふう」として、「テレビの固定をする」「ベッドの近くにライトを置く。」などの回答があった。 研修により防災意識の高まりに加え、家庭で実際に取り組もうとする意識の向上がうかがえ、本事業の効果が確認できた。これらの意見を今後の啓発内容や事業の進め方に反映し、こどもや子育て世代をはじめとした市民の意識変容につなげていく。	地域防災課
7	防災・減災普及啓発事業における在宅避難生活体験研修参加者へのアンケート(クリスマス消防フェア)	幼児～小学生 (約 200 人)	令和7年 12 月 13 日	「今日の体験でぼうさいのいしきにへんかはあったか」との質問に、「研修によって防災の意識が高まった」と答えた割合は約 93% だった。 研修による防災意識の向上を把握し、体験型防災教育の有効性を検証するとともに、今後の普及啓発施策の充実及び内容改善に資する基礎資料として活用した。	地域防災課
8	防災・減災普及啓発事業における防災ジオラマ謎解きゲーム参加者へのアンケート(出初式)	幼児～小学生 (約 100 人)	令和8年 1 月 11 日	「防災謎解きゲームを通じて防災について詳しくなった」と答えた割合は約 93% だった。 ジオラマを用いた防災謎解きゲームにより、防災知識の理解向上が確認されたことから、体験型・参加型手法の有効性を踏まえ、今後の啓発事業に活用した。	地域防災課

■ 総務局の取組

取組①	子どもアドベンチャーカレッジ 2025「知ってる？税金がつくるみんなのまち」での税金や予算の使い道を学ぶグループディスカッションと参加者へのアンケートの実施 【税務課】
取組内容	①税金のある世界とない世界の違い②予算のつかいみちをテーマにしたグループディスカッションを実施した。 また、プログラム参加者の意見や感想を聞くためのアンケートも行った。 
対 象	小学3～6年生（約30人）
実施時期	令和7年8月5日、6日
主な意見と活用方法等	こどもたちからは「税金に興味があった」や「税金の大切さがわかった」などの意見が出た。 こどもたちが税金を身近なものとして捉え、学ぶ意欲を持っていることが確認できた。 今年度の子どもアドベンチャーカレッジ 2026 でも引き続きディスカッションなどの参加型の内容を実施し、身近な横浜市の税金について丁寧に説明するプログラムとした。 税務署と協力しながら実施している租税教室の教材見直しや進行方法の改善にも本意見を活用する。

取組②	子育て世代向け市庁舎イベント「わくわく！こどもイベント」におけるシール投票 【管理課】
取組内容	市庁舎低層部の更なるにぎわいを創出するため、子育て世帯向けイベントを実施した。 イベント時に、「次回のイベントでやりたい遊び」や「来場者アンケートの参加記念品」について、シール投票を実施し、投票が多かったコンテンツや参加記念品を次回以降のイベントで採用した。 
対 象	主に未就学児（夏：1,786票、秋：1,105票、1人2票まで）
実施時期	・夏：令和7年8月9日、10日 ・秋：令和7年10月18日、19日
主な意見と活用方法等	・夏：わくわく！こども夏まつり 「次回のイベントでやりたい遊び」として、投票が多かったコンテンツを令和7年10月の秋イベントで実施した。

	・秋：わくわく！こどもハロウィン in 北仲フェス 「来場者アンケートへの参加記念品」として、投票が多かったものを令和8年5月のGWイベントの記念品に採用した。
--	--

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	子どもアドベンチャーカレッジ 2025「知ってる？税金がつくるみんなのまち」での税金や予算の使い道を学ぶグループディスカッションと参加者へのアンケートの実施	小学3～6年生(約30人)	令和7年8月5日、6日	こどもたちからは「税金に興味があった」や「税金の大切さがわかった」などの意見が出た。 こどもたちが税金を身近なものとして捉え、学ぶ意欲を持っていることが確認できた。 今年度の子どもアドベンチャーカレッジ 2026 でも引き続きディスカッションなどの参加型の内容を実施し、身近な横浜市の税金について丁寧に説明するプログラムとした。 税務署と協力しながら実施している租税教室の教材見直しや進行方法の改善にも本意見を活用する。	税務課
2	子育て世代向け市庁舎イベント「わくわく！こどもイベント」におけるシール投票	主に未就学児 (夏:1,786票、秋:1,105票、1人2票まで)	・夏:令和7年8月9日、10日 ・秋:令和7年10月18日、19日	・夏:わくわく！こども夏まつり 「次回のイベントでやりたい遊び」として、投票が多かったコンテンツを令和7年10月の秋イベントで実施した。 ・秋:わくわく！こどもハロウィン in 北仲フェス 「来場者アンケートへの参加記念品」として、投票が多かったものを令和8年5月のGWイベントの記念品に採用した。	管理課

■ 市民局の取組

取組①	ボランティア活動に関するヒアリング 【地域活動推進課】	
取組内容	若者・大学生の地域活動への参加促進のため、ボランティア参加経験のある大学生から体験談を聞いた。	
対 象	大学生（10人）	
実施時期	令和8年1月	
主な意見と活用方法等	学生からは、地域活動に関心はあるものの、参加への敷居の高さや、継続的な参加を求められるのではないかと不安が参加へのハードルとなっているとの意見があった。 意見を踏まえ、「横浜地域活動・ボランティア情報サイト よこむすび」において、一度限りの参加が可能な活動であることが伝わる掲載内容の工夫や、活動の様子が分かる写真掲載の充実など、参加しやすさや活動の魅力が伝わるサイトづくりを進める。	

取組②	第6次横浜市男女共同参画行動計画に係る、こどもからの意見聴取 【国際平和・ダイバーシティ推進課】	
取組内容	①大学のジェンダーに関する講義やキャリア教育プログラムにおいて、男女共同参画に関する意見交換を実施した。 ②男女共同参画センター横浜南主催の「ヨコハマジェンダー平等アクションゼミ」において、市の男女共同参画施策に関する提案を受けた。	
対 象	①大学生、大学院生（369人） ②おおむね15～29歳の人（13人）	
実施時期	①令和7年6月～10月 ②令和7年9月～12月	
主な意見と活用方法等	「固定的性別役割分担により、違和感を覚えたり、不快な思いをしたことがある。」「アンコンシャスバイアスの解消のため、広報・啓発が必要。」などの意見があった。 意見を踏まえ、第6次横浜市男女共同参画行動計画における広報・啓発及び若い世代の意識醸成に関する取組へ反映した。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	ボランティア活動に関するヒアリング	大学生(10人)	令和8年1月	学生からは、地域活動に関心はあるものの、参加への敷居の高さや、継続的な参加を求められるのではないかと不安が参加へのハードルとなっているとの意見があった。 意見を踏まえ、「横浜地域活動・ボランティア情報サイト よこむすび」において、一度限りの参加が可能な活動であることが伝わる掲載内容の工夫や、活動の様子が分かる写真掲載の充実など、参加しやすさや活動の魅力が伝わるサイトづくりを進める。	地域活動推進課
2	第6次横浜市男女共同参画行動計画に係る、こどもからの意見聴取	①大学生、大学院生(369人) ②おおむね15～29歳の人(13人)	①令和7年6月～10月 ②令和7年9月～12月	「固定的性別役割分担により、違和感を覚えたり、不快な思いをしたことがある。」「アンコンシャスバイアスの解消のため、広報・啓発が必要。」などの意見があった。 意見を踏まえ、第6次横浜市男女共同参画行動計画における広報・啓発及び若い世代の意識醸成に関する取組へ反映した。	国際平和・ダイバーシティ推進課
3	集会広聴事業『市長と語ろう！』における市民からの意見聴取	中学生(4人)、高校生(9人)	・令和7年12月6日 ・令和7年12月15日	【南区】 地域における防災意識・減災力の向上に関する意見があった。 意見を踏まえ、次世代の地域防災を支える人材(中学生)育成プログラムの事業費と地域防災拠点の実効性向上に向けた分析に係る検討費を計上した。 【瀬谷区】 GREEN×EXPO 2027開催に向けた取組に関する意見があった。 意見を踏まえ、「STYLE PARTNERS」における高校生など若い世代との創発機会の確保に取り組んでいく。	広聴相談課
4	人権に関する市民意識調査の調査対象年齢の拡大	市内在住15歳以上の男女5,000人(135人)	令和7年7月25日～8月22日	人権問題に関する知識や情報の収集源として、15歳～17歳の回答者全員が「学校の授業」を選択した。また、今後横浜市が充実させていく取組として、15歳～17歳の回答者の8割が「学校での教育」を選択した。 関係課と情報共有・連携をしながら、人権啓発の手法を検討し、啓発を推進していく。	人権課

				また、今後改訂予定の横浜市人権施策基本指針に市民意識調査の調査結果を反映予定。	
5	横浜ピース・サークル	高校生、大学生、専門学生ほか(63人)	令和8年3月8日	サステナブルなグリーン社会と平和を実現するために必要な姿勢やアクションとして、「教育・知る機会の重要性」「多様な人が共に動ける仕組みづくり」等のメッセージが示された。 対話の成果を国連に報告するとともに、GREEN×EXPO2027を契機に、若者の声として発信予定。	国際平和・ダイバーシティ推進課
6	小学生向け国際平和学習プログラム 実施後アンケート	小学生(1,487人)	令和7年4月～令和8年3月	国際平和学習プログラムに対する意見として、「自分に何ができるか考えることができた」では、70%から「はい」との回答があった。 意見を踏まえ、自己変容を促せるような授業構成を検討していく。	国際平和・ダイバーシティ推進課

■ にぎわいスポーツ文化局の取組

取組①	学生主導による国際会議での課題解決プログラムの企画実装 【観光 MICE 振興課】	
取組内容	次世代育成の取組及び MICE 産業活性化の視点から、本市における MICE の課題を、市内の学生とともに解決していく共創型課題解決プログラムを実施した。学生が実際の MICE の場における企画を提案・運営し、MICE 参加者の対応を行った。	
対 象	大学生（12 人）	
実施時期	令和 7 年 6 月～12 月	
主な意見と活用方法等	本プログラムに参加した 3 大学の計 3 チームは、それぞれ国際会議参加者に向けたおもてなしプログラムを検討した。検討の過程では、「国際会議の場で自分たちが学んできた語学力を生かしたい」「横浜の歴史や文化を伝えたい」「横浜の SDGs 商品の魅力を発信したい」といった意見が学生から挙がった。こうした意見を踏まえ、各チームは企画を具体化し、参加者同士の交流促進や横浜の魅力発信、市内回遊の促進を目的として、地元のお菓子の紹介や縁日体験など、オリジナリティあふれるコンテンツを提供した。	

取組②	横浜未来の文化ビジョン策定に向けたこどもたちからの意見聴取 【文化振興課】	
取組内容	放課後キッズクラブでの文化事業実施の際に、参加児童へのシールアンケートを行った。また、次世代育成を目的とした、劇団四季のミュージカル鑑賞に招待した高校生へのアンケートを実施した。	
対 象	小学生(101 人)、高校生（83 人）	
実施時期	令和 7 年 7 月～ 8 月	
主な意見と活用方法等	高校生から「ネットが普及している今だからこそ、自分よりもっと下の世代の子たちに『生』の文化体験の素晴らしさ・楽しさを知ってもらえる取組を進めてほしい。」「体験格差を減らす 1 つの目的としても、無料や割引などで体験ができる機会が増えればいいと思う。」などの意見があった。 これらを、「横浜未来の文化ビジョン」の「ビジョン 1 「誰もが自分の夢に向かって進めるまち」の実現のための施策」における「1-1 ■こどもたちの文化体験機会の提供」に反映した。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	「Live！横浜」参加者の満足度やニーズ等の実態把握	中学生、高校生(410人)	令和7年12月～令和8年3月	とても満足・やや満足と答えた割合は約97%だった。 参加者の約97%が満足と回答していることから、引き続き次世代育成事業を推進していく。	にぎわい創出戦略課
2	横浜市 MICE 次世代育成事業に参加したことからの意見聴取	中学生、高校生(約10人)	令和8年2月1日	・高い満足度:多くの参加者が「とても楽しかった」「楽しかった」と好評だった。 ・業界への理解:「実際に口述講演を見学して、働き始めてからも成長できる機会があるいい仕事だと思った」という声が寄せられた。 ・意識変容:「実際に働いている方の声が聞けてよかった、もっと勉強して将来なりたいなと強く思った」という声が寄せられた。 ・活用方法:意見を基に子どもたちが夢やキャリアを思い描く手助けとなるようなプログラムとすることを引き続き検討するとともに、どのようなテーマが求められているのかを把握し、他の案件に打診していく。	観光 MICE 振興課
3	学生主導による国際会議での課題解決プログラムの企画実装	大学生(12人)	令和7年6月～12月	本プログラムに参加した3大学の計3チームは、それぞれ国際会議参加者に向けたおもてなしプログラムを検討した。検討の過程では、「国際会議の場で自分たちが学んできた語学力を生かしたい」「横浜の歴史や文化を伝えたい」「横浜の SDGs 商品の魅力を発信したい」といった意見が学生から挙がった。こうした意見を踏まえ、各チームは企画を具体化し、参加者同士の交流促進や横浜の魅力発信、市内回遊の促進を目的として、地元のお菓子の紹介や縁日体験など、オリジナリティあふれるコンテンツを提供した。	観光 MICE 振興課
4	「YOKOHAMA スポーツレクリエーションフェスティバル 2025 初心者向けスポーツ体験教室」参加者アンケートの聴取	小学1～6年生(約100人)	令和7年10月～11月	参加者の大多数から「大変満足」との評価であった。一部の参加者からは、「複数競技を体験したい」との意見もあったため、令和8年度は複数の競技を体験できるイベントとしての開催を検討している。	スポーツ振興課
5	「親子ラグビー教室」参	小学1～6年	・令和7年	ラグビーを初めて体験する参加者が多く、	スポーツ振興

	加者アンケートの聴取	生(21人)	10月12日 ・令和8年3月8日	大多数の方から「大変満足」とのアンケート結果であった。令和8年度もパス練習やミニゲームを取り入れて、親子で楽しめるイベントを実施する。	課
6	横浜マラソン関連イベント「フィニッシュテープを切ってみよう！&バックヤードツアー」における意見聴取 ①大会前日に未就学から小学校低学年までの子どもたちを対象にしたファミリー向けイベント開催 ②専門学生と連携した企画運営	①未就学児～小学校低学年(30人) ②専門学生(10人)	①令和7年10月 ②令和7年6月～10月	①イベントの満足度、満足した部分を聴取した結果、フィニッシュテープを切る体験が楽しかったという意見が多数寄せられたため、今後の企画では、「フィニッシュテープを切ってみよう」を重点的に実施するよう検討している。 ②イベント企画の構想段階において、学生がプレゼンを行い、その内容を基にイベントを実施した。学生の意見を反映した企画は以下のとおり。 ・ランナーの家族からのメッセージを会場で放送。 ・前日イベント「フィニッシュテープを切ってみよう」のゴール付近に応援ゾーンを設置。 今年度も引き続き、学生と意見交換を重ねながら、取組を進めていく。	スポーツ振興課
7	世界トライアスロン横浜大会 ①ハマトラ未来プロジェクト(大会運営参加のためのワークショップ) ②キッズプログラムにおける参加者アンケート	①大学生等(6人) ②小学生(53人)	①令和6年12月～令和8年3月 ②令和7年5月	①プロジェクトに参加した大学生等から、活動機会を増やしてほしいとの意見があったため、2026大会では従事できるポスト数の増加や活動時間の延長などを行い、活動機会の拡充を図った。 ②参加者のアンケートでは、プログラム内容について大多数の方から「大変満足」との評価を得た一方で、「集合場所がわかりにくい」「タイムスケジュールがタイトであった」「学生ともっと関わりたい」「他のプログラム内企画にも応募したかったが落選した」などの意見があった。2026大会では、集合場所やタイムスケジュールの見直しを行うとともに、参加者枠を拡大するなど、参加者の満足度向上に向けた取組を実施した。	スポーツ振興課
8	たきがしら会館におけるキッズスペース利用者に対する意見聴取	未就学児(こどもの意見数不明)	通年	武道場をキッズスペースとして活用するにあたり、利用者ニーズを把握するため、利用している子どもたちから意見を聴取した。	スポーツ振興課

				その結果、「新しい絵本やおもちゃ、遊具が欲しい」との要望が寄せられたため、絵本やおもちゃを追加するとともに、ミニ滑り台やミニジャングルジムを購入し、キッズスペースの充実を図った。	
9	芸術文化教育プログラム推進事業の参加生徒からの意見聴取	小学生、中学生(7,563人)	令和7年6月～令和8年3月	「演奏している人の顔まで見える貴重な体験ができて良かった。」「自分で考えられることが楽しかった。みんなで案を出し合ってつくれたことが良かった。」「知らないことに挑戦すると良いことやいろいろなことを学べるんだと知った。」「みんな一人ひとり違いがあって楽しかった。」「自分はダンスが苦手でできないと思ったけどやってみると楽しかった。」などの意見があった。 こどもたちに楽しんでもらえる取組であることが確認でき、今後も継続して実施していく。	文化振興課
10	国内トップレベルの舞台の観劇機会の提供に係る次世代育成事業の参加生徒からの意見聴取	高校生(83人)	令和7年7月～8月	「舞台の素晴らしさを改めて感じた。」「演じている人たちをみて、一生懸命にやることはカッコいいことだと感じた。」「また見に行きたい。」「貴重な体験をありがとうございました。」などの意見があった。 高校生にとって舞台芸術を観劇する貴重な体験機会となっており、今後も継続して実施していく。	文化振興課
11	横浜未来の文化ビジョン策定に向けたこどもたちからの意見聴取	小学生(101人)、高校生(83人)	令和7年7月～8月	高校生から「ネットが普及している今だからこそ、自分よりもっと下の世代の子たちに『生』の文化体験の素晴らしさ・楽しさを知ってもらえる取組を進めてほしい。」「体験格差を減らす1つの目的としても、無料や割引などで体験ができる機会が増えればいいと思う。」などの意見があった。 これらを、「横浜未来の文化ビジョン」の「ビジョン1「誰もが自分の夢に向かって進めるまち」の実現のための施策」における「1-1■こどもたちの文化体験機会の提供」に反映した。	文化振興課
12	横浜みなとみらいホール「金の卵を探していま	18歳以下(25人)	令和7年4月～令和7	「ソロの演奏の機会しかなかったので、合奏やアンサンブルが勉強になった。」などの意	文化振興課

	す。」参加者からの意見聴取		年 5 月	見があった。 企画の特色であるコンチェルトソリストオーデションが好評を得ていることから、継続して実施していく。	
13	横浜みなとみらいホール 「みなとみらい Super Big Band」参加者からの意見聴取	中学生、高校生(11人)	令和7年 4 月～令和8 年 3 月	「楽器の技術だけではなく、チームでの協調性において成長できた。」「準備片付けや人間関係、講師の方々にアドバイスをもらうことを通して積極性の大切さを知った。」「楽器の音色が改善されたと感じる。」などの意見があった。 演奏技術の向上に加え、協調性などの成長を実感する意見が多かったため、演奏曲の選定を含め、メンバーが主体的に行動する体制を継続して実施していく。	文化振興課
14	横浜みなとみらいホール 「10 代のためのパイプオルガン・レッスン」参加者からの意見聴取	高校生以下の 10 代(4人)	令和7年 10 月～令和8年 3 月	「本番に向けて着実に成長できた。」「内気な性格ですが、舞台に出るという目標を持ち、人生で忘れられない日を迎えることができました。今後の自信になりました。」などの意見があった。 修了演奏会を目標としたレッスンは、多くの受講者が成長を実感しており、高い評価が得られたことから、同様の構成で継続して実施していく。	文化振興課
15	横浜みなとみらいホール 「こどもの日コンサート」における中学生プロデューサーによる公演制作	中学生(21人)	令和 6 年 10 月(検討開始)～令和7年5月(コンサート本番)	コンサートで演奏するメドレーの選曲、曲順(構成)、広報などについて、中学生プロデューサー会議で意見交換を行い、コンサートの企画に反映した。 「友情と希望」というテーマに沿って、演奏曲目「エルガー：行進曲(威風堂々)第 1 番」の日本語歌詞を中学生プロデューサーが考え、児童合唱で披露した。	文化振興課
16	横浜みなとみらいホール 「こどもの日コンサート」における中学生プロデューサー参加者からの意見聴取	中学生(21人)	令和 6 年 10 月(検討開始)～令和7年5月(コンサート本番)	「最初は不安が大きかったが、意見を共有して良いものが作れて貴重な経験になった。」「今年の活動は自身にとって 3 回目であり、今年が参加できる最後の年ですが、今年の選曲会議が一番白熱したことが印象的でした。」「プロデューサー全員が一丸となって取り組んでいて、とても良いコンサートになったと思う。」などの意見があった。	文化振興課

				参加者がやりがいや自身の成長を感じており、観客からも好評を得ているため、継続して実施していく。	
17	横浜みなとみらいホール 「こどもの日コンサート」 来場者アンケート	20代までの 来場者(47人)	令和7年5月5日	「とても素敵でした。中学生プロデューサーやりたいです。」「演奏も合唱も中学生がプロデュースというコンセプトも…素晴らしかったです。また来年も来たいと思います。」などの意見があった。 家族で楽しめる内容や中学生プロデューサーの取組も好評のため、継続して実施していく。	文化振興課
18	横浜みなとみらいホール 「こどもフェスタ みなとみらい遊音地」来場者アンケート	20代までの 来場者(57人)	令和7年8月7日～10日	「通常は見る事が出来ないホールの裏を見ることができ、益々みなとみらいホールのファンになりました。」などの意見があった。 夏休み期間にこどもと楽しめる多様なプログラムが好評であるため、一部内容の見直しを行い、継続して実施していく。	文化振興課
19	横浜能楽堂普及公演「こども狂言堂」におけるアンケート実施	18歳以下の 来場者(55人)	令和7年8月2日	「狂言が学校でやったものもあり、とてもわかりやすかったです。また、友達と一緒にやりたいです。」「教科書にもある有名なものでわかりやすかったです。」などの意見があった。 内容が親子ともに好評であることが確認できたため、翌年度も継続して実施していく。	文化振興課
20	横浜能楽堂「こども狂言ワークショップ」におけるアンケート実施	小学生、中学生(12人)	令和7年8月4日～6日	「楽しい時間をありがとうございました。」「解説の先生がとてもよかった。まだまだお話をうかがいたかったです。お話したい事がたくさんあるのが伝わってくる様です。」などの意見があった。 内容が親子ともに好評であることが確認できたため、翌年度も継続して実施していく。	文化振興課
21	横浜市民ギャラリーあざみ野「中高生を対象としたワークショップおよび、終了後アンケート」	中学生、高校生(5人)	令和7年8月6日	「とても面白かったです。初めての視点から街のことを考えることができました。」「みんなで何かを作るという経験があまり無かったので新鮮でした。アイデアを出し合い一つにまとめてくのは難しかったけれど面白かったです。」などの意見があった。 今後の横浜市民ギャラリーあざみ野の運営に活用していく。	文化振興課

22	関内ホール「親子で楽しむ0歳児からのコンサート参加者アンケート」	未就学児、小学校低学年(2人)	・令和7年8月31日 ・令和8年2月11日	「風船が楽しかった。」「ステージに上がったのが楽しかったです。」などの意見があった。 こどもが楽しめることで、親も大変満足されウェルビーイングなイベントであることが確認でき今後も継続して実施していく。	文化振興課
23	関内ホール「馬車道アートフェスタ2025 オカピのわくわくコンサート参加者アンケート」	未就学児、小学生、中学生(17人)	令和7年11月3日	「楽しかった。」「とても楽しかったです。また来年も来たいです。」などの意見があった。 スチールパンという珍しい楽器という部分で大変好評で、意見を踏まえ、いろんな楽器を使ったコンサートの新たな企画にも繋げる。	文化振興課
24	関内ホール「1日オープナー「ピアノ解体ショー」参加者アンケート」	未就学児、小学生、中学生(34人)	令和7年11月3日	「ピアノのハンマーが動物の毛でできているのは知らなかったのでおどろきました。」「ぴあにすとなってみたいとおもいました。」「ピアノの知らない所がわかったのよかったです。」などの意見があった。 こども、親にとっても貴重な体験となることが確認できたため、継続して実施していく。	文化振興課
25	大佛次郎記念館「ビブリオバトル」におけるアンケート実施	小学生、中学生、高校生(14人)	・令和7年11月2日 ・令和7年11月29日	「きんちょうして、うまくはなせなかったけれど、中学生になったらまたさんかしてみたいとおもいました。」「自らの発表を楽しむことができた上、他の発表もとても興味深く良い刺激になりました。機会があればまた参加したいです。」などの意見があった。 参加者の満足度も高く、次回への参加希望の声も多いため継続して実施していく。	文化振興課
26	横浜市長浜ホール「夏休みこども体験教室」本物の顕微鏡でミクロの世界を探検しよう！このワークショップにて小学生からアンケートの実施	小学生(17人)	令和7年8月2日	「私は髪についているキューティクルが見たかったのですが、見れて嬉しかったです。」や「いつもはしれない小さな世界が体験出来て良かったです。」といった意見があった。 参加者の満足度も高く、顕微鏡で観察する微生物等の種類や、次年度開催のためのワークショップの内容にいかしている。	文化振興課
27	大倉山記念館「高校生ギャラリー・ミュージックフェスタ」におけるアンケート実施	横浜市北部の高校生徒(37人)	令和8年1月20日～1月25日	「友達が出展しているので見に来ました。思った以上に上手く書いていてびっくりした」「我々運動部だとこんなに細かいことは出来ないと思った」「デッサン画はプロの漫	文化振興課

				画家のようで、すごいと思った」「楽器演奏でソロパートの女子は半端ない感じでびっくり」など、クオリティの高さに驚く声があった。 「もっと多くの作品を飾ってほしい」「生徒自身による作品解説の機会がほしい」という要望に応じて高校生の活躍の場の拡大を検討していく。	
28	大倉山記念館「第41回 小さな丘のメリークリスマス・クリスマスがいっぱい展」におけるアンケート実施	未就学児、小学生低学年(61人)	令和7年12月6日～7日	「お父さんと外で椅子が作れておもしろかった」「バルーンのふうせんがもらえてうれしかった」「じっけんがたのしかった」「外でかったポップコーンがおいしかった」など、家庭では難しい体験が好評だった。 今後もこどもたちの要望を踏まえた企画を整えて事業を継続していく。	文化振興課
29	大倉山記念館「第41回 大倉山こどもフェスティバル」におけるアンケート実施	未就学児、小学生低学年(51人)	令和7年5月3日～4日	「とても楽しかった」「また来ます」等の好評が得られた。また、コンサート、指揮者体験、レジンクラフトが特に強い支持があった。 アンケートを踏まえ、次回の改善に役立てる。	文化振興課
30	陶芸センター「夏休み親子陶芸体験」におけるアンケート実施	中学生以下の子ども(86人)	令和7年7月20日～25日	「楽しかった。」「作品に色を塗るのがよかったです。」「短時間で体験できるのがよかった。」「手をあげていなくても先生がおしえてくれていいところだなと思いました。」などの意見があった。 内容がこどもたちにとって好評であることが確認できたため、翌年度も実施予定。	文化振興課
31	陶芸センター「子ども電動ロクロ大会」におけるアンケート実施	中学生以下(37人)	令和7年7月29日	「知らないことを教えてくれたり、やってみたかったことをやれた。」「ロクロができるのが楽しかった。おもっていたよりむずかしかった。」「家庭ではできないような体験ができました。」「説明がわかりやすかった。」などの意見があった。 内容がこどもたちにとって好評であることが確認できたため、翌年度も実施予定。	文化振興課
32	吉野町市民プラザ自主事業「夏休みキッズアート講座」におけるアンケート実施	小学生(19人)	令和7年7月27日	「楽しかった。」「少しむずかしいところもあったけど作品ができあがってうれしかった。」などの意見があった。 内容がこどもたちにとって好評であること	文化振興課

				が確認できたため、違ったテーマの題材にて翌年度も実施予定。	
33	吉野町市民プラザ自主事業「夏休みおやこホール探検ツアー」におけるアンケート実施	小学生(9人)	令和7年8月9日	「いすがはいたりもどったりたのしかった。」「じぶんでいろをかえられたのがおもしろかった。」「でんきやおとのしくみがおもしろかった。」などの意見があった。 内容がこどもたちにとって好評であることが確認できたため、翌年度も実施予定。	文化振興課
34	吉野町市民プラザ自主事業「おやこ映像講座」におけるアンケート実施	小学生、中学生(3人)	令和7年11月9日	「楽しかった。またいきたい。」「へんしゅうするのがたのしかった。」などの意見があった。 内容が参加したこどもたちにとって好評であることが確認できたが、応募が少数だったため、基本的に隔年開催であるが、次回同形態で行うかどうか検討中。	文化振興課
35	吉野町市民プラザ自主事業「和太鼓ワークショップ」におけるアンケート実施	小学生、中学生(9人)	令和8年3月15日	「リズムがたのしかった。」「えんそうしたことですっきりした。」「たくさんのたいこがあったのと先生のたいこの話がおもしろかった。」「即興で全てしている所がすごかったです。」などの意見があった。 今回初開催のイベントであったが内容が参加したこどもたちにとって好評であることが確認できたが、応募が少数だったため、次回開催を検討中。	文化振興課
36	岩間市民プラザ自主事業「子どものための夏休み日本舞踊ワークショップ」における意見聴取	小学生(17人)	令和7年7月30日～8月2日	「浴衣の着方を覚えたので、盆踊り大会などで自分で着たり帯をしめたりしたい。」「友だちに教えたい。」などの意見があった。 講師と共有し、参加者の意見から改善が必要な点等があれば検討している。こどもたちにも好評であることが確認できたため、概ね同様の内容で翌年度も実施予定。	文化振興課
37	横浜にぎわい座自主事業「マジック体験講座」におけるアンケート実施	小学生(7人)	令和7年8月3日	「マジックが習えてたのしかった」「話のしかた、もののみせ方などマジックだけに通じること以外も教えてくれたため、とても役に立った」などの意見があった。 事業の評価や改善のための材料として活用した。 内容がこどもたちにとって好評であることが確認できたため、概ね同様の内容で翌年	文化振興課

				度も実施予定。	
38	野庭の魅力発信を目指した壁画等パブリックアート	制限なし(約350人) ※平易な言葉を使うとともに、選択肢の数を減らすなど、こどもでも回答しやすい内容とした。	令和7年 10月5日	赤、黄、緑、青、紫から選んでもらった。結果としては青色が若干多かったが全体的にバランスよく投票され、色々な色を使ってほしいという意見をもらいました。 それを踏まえ、制作にあたっては多くの色を使ったデザインを計画した。	創造都市推進課

■ 経済局の取組

取組①	YOXO NEXT 起業ラボにおける参加者へのアンケート 【イノベーション推進課】	
取組内容	「起業家精神(アントレプレナーシップ)」を身に付けることを目的とした中学生・高校生対象のワークショップにおいて、意見聴取を実施し、今後の次世代起業人材育成プロジェクトの内容検討の参考とした。	
対 象	中学生、高校生（約 60 人）	
実施時期	・ 令和 7 年 8 月 23 日 ・ 令和 7 年 8 月 24 日 ・ 令和 8 年 1 月 10 日 ・ 令和 8 年 1 月 11 日	
主な意見と活用方法等	「起業家のリアルな話が聞けて良かった」、「起業が身近なものになった」、「もっといろんな業種の起業家に会いたい」などの意見があった。 こどもたちからの意見を参考に、令和 8 年度は起業や地域課題をより身近に感じ、関心を一層高められるよう、新たなプログラムを追加した。	

取組②	いちば食育出前授業における参加者へのアンケート 【経営支援課】	
取組内容	市場で働くプロが小学校へ出向き、「生鮮食料品の選び方」や「流通の仕組み」について授業を行う「いちば食育出前授業」に対する感想や、食への興味関心について、アンケートを通して把握した。	
対 象	小学 5 年生（約 480 人）	
実施時期	令和 7 年 6 月～令和 8 年 1 月	
主な意見と活用方法等	「実際に生鮮食料品に触れる体験や栄養のことを学び、食べる機会を増やそうと思った」、「新鮮な野菜・魚の見分け方が印象に残った」などの意見が多く見られた。 アンケート結果はいちば食育出前授業を実施する事業者へフィードバックし、好評であった内容については継続的な実施に向けて検討を行うなど、今後の授業内容の充実に活用した。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	YOXO NEXT 起業ラボ における参加者へのアンケート	中学生、高校生(約 60 人)	・令和7年8月 23 日 ・令和7年8月 24 日 ・令和8年1月 10 日 ・令和8年1月 11 日	「起業家のリアルな話が聞けて良かった」、 「起業が身近なものになった」、「もっといろいろな業種の起業家に会いたい」などの意見があった。 こどもたちからの意見を参考に、令和8年度は起業や地域課題をより身近に感じ、関心を一層高められるよう、新たなプログラムを追加した。	イノベーション推進課
2	YOXO FESTIVAL における来場者へのアンケート	制限なし(約 200 人) ※こどもへの意見聴取にあたっては、年齢に応じて平易な言葉遣いで声掛けを行うなどの工夫を行った。	令和8年1月 31 日～ 2月1日	「普段できない体験ができて嬉しかった」、 「出展者からためになる話を聞いた」、「新技術を体感できた」などの意見があった。 来場目的・イベントへの感想等を把握し、次回以降の開催に活用する。	イノベーション推進課
3	京浜臨海部立地企業における現場見学会参加者へのアンケート	高校生(25 人)	令和7年 8 月 7 日	「実際に職場を見学したり、先輩社員の話を聞いたりして良い経験になった」との意見が多かった。 一方で、少数だが、「見学や座談会の時間ももっと欲しかった」との意見もあった。 おおむね満足の回答であったが、今後のよりよい手法を検討すべく活用を行う。	企業投資促進課
4	「こどもコマ大戦」アンケート	小学生(28 人)	令和7年 8 月 23 日	アンケートの結果、全ての回答者から本事業への参加について「とても良かった」または「良かった」との回答が得られており、本事業は参加者から一定の満足度を得ているものと考えられる。 一方、自由意見欄には、当日の運営等について改善を求める意見も一部見受けられたため、いただいた意見を今後の事業運営に活用し、次年度以降、更なる満足度の向上に努める。	ものづくり支援課
5	インターンシップ事業における参加学生へのアンケート	大学生(1人)	令和7年 9 月 3 日	「インターンシップの内容が大学での学習内容と関連しており理解が深まった、職員とのディスカッションを通じて多様な視点や実務	消費経済課

				に関する話等を聞くことができた」との意見があった。 インターンシップの充実度やカリキュラムに対する要望等を把握し、今後参加する学生が当課の事業内容をはじめとする横浜市の施策に対して、より関心を持てるよう、インターンシップ事業に反映する。	
6	エシカル消費啓発事業における、イベントでの「エシカル消費めぐりえ」参加者へのアンケート	未就学児～小学校の児童 (81人)	令和7年 11月 9日	人気アニメとコラボしたエシカルめぐりえの実施後アンケートにおいて、「これからエシカル消費を実践してみようと思った」と回答した参加者が多く見られたことから、若年層向けのエシカル消費啓発に一定の効果が認められた。 そのため、令和8年度においても、イベントでのめぐりえブースの出展やクイズの実施など、こどもが興味を持ちやすい内容による啓発を継続して実施することとした。	消費経済課
7	消費生活啓発イベントにおけるこどもからのアンケート収集	制限なし (117人) ※親子で参加した来場者に子供向けアンケートを配布	令和7年 10月 19日	イベントは楽しかったかとの問いに「とても楽しかった」「楽しかった」が98%、またイベントに参加したいかとの問いに「とてもそう思う」「そう思う」が100%で高評価をいただいた。 印象に残った啓発物や参加型ゲームのアンケート結果を、今後開催するイベントでの啓発物の作成やゲームの企画の際に参考にしていく。	消費経済課 (消費生活総合センター)
8	「匠の小学校」参加者へのアンケート	小学生(147人)	令和7年 8月 3日	アンケートでは9割以上の回答者の方から「大満足」、「満足」との回答をいただいた。一方、「1個しか体験していない」「もうちょっといっぱいできたらいい」との意見があった。 令和8年度は、各体験の会場、内容、開始時間をチラシに一覧表示することで、複数の体験への参加をしやすいとした。	雇用労働課 (横浜市技能文化会館)
9	いちば食育出前授業における参加者へのアンケート	小学5年生 (約480人)	令和7年 6月～令和8年1月	「実際に生鮮食料品に触れる体験や栄養のことを学び、食べる機会を増やそうと思った」、「新鮮な野菜・魚の見分け方が印象に残った」などの意見が多く見られた。 アンケート結果はいちば食育出前授業を実施する事業者へフィードバックし、好評であった。	経営支援課

				た内容については継続的な実施に向けて検討を行うなど、今後の授業内容の充実に活用した。	
10	市場見学における参加者へのアンケート	小学5年生 (約 180 人)	令和7年9月～10月	流通に関わる人の多さや市場の施設、品質を保つための工夫についての意見が多く見られた。 模擬せり体験や活魚水槽の見学など、児童から好評であった内容を中心に、今後の市場見学内容の充実に向けた検討を、市場見学を実施する事業者とともに行った。	経営支援課
11	お魚料理教室における参加者へのアンケート	小学4年生以上(約 70 人)	令和7年5月～令和8年3月	「講師の名札を付けてほしい」などの教室運営に関する意見のほか、教室の継続開催を望む声や、さばいてみたい魚についての意見が寄せられた。 教室運営の改善に活用するとともに、「さばいてみたい魚」として寄せられた要望を踏まえ、その魚を題材とした教室の開催について場内事業者と検討を行った。	経営支援課
12	「横浜市場まつり 2025」食育ブースにおける参加者へのアンケート	制限なし(約 10 人) ※アンケートの設問中に【「食育体験ブース」を選んだお子様は～】と明記した。	令和7年 11月 9 日	ブース内容に関する感想や、魚の展示について「ほかの種類魚も見てみたい」といった意見が寄せられた。 いただいた意見を踏まえ、ブース内容や魚の展示方法についてブースの運営を行う事業者とともに検討を重ねている。	経営支援課

■ こども青少年局の取組

取組①	青少年地域活動拠点の当事者視点を生かした広報活動 【青少年育成課】	
取組内容	青少年地域活動拠点の魅力を発信する広報ボランティアを中学生・高校生・大学生から募集し、拠点を利用する高校生やスタッフへのインタビューを行った。 同世代の若者が取材することで、等身大の意見を引き出すとともに、若者に響く拠点の魅力を記事としてまとめ、発信した。	
対 象	中学生、高校生、大学生（41 人）	
実施時期	令和 7 年 5 月～令和 8 年 3 月	
主な意見と活用方法等	青少年地域活動拠点は誰でも心地よく過ごせる居場所であり、多様な人との交流や体験の機会が得られるといった魅力が挙げられた。 若者の視点で作成した WEB 記事の掲載や拠点を紹介するパンフレット、ポスターの作成など、青少年地域活動拠点の魅力発信や利用促進につながっている。	

取組②	中学・高校生の保育所・幼稚園見学促進事業参加者アンケート 【保育・教育運営課】	
取組内容	将来に向けた保育・幼児教育の担い手を確保するため、中学・高校生を対象に、地域の保育所や幼稚園で保育士・幼稚園教諭の仕事を体験する機会を提供し、実施後に、今後の実施方法等の検討に活用するためアンケートを実施した。	
対 象	中学生、高校生（390 人）	
実施時期	令和 7 年 7 月～令和 8 年 3 月	
主な意見と活用方法等	「現場で少し働いたことで、保育士という仕事の責任の重さ、大変さややりがいを知ることができた。また、参加したい。」「ふだん幼稚園生や年下の子と接する機会があまりないので、とてもよい経験になり、次年度も参加したい。」といった意見があった。 約 9 割の参加者が「また参加したい」と回答していることから、さらに多くの中高生が参加できるよう、受入園を増やすとともに、中高生と園とのマッチングの円滑化を図った。あわせて、ボランティア保険へ市が一括して加入することで、参加者の利便性を高めた。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	地域ユースプラザ利用者アンケート	15～39 歳までの利用者(89 人)	令和7年 11 月～12 月	「外に出る機会が増えた」、「家族以外の人と関わりが増えた」等の意見が寄せられた。 今後のプログラム実施や施設運営の改善に活用していく。	青少年育成課
2	SNS 相談事業(よこはま子ども・若者相談室)アンケート	39 歳までの利用者(相談終了後 350 人、年度末 142 人)	・相談終了後(通年) ・令和8年3 月	「相談に乗ってもらい心が軽くなった」、「文字を打つことでゆっくり気持ちを整理したり、後で見返すことができるのがよかった」等の意見が寄せられた。 今後の相談対応や事業の改善に活用していく。	青少年育成課
3	青少年地域活動拠点利用者アンケート	中学生、高校生を中心とした、大学生までの拠点利用者(430 人)	令和7年8 月～10 月	「学校以外の人たちと関わることができ、新しい考え方を知る機会になっている」、「毎年ボランティアに参加しており、活動が楽しい」といった意見が寄せられた。 多様な交流機会やボランティア活動の充実を図るとともに、安心して過ごせる居場所づくりや事業運営の改善に活用していく。	青少年育成課
4	野島青少年研修センター体験教室参加者アンケート	小学生、中学生(54 人)	令和7年6 月～令和8 年3 月	お泊り会や野外キャンプなどの宿泊を伴う体験活動を希望する意見が多く寄せられた。 調理体験や特別な工作など、研修センターの施設機能を活用したプログラムを希望する意見が多く寄せられた。 次年度の体験教室の事業企画に反映していく。	青少年育成課
5	青少年地域活動拠点の当事者視点を生かした広報活動	中学生、高校生、大学生(41 人)	令和7年5 月～令和8 年3 月	青少年地域活動拠点は誰でも心地よく過ごせる居場所であり、多様な人との交流や体験の機会が得られるといった魅力が挙げられた。 若者の視点で作成した WEB 記事の掲載や拠点を紹介するパンフレットやポスターの作成など、青少年地域活動拠点の魅力発信や利用促進につなげている。	青少年育成課
6	「こども・若者の居場所と体験を考えるシンポジウム」における意見聴取	高校生、大学生(14 人)	令和8年 3 月	シンポジウム参加者によるグループトークでは、若者が安心して過ごせる居場所の重要性や、居場所の魅力に関する情報発信の必要性、居場所に求められる機能・環境、利用しやすい運営方法等について意見が出さ	青少年育成課

				れた。 今後の居場所づくりや広報手法の検討に活用していく。	
7	横浜市青少年育成センターの次世代人材育成事業に関わる大学生ボランティアからの意見聴取	大学生(19人)	令和8年2月～3月	ボランティア活動を通じてコミュニケーション力の向上や、自身の成長を実感しているとの意見や、中高生が自由に過ごせる居場所の充実を求める意見があった。 大学生ボランティアの参画機会の充実や、中高生の居場所づくりの推進に活用していく。	青少年育成課
8	令和7年度放課後キッズクラブ児童向けアンケート	小学生(1,484人)	令和8年1月～4月	こどもの意見の反映状況やクラブでの過ごし方、プログラム内容、スタッフ対応等に対する児童の意見を聞いている。 アンケート結果は区こども家庭支援課で集計・分析し、運営法人の評価に活用している。 区こども家庭支援課から運営法人へ結果をフィードバックすることで、事業の質の向上や運営改善の検討に活用している。	放課後児童育成課
9	令和7年度放課後キッズクラブ・放課後児童クラブ利用者アンケート	小学生(4,883人)	令和7年11月～12月	「クラブは楽しいですか」との設問に、5段階評価でアンケートを実施しており、令和7年度の結果では、「楽しい」、「どちらかという」と楽しい」と回答した児童の割合が94.5%となった。 アンケート結果は、小学生の放課後の居場所づくりに関する施策の効果を測る指標として活用している。	放課後児童育成課
10	小学生の朝の居場所づくりモデル事業に係るアンケート	小学生(32人)	令和7年7月～8月	「朝の時間はいつも何をして過ごしていますか」(複数回答可)の設問に対して、1位が「折り紙・塗り絵」で41%、2位が「読書」で16%だった。 この結果を受けて、令和8年度の物品を用意する際に、新たに折り紙の書籍を追加した。また、一部の小学校では、小学校の協力・理解のもと、学校図書やタブレット端末の読書アプリを朝の時間中に使えるようにした。	放課後児童育成課
11	放課後キッズクラブ・放課後児童クラブにおける夏休みの昼食提供事	小学生(436人)	令和7年8月	「美味しかった」、「量がちょうど良かった」、「全部食べた」という意見が前年度の調査と比較して増加した。	放課後児童育成課

	業に関するアンケートについて			おかずとして入れてほしいものの1位が「ハンバーグ」で48件、2位が「唐揚げ」で43件と、特に多かった。この2メニューを提供する日を増やすことでこどもの意見を反映した。	
12	プレイパーク支援事業に係るアンケート	市内のプレイパークを利用する児童(178人)	令和7年6月	「プレイパークで遊ぶのは楽しいですか」との設問に5段階評価でアンケートを実施しており、「とても楽しい」、「まあまあ楽しい」と回答した割合が97%を超えた。 こうした意見も踏まえ、より多くのこどもたちが、自然の中で豊かな体験の機会が得られるよう、令和8年度から、新たに出張プレイパークを開催できるよう支援を拡充した。	放課後児童育成課
13	こどもの思いや主体性を尊重した「よこはま☆保育・教育宣言」を活用した保育・幼児教育の実践	市内の保育・教育施設に所属する未就学児	日常的に実施(通年)	各園において、こどもからの言葉をはじめ表情や行動なども含めた日々の生活や遊びの中で生まれる「もっと知りたい」、「やってみたい」、「どうしたらできるかな」といった思いや気付き、興味・関心を大切に、遊びや活動内容、環境づくりに反映している。 また、クラス運営や行事づくりへの参画、話し合いによるルールづくりなど、保育者とこどもが対話を重ねながら園生活を共に創り上げる取組を進めている。	保育・教育支援課
14	中学・高校生の保育所・幼稚園見学促進事業参加者アンケート	中学生、高校生(390人)	令和7年7月～令和8年3月	「現場で少し働いたことで、保育士という仕事の責任の重さ、大変さややりがいを知ることができた。また、参加したい。」、「ふだん幼稚園生や年下の子と接する機会があまりないので、とてもよい経験になり、次年度も参加したい。」といった意見があった。 約9割の参加者が「また参加したい」と回答していることから、さらに多くの中高生が参加できるよう、受入園を増やすとともに、中高生と園とのマッチングの円滑化を図った。あわせて、ボランティア保険へ市が一括して加入することで、参加者の利便性を高めた。	保育・教育運営課
15	「保育・幼児教育の魅力発信」に関する家庭科授業・職業講話等での出前	中学生(茅ヶ崎中学校3年生、1	令和7年11月～12月	「2年生時の職場体験と合わさることで、保育・幼児教育の魅力が一層伝わった。」、「元々あまり興味のない仕事だったが説明を	保育・教育運営課

	授業参加者アンケート	90人)		聞いてみて保育士はこどもの発育を支援する上で重要な責任があることを知り、挑戦してみたいと感じた。」といった意見があった。 次年度の授業内容の検討に活用する。	
16	保育に携わる仕事の魅力を発信するイベント「よこはま保育フォーラム」参加者アンケート	中学生、高校生、養成校の学生(24人)	令和7年9月	「保育士の生の声が聞けるとよい。」「保育士の仕事内容や施設でのサポート内容などがわかってよかった。(福利厚生の話は特にしっかりと聞きたい。)」といった意見があった。 これらの意見を、次年度の取組内容を検討する際に活用する。	保育・教育運営課
17	ヤングケアラーの実態を把握するための児童・生徒へのアンケート及び相談を希望する児童・生徒との面談	小学4年生、中学1年生、高校1年生(41,242人、面談81人)	令和7年12月	アンケートにより、実際に家族の世話を担う児童・生徒が一定数存在していることが分かった。 面談内容は、「ヤングケアラー」に関する相談が約5割(47.6%)、「ヤングケアラー」以外の学校生活などに関する相談が約3割(32.5%)見られた。 アンケート及び面談をきっかけとして、関係部署が連携して保護者と関係を築き、継続的な相談・支援につなげることで、ヤングケアラーとして新たな支援開始につながった。	こども家庭課
18	児童福祉施設等に入所しているこどもを対象とした意見表明支援員による意見聴取	児童福祉施設等に入所している児童(144人)	児童福祉施設等ごとに年に2回訪問	施設や学校での生活に関すること等児童からの意見や相談があった場合は、児童本人の同意のうえ児童相談所や施設に共有し、必要に応じて回答している。 (アドボケイト:意見表明支援員は、こどもの声を大きくするマイクのような存在として、こどもたちが言いたいこと話したいことを拾い上げ、関係する大人に届ける役割を果たしている。)	こどもの権利擁護課
19	児童福祉施設等に入所しているこどもを対象としたはがき(こどもの権利擁護課あて)による意見聴取	児童福祉施設等に入所している児童(5人)	児童福祉施設等の入所時に児童相談所職員がはがきを直接手渡し	施設や学校での生活に関すること等児童からはがきが届いたときは、市役所から直接本人に返答し、児童本人の同意のうえ児童相談所や施設に共有している。	こどもの権利擁護課
20	一時保護所に対する外	一時保護所に	年1回	「希望は聞いてもらえているか」、「嫌なこ	こどもの権利

	部評価に伴うこどもへのアンケート	入所している児童(136人)		とや困っていることはあるか」などのアンケート結果について、評価委員に内容を確認してもらい、実地での職員ヒアリングや、評価に当たって参考としている。	擁護課
21	一時保護所入所児童を対象としたアンケート等による意見聴取	一時保護所(4所)入所中の児童(620人)	・入所児童アンケート(月1回) ・退所時アンケート ・意見箱の設置(通年) ・意見表明支援員の訪問(月1回、R8年度からは月2回) ・入所児童によるこども会議(月1回)	一時保護所入所中の児童に対し、アンケートや意見箱の設置、意見表明支援員の訪問による意見聴取、入所中児童を対象としたこども会議等により、こどもたちの意見や希望を聴き取り、一時保護所でのよりよい生活や支援の質の向上及び運営の信頼性の確保を図った。	中央児童相談所
22	一時保護所における盗撮事件に関する再発防止策検討のためのアンケート	令和7年10月1日時点で一時保護所(4所)に入所している全児童のうち、回答を希望しない児童、虐待等の影響により実施が難しい児童を除く(123人)	令和7年10月	「優しい職員に相談しやすい」、「声をかけてほしい」、「意見箱を設置してほしい」、「紙に書いて伝えたい」といった意見を基に、こどもが相談しやすい環境づくりを進めた。 また、一時保護所で生活する上で、「部屋が狭い」、「他児との関係で困っている」、「親と離れたくない」といった不安の声や、「防犯カメラの設置」(賛否あり)、「個室を希望」、「職員の態度改善を希望」など、安全、安心な生活に関する意見もあり、これらを参考に再発防止策を検討した。	中央児童相談所
23	児童相談所における健全育成事業参加児童に対するアンケート	健全育成事業参加児童(156人)	プログラム実施後各所年2～3回(主に夏・冬)	「楽しかった」、「景品をふやしてほしい」といった意見を基に、次回以降のプログラムの企画に活かした。	中央児童相談所
24	障害児入所施設に入所	高校生(20	令和7年4	本人や保護者一人ひとりの意向を確認し	障害児福祉保

	している児童を対象とした地域移行カンファレンス	人)	月～令和8年3月	ながら、18歳以降の生活を検討し、具体的な生活の場を見つけることができた。 例えば本人の希望する仕事、生活する場所の意見を踏まえて、実習先の調整、見学する施設の調整などを行った。 本人の希望する生活の実現に近づけることができた。	健課
25	次期障害者プラン策定に向けた当事者へのグループインタビュー	中学生、高校生(4人)	令和7年8月	「必要な支援を受けることは重要なので、今の制度を継続してほしい。」「『障害』という言葉がなくなるくらいの社会になってほしい。」「ヘルプマークが浸透してきたことで生活しやすいと感じる場面が増えた。」といった意見があった。 また、「直接話を聞いてもらえる機会があることがうれしい。」との感想をいただいた。 いただいた意見も踏まえ、「障害理解の促進」を次期障害者プランの中に位置づける方向で検討を進めている。	障害児福祉保健課

■ 健康福祉局の取組

取組①	地域福祉保健計画啓発リフレクターの作成		【福祉保健課】
取組内容	地域福祉保健計画啓発のリフレクターの作成にあたり、より効果的なものとなるよう、デザインに意見を反映した。 夏休みの親子イベントにおいてこどもからの意見収集を実施し、「ちふくちゃん」のポーズ案についてシール投票形式で意見を把握した。		 
対 象	未就学児、小学生（約 50 人）		
実施時期	令和 7 年 8 月 7 日		【「ちふくちゃん」リフレクター】
主な意見と活用方法等	シール投票の結果、「ステッキを持ち、にっこり笑った」ちふくちゃんのポーズが最も人気となり、採用された。 これにより、こどもの意見を反映したリフレクターのデザインとした。完成したリフレクターは各区に配布し、区計画推進の啓発物品として活用している。		

取組②	寄り添い型学習支援事業 中高生アンケート		【生活支援課】
取組内容	利用者の内面的成長を確認し、一人ひとりに寄り添った学習支援の実現に向けた効果検証のため、寄り添い型学習支援事業の利用開始前・講座参加時・年度末にアンケートを実施した。		
対 象	中学生（851 人）、高校生世代（高校に在学していない方を含む）（365 人） ※登録者数（令和 7 年度実績）		
実施時期	利用開始前、講座参加時、年度末		
主な意見と活用方法等	局、区、受託者でアンケート結果について共有し、より一人ひとりに寄り添った学習支援が実現できるよう、アンケート結果を参考にした取組を展開している。		

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	地域福祉保健計画啓発リフレクターの作成	福祉保健課	未就学児、小学生（約 50 人）	令和 7 年 8 月 7 日	シール投票の結果、「ステッキを持ち、にっこり笑った」ちふくちゃんのポーズが最も人気となり、採用された。 これにより、こどもの意見を反映したリフレクターのデザインとした。完成したリフレクター

					ーは各区に配布し、区計画推進の啓発物品として活用している。
2	女性の健康づくり推進検討部会	健康推進課	大学生(1人)	令和7年4月～令和8年3月	「若い世代では、待ち時間の長さや診察の流れが分かりにくいことなどから、婦人科受診に対してハードルの高さを感じる人がいる」との意見を踏まえ、女性の健康づくり応援事業において、若年層に向けた啓発の取組を強化した。
3	若者向け女性の健康づくり啓発	健康推進課	大学生、専門学校生(5～10人)	令和7年5月～令和8年3月	若年層に効果的に情報を届ける広報媒体について、専門学生らが意見やアイデアを出し合い、ポスター及び Instagram 向けデザインを作成し、公表した。
4	青年期対象の歯科の啓発	健康推進課	専門学校生(5～10人)	令和7年5月～令和8年3月	学生の目にとまるポスターのイメージから擦り合わせ、デザインしてもらった。ポスターにのせる文言についても、どんな言い回しが響くかを考えてもらい、歯科健診の重要性を伝えるポスターとなった。
5	イベント教室アンケートの実施	健康推進課	未就学児、小学生(110人)	・令和7年5月3日 ・令和7年8月2日～3日 ・令和7年1月30日	体操教室や水泳教室のイベントで、「とても楽しかった」「定期的に開催してほしい」などのご意見があった。今後も同様のイベントを実施する際には、アンケートを実施し、イベントの企画に幅広い世代の声を反映させていきたい。
6	寄り添い型学習支援事業 中高生アンケート	生活支援課	中学生(851人)、高校生世代(高校に在学していない方を含む)(365人) ※登録者数(令和7年度実績)	利用開始前、講座参加時、年度末	局、区、受託者でアンケート結果について共有し、より一人ひとりに寄り添った学習支援が実現できるよう、アンケート結果を参考にした取組を展開している。
7	【こどもアドベンチャーカレッジ 2025】戦後 80 年 こどもたちが見た戦争と感じた平和	生活支援課	小学3～6年生(22人)	令和7年 8 月 5 日	「戦争についてより詳しく学びたい」「戦争体験談を聞き、戦争の悲惨さがよく分かった」「平和の大切さを改めて感じた」等の意見が寄せられ、戦争や平和への関心の高まりがうかがえた。

					こうした意見を踏まえ、県・市遺族会と連携しながら、今後の事業内容の検討に活かし、子どもたちが戦争や平和について考える機会を設けるとともに、事業内容の充実を図る。
8	第5期横浜市障害者プラン策定(グループインタビュー・当事者策定検討会・当事者向けアンケート)に係るこどもからの意見聴取	障害施策推進課	制限なし(約1,030人) ※ こどもの意見表明の機会の確保のため、アンケート調査票に、ご本人の意思を確認して記入する旨の注意事項を記載する工夫を行った。	・グループインタビュー 令和7年6月～10月 ・当事者策定検討会 令和7年11月、令和8年2月 ・当事者向けアンケート 令和8年1月～2月	乳幼児期から成人期に至るまでの切れ目のない支援や、障害理解促進に関する取組が必要などの意見が寄せられた。 これらの意見は、第5期横浜市障害者プランの策定における施策の方向性及び検討テーマの参考として活用する。
9	第2期横浜市依存症対策地域支援計画策定に係るヒアリング	精神保健福祉課	小学生、中学生、高校生、大学生(約40人)	令和7年11月～12月	依存症に関する相談方法について、電話での相談は一般的ではなく、メールやSNSでの相談の方がハードルが低いこと、また、電話であってもSNSアプリの電話を用いる方が良いといった意見が聞かれた。 これらの意見を参考に、第2期計画における新たな取組として、SNSを活用した相談支援を実施予定。 普及啓発ツールとしてはショート動画が望ましいとの意見が多数聞かれたため、今後の普及啓発において、こどもたちに情報が届くよう広告手法等の見直しを進める。また、啓発物の作成にあたっては学生と連携するなど対象となる世代の意見を参考にする。

■ 医療局の取組

取組①	アレルギー疾患に係る市民意識調査におけるこどもからの意見聴取 【医療政策課】
取組内容	アレルギー疾患対策基本法及びアレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針に基づき、総合的なアレルギー疾患対策を進めるため、「アレルギー疾患に係る市民意識調査」を実施した。本調査において、アレルギーと診断されたことがある又は診断されていないが症状がある小学1年生及び中学1年生を対象に、アレルギーについて困っていることに関する設問を設け、意見聴取を実施した。
対 象	小学1年生（353人）、中学1年生（377人）
実施時期	令和7年5月14日～6月13日
主な意見と活用方法等	調査の結果、アレルギーと診断されたことがある又は診断されていないが症状があるこどものうち、7割以上がアレルギー症状により、学業や睡眠など日常生活に支障を感じていると回答した。 「どうしたら治るのか知りたい」、「花粉症にならない方法を知りたい」、「症状が出たときにどうしたらよいか知りたい」など、治療や症状への不安に関する声が寄せられた。 こうした意見を踏まえ、こどもを対象とした医師による個別相談や、妊娠期や乳幼児期の保護者への専門職による相談支援、横浜市アレルギー情報サイトなどによる情報発信を実施した。今後もこどもの意見を施策に反映しながら事業を推進していく。

取組②	メタバースを活用した小児がん患者等の交流支援事業における参加者からの意見聴取 【がん・疾病対策課】
取組内容	小児がん等の病気と向き合う子どもたちが、安心して過ごせる“新たな居場所”づくりを目的として、メタバースを活用した交流イベント等を開催し、定期的な交流機会を設けた。その事後アンケートとして「参加者と仲良くなれたか」「また参加したいか」「メタバースでどんなことをやりたいか」などの意見聴取を実施した。  
対 象	大きな病気を経験されたお子さんとそのきょうだい（メタバース交流事業参加者）（41人）
実施時期	・ 令和7年7月29日 ・ 令和7年8月22日

	・令和7年10月4日 ・令和7年11月28日 ・令和8年1月6日 ・令和8年2月14日 ・令和8年3月30日
主な意見と活用方法等	参加者アンケートで寄せられた「異空間で交流したい」という意見を踏まえ、メタバースの特性を生かし、現実では体験できない宇宙空間や雲の上のステージなどの交流空間を設けた。 「カフェなどお仕事体験をしたい」「お菓子を作ってみたい」といった声を受け、専門学校の協力のもと、焼き菓子のデザインを考える参加型ワークショップを実施した。 「仲良くなれた」「また参加したい」との回答が、8割を超えるなど高い満足度が得られており、子どもたちの興味・関心を反映した企画を展開しつつ、事業を継続している。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	アレルギー疾患に係る市民意識調査におけるこどもからの意見聴取	小学1年生 (353人)、 中学1年生 (377人)	令和7年5月14日～ 6月13日	調査の結果、アレルギーと診断されたことがある又は診断されていないが症状があるこどものうち、7割以上がアレルギー症状により、学業や睡眠など日常生活に支障を感じていると回答した。 「どうしたら治るのか知りたい」、「花粉症にならない方法を知りたい」、「症状が出たときにどうしたらよいか知りたい」など、治療や症状への不安に関する声が寄せられた。 こうした意見を踏まえ、こどもを対象とした医師による個別相談や、妊娠期や乳幼児期の保護者への専門職による相談支援、横浜市アレルギー情報サイトなどによる情報発信を実施した。今後もこどもの意見を施策に反映しながら事業を推進していく。	医療政策課
2	メタバースを活用した小児がん患者等の交流支援事業における参加者からの意見聴取	大きな病気を経験されたお子さんとそのきょうだい (メタバース交流事業参加者)(41人)	・令和7年7月29日 ・令和7年8月22日 ・令和7年10月4日 ・令和7年11月28日	参加者アンケートで寄せられた「異空間で交流したい」という意見を踏まえ、メタバースの特性を生かし、現実では体験できない宇宙空間や雲の上のステージなどの交流空間を設けた。 「カフェなどお仕事体験をしたい」「お菓子を作ってみたい」といった声を受け、専門学校の協力のもと、焼き菓子のデザインを考え	がん・疾病対策課

			日 ・令和8年1月6日 ・令和8年2月14日 ・令和8年3月30日	る参加型ワークショップを実施した。 「仲良くなれた」「また参加したい」との回答が8割を超えるなど高い満足度が得られており、子どもたちの興味・関心を反映した企画を展開しつつ、事業を継続している。	
--	--	--	--	---	--

■ 資源循環局の取組

取組①	小学校等への出前教室及び工場見学におけるごみに関するアンケート調査 【18 事務所 4 工場】
取組内容	各収集事務所で実施する出前教室及び各工場で実施する工場見学において、グループワークや口頭での聞き取り、電子又は紙アンケートにより、「家でごみを捨てる時に困ったこと」「将来のごみがどうなって欲しいか」「大人にして欲しいこと」など、ごみに関する意見を伺った。 18 事務所及び 4 工場で約 30 回意見聴取したほか、小学 4 年生用環境学習副読本や子ども環境情報紙「エコチル」などにおいてもアンケートを行い、様々な機会を通じて幅広くこどもからの意見をいただいた。 
対 象	小学生、中学生、高校生（1,423 人）
実施時期	令和 7 年 9 月～11 月
主な意見と活用方法等	「大人は分別をちゃんとしてほしい」「プラスチックごみを減らしてほしい、リサイクルしてほしい」「ごみやたばこのポイ捨てがなくなってほしい」といった身近な課題に関する意見のほか、自動分別やごみ回収ロボットなど、将来を見据えたアイデアも寄せられた。 こどもからの意見も参考に施策や広報啓発を工夫し、引き続き資源循環や清潔できれいなまちづくりを推進していく。

取組②	ヨコハマ 3 R ポスターコンクール 【資源循環推進課】
取組内容	「分別と 3 R でごみ減量！きれいなまちに。」をテーマに、こどもたちからポスター作品を募集した。作品制作を通じて、こどもたちが身近な資源循環の課題について考え、自らの視点で啓発メッセージを表現する機会とした。応募作品については展示や広報等に活用し、市民への 3 R 啓発につなげた。 
対 象	小学生、中学生（1,506 人）
実施時期	募集期間：令和 7 年 8 月 25 日～9 月 3 日 作品活用：表彰式後順次（令和 8 年 1 月～）
主な意見と活用方法等	応募作品には、「ごみをきちんと分別すること」「リサイクルに取り組むこと」「ものを大切に使うこと」「ポイ捨てをしないこと」など、身近な行動を通じて 3 R を進めたいということもたちの視点が表れていた。

これらの作品を展示・広報等に活用することで、こどもの視点でのメッセージによる3R啓発を行った。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	小学校等への出前教室 及び工場見学における ごみに関するアンケート 調査	小学生、中学生、 高校生 (1,423人)	令和7年9 月～11月	「大人は分別をちゃんとしてほしい」「プラスチックごみを減らしてほしい、リサイクルしてほしい」「ごみやたばこのポイ捨てがなくなしてほしい」といった身近な課題に関する意見のほか、自動分別やごみ回収ロボットなど、将来を見据えたアイデアも寄せられた。 こどもからの意見も参考に施策や広報啓発を工夫し、引き続き資源循環や清潔できれいなまちづくりを推進していく。	18 事務所 4工場
2	ヨコハマ3Rポスターコンクール	小学生、中学生 (1,506人)	募集期間： 令和7年8 月25日～ 9月3日 作品活用： 表彰式後順 次(令和8年 1月～)	応募作品には、「ごみをきちんと分別すること」「リサイクルに取り組むこと」「ものを大切に使うこと」「ポイ捨てをしないこと」など、身近な行動を通じて3Rを進めたいということもたちの視点が表れていた。 これらの作品を展示・広報等に活用することで、こどもの視点でのメッセージによる3R啓発を行った。	資源循環推進 課

■ 都市整備局の取組

取組①	「燃えにくく、住みやすいまち」の実現に向けた 小中学校での防災授業後のアンケート 【防災まちづくり推進課】	
取組内容	延焼の危険性が高い重点対策地域・対策地域に立地する小学校3校、中学校1校で、学校周辺など身近なまちに潜む災害リスク等をテーマにした防災授業を実施した。 授業の終わりに、今後の防災まちづくりに向けて、「どんなことをすると横浜の防災が強くなると思いますか」などについてアンケートを行った。	
対 象	小学4・5年生（約170人）、中学2年生（約100人）	
実施時期	令和7年6月～11月	
主な意見と活用方法等	「公園にもっと防災設備を付けるべきだと思う」「スマートフォンからでも見られるよう、二次元バーコードから読み取れる防災マップがあるとよい」などの意見があった。 地域の既存公園に災害用トイレ等の整備を進める等、防災機能を備えた公園の整備を進めるとともに、地域住民のまち歩きの際に二次元バーコードから読みとれるデジタルマップを活用するなど、防災まちづくりの取組につなげている。	

取組②	みなとみらい地区将来まちづくりビジョンの検討に関する小学生のクラスワーク 【横浜駅・みなとみらい事業推進課】	
取組内容	みなとみらい地区における将来ビジョン作成の参考とするため、小学校の授業の時間を活用し、まちづくりのコンセプトや現在に至るまでの取組に関する授業を実施した。 「新技術」「自然」「あんしん」などの5つのテーマについて、個別にアイデアを検討していただき、プレゼンテーション形式で発表していただいた。	
対 象	小学5年生（21人）	
実施時期	令和8年1月～3月	
主な意見と活用方法等	「自動運転タクシー、GPSと信号が連動する交通があるとよい」「広くて自由に遊べる公園がほしい」「建物のすき間に森や緑を作る」などの意見があった。 こどもの視点で見た地区の強みや弱みを把握し、また、将来ビジョン策定にあたって施策検討の参考とする。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	みなとみらい地区将来まちづくりビジョンの検討に関する大学生アンケート	大学2年生 (80人)	令和7年6月	「近未来感のある街。最新の技術を常に取り入れ続けてほしい」「自然を取り入れたり、人々がくつろげる場所を作ってほしい」「地区内が広大で目的地間の移動が遠く大変に感じる」などの意見があった。 こどもの視点で見た地区の強みや弱みを把握し、また、将来ビジョン策定にあたって施策検討の参考とする。	横浜駅・みなとみらい事業推進課
2	「燃えにくく、住みやすいまち」の実現に向けた小中学校での防災授業後のアンケート	小学4・5年生 (約170人)、中学2年生 (約100人)	令和7年6月～11月	「公園にもっと防災設備を付けるべきだと思う」「スマートフォンからでも見られるよう、二次元バーコードから読み取れる防災マップがあるとよい」などの意見があった。 地域の既存公園に災害用トイレ等の整備を進める等、防災機能を備えた公園の整備を進めるとともに、地域住民のまち歩きの際に二次元バーコードから読みとれるデジタルマップを活用するなど、防災まちづくりの取組につなげている。	防災まちづくり推進課
3	「旧富岡倉庫地区跡地利用基本計画の改定」に向けた意見募集におけるこどもからの意見聴取	小学4～6年生、中学生 (約270人)	令和7年6月30日～7月31日	こどもたちからは、生活利便施設、公園・広場、運動施設等を求める声が多く挙がった。 計画案に未掲載で、計画の方向性と一致する意見(運動施設等)について、施設のイメージ例として追加するなど、旧富岡倉庫地区跡地利用基本計画の改定に反映した。	地域まちづくり課
4	ヨコハマ市民まち普請事業「子育てプラス」における施設整備の検討にあたり実施した、こどもからの意見聴取	小学生(約80人)、大学生(約30人)	令和7年7月～令和8年1月	ヨコハマ市民まち普請事業「子育てプラス」の提案団体が、整備内容を検討する中で子どもたちの意見を反映している。	地域まちづくり課
5	水際線まちづくりコンセプトプランの策定に向けた大学生からの意見聴取	大学生(25人)	令和7年10月～令和8年1月	「水際線上に案内サインが少ないと感じた。」「足元から照らすようなオシャレな照明を設置してほしい。」「象の鼻パークでは、キッチンカーの出店、屋外イベントを実施することでにぎわいが増すと思う。」「都心で芝生に横になれるのは貴重な体験だと思うので、緑とにぎわい空間の創出は実現させて欲しい。」などの意見があった。	まちづくりプロジェクト推進課

				上記の意見を踏まえ、水際線まちづくりコンセプトプランの策定の参考とした。	
6	「米軍根岸住宅地区跡地土地利用の方向性」意見募集におけるこどもからの意見聴取	小学5・6年生、中学生(63人)	令和7年10月20日～11月19日	小学生や中学生の視点で、日常的にスポーツを行う場が不足しているという趣旨で、具体的な運動施設に関する意見や、アミューズメント施設に関する意見が多く寄せられた。また自習ができる学習の場や、多世代の人と交流する場があったらいいという意見もあった。 まちづくりに対する率直な意見などを把握することができたので、今後、土地利用計画を検討するにあたり、参考とする。	基地対策課
7	みなとみらい地区将来まちづくりビジョンの検討に関する小学生のクラスワーク	小学5年生(21人)	令和8年1月～3月	「自動運転タクシー、GPSと信号が連動する交通があるとよい」「広くて自由に遊べる公園がほしい」「建物のすき間に森や緑を作る」などの意見があった。 こどもの視点で見た地区の強みや弱みを把握し、また、将来ビジョン策定にあたって施策検討の参考とする。	横浜駅・みなとみらい事業推進課
8	れきけんカード探検隊(こども歴史まち歩き)におけるイベント参加者へのアンケート	小学生、中学生(3人)	令和8年3月	まち歩きの中で印象深かった歴史的建造物など、こどもがどういった所に興味を持ったのか知ることができた。 上の結果を踏まえ、幅広い層への歴史的建造物の広報普及の方法に反映する。	都市デザイン室

■ みどり環境局の取組

取組①	「外国人にもわかりやすい看板を考えてみよう！」ワークショップ 【公園緑地管理課】	
取組内容	玄海田公園（緑区）では、外国人や小さな子どもにも分かりやすい案内表示とするため、公園内に設置されている看板の表記を「やさしい日本語」に見直す取組として、指定管理者によるワークショップを実施した。 ワークショップでは、「やさしい日本語」ファシリテーターを講師に迎え、園内の看板を対象として、公園利用者の誰もが分かりやすい表記への置き換えを検討した。	
対 象	小学3年生～中学生（5人）	
実施時期	令和7年6月14日	
主な意見と活用方法等	ワークショップでは、「看板に絵（ピクトグラム）があると分かりやすい」「日本独特の言い回しは外国につながる子どもにとって理解が難しい」といった意見が寄せられた。 これらの意見を踏まえ、既存の園内看板に併設する形で「やさしい日本語」による案内表示を作成し、順次掲示を進めている。	



取組②	上菅田町市民の森の整備における現地での意見聴取 【公園緑地事業課】	
取組内容	上菅田町市民の森（保土ヶ谷区）は上菅田特別支援学校に隣接しており、地域から学校の児童・生徒が利用できる環境整備を望む声が寄せられていた。このため、整備工事期間中から同校教職員の協力を得て、ストレッチャーを用いたスロープ幅員の確認を実施した。 また、開園前には同校の児童・生徒を対象に現地案内を行い、車いす利用者の視点からスロープや園路の利用しやすさについて確認を実施した。	
対 象	上菅田特別支援学校高等部（5人）	
実施時期	令和8年2月5日	
主な意見と活用方法等	現地案内の際には、「車いすで通行しやすい路面としてほしい」「学校等の団体利用ができるようにしてほしい」といった意見が寄せられた。これらの意見を踏まえ、車いすのタイヤ	



	が地面に埋まりにくくなるようウッドチップを敷設するとともに、複数人が集まって利用できる広場を整備した。
--	---

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	「外国人にもわかりやすい看板を考えてみよう！」ワークショップ	小学3年生～中学生(5人)	令和7年6月14日	ワークショップでは、「看板に絵(ピクトグラム)があると分かりやすい」「日本独特の言い回しは外国につながる子どもにとって理解が難しい」といった意見が寄せられた。 これらの意見を踏まえ、既存の園内看板に併設する形で「やさしい日本語」による案内表示を作成し、順次掲示を進めている。	公園緑地管理課
2	上菅田町市民の森の整備における現地での意見聴取	上菅田特別支援学校高等部(5人)	令和8年2月5日	現地案内の際には、「車いすで通行しやすい路面としてほしい」「学校等の団体利用ができるようにしてほしい」といった意見が寄せられた。これらの意見を踏まえ、車いすのタイヤが地面に埋まりにくくなるようウッドチップを敷設するとともに、複数人が集まって利用できる広場を整備した。	公園緑地事業課
3	公園再整備にあたり新設する「インクルーシブな遊び場」への意見徴収	本牧南小学校3年生、間門小学校6年生(約120人)	令和7年6月上旬～11月下旬	社会科及び総合的な学習の時間を活用してワークショップを実施し、福祉的な視点や子どもたちの利用者視点から、遊具に求められる機能や遊び方に関する意見を聴取した。 聴取した意見は、設置を予定している複合遊具の整備内容に反映する予定である。	公園緑地事業課
4	市立動物園で行う教育普及事業における、子どもを主とした参加者への意見収集 【よこはま動物園】 ①飼育体験 ②教育プログラム「ズーラシアスクール」 【野毛山動物園】 ③こどもの飼育体験 ④キリン保全ワークショップ ⑤夏休み宿題教室	未就学児、小学生(約200人)	令和7年 ①:6月 ②:9～12月 ③:8・9月 ④:7月 ⑤:8月	アンケートでは、「楽しかった」といった感想のほか、イベントを通じて興味を持った内容や、今後取り上げてほしいテーマに関する意見が寄せられた。 また、教育効果の把握を目的として、「分かりやすかった」「難しかった」などの設問を設け、選択式で回答を得た。 アンケート結果を通じて、参加者の関心が高い分野や動物種を把握し、次回以降のイベントのテーマ設定に活用した。さらに、参加者の知識量やイベント内容の難易度に関する回答についても分析を行い、今後のイベントにおける適切な難易度設定の参考とした。	動物園課 (よこはま動物園) (野毛山動物園)

5	横浜の環境に関する意識アンケート ①東京湾大感謝祭 ②都岡小学校における 大気常時監視測定局 見学会	①未就学児、小学生、中学生、高校生 (約 130 人) ②都岡小学校 1～6年生(約 150 人)	①令和7年 9月 27 日、28 日 ②令和7年 11 月 11 日	アンケートの結果から、生活環境分野において、子どもたちが興味・関心を持つテーマを把握することができた。 得られた結果については、今後のこども向け環境啓発事業の企画・実施に活用する予定である。	環境管理課
---	--	--	---	---	-------

■ 下水道河川局の取組

取組①	帷子川の今後の河川水辺環境を考える小学生とのワークショップ 【河川流域整備課／旭区区政推進課、土木事務所】	
取組内容	帷子川の良い河川水辺環境を保全・創出するための計画策定にあたって、川の近くに位置する旭区内の小学校3校（上川井小学校、都岡小学校、鶴ヶ峯小学校）の児童約200名とワークショップを実施し、帷子川の将来像に関する子ども達の意見を聴取した。	
対 象	小学5年生（約200人）	
実施時期	【各校3回実施】 1回目：令和7年6月 2回目：令和7年7月 3回目：令和7年12月～令和8年1月	
主な意見と活用方法等	帷子川の将来像について、「川で水遊びをしたい」「魚取りをしたい」「水辺を散歩したい」など、自然との触れ合いや川の利用に関する幅広い意見が寄せられた。 こども達の意見をもとに整理した「生物」「景観」「利用」「親水」「安全」の5つの視点を、帷子川の河川環境整備計画に反映した。	

取組②	阿久和川まほろば地区の河川水辺環境の再整備を考える小学生とのワークショップ 【河川流域調整課／泉土木事務所】	
取組内容	阿久和川まほろば地区の河川水辺環境の再整備に向けた計画策定にあたって、川の近くに位置する泉区内の小学校2校（岡津小学校、新橋小学校）の児童約100名とワークショップを実施し、阿久和川の将来像に関する子ども達の意見を聴取した。	
対 象	小学3～4年生（約100人）	
実施時期	【各校3回実施】 1回目：令和7年10月 2回目：令和7年10月～11月 3回目：令和8年3月	
主な意見と活用方法等	阿久和川まほろば地区の将来像について、「川の生き物を増やしたい」「きれいな川にしたい」「水辺で休憩したい」など、自然環境や景観、川の利用に関する幅広い意見が寄せられた。	

こども達の意見をもとに整理した「自然」「景観」「安全」「地域」「利用」の5つの視点を、阿久和川まほろば地区の河川環境再整備計画に反映した。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	帷子川の今後の河川水辺環境を考える小学生とのワークショップ	小学5年生 (約200人)	【各校3回実施】 1回目:令和7年6月 2回目:令和7年7月 3回目:令和7年12月～令和8年1月	帷子川の将来像について、「川で水遊びをしたい」「魚取りをしたい」「水辺を散歩したい」など、自然との触れ合いや川の利用に関する幅広い意見が寄せられた。 こども達の意見をもとに整理した「生物」「景観」「利用」「親水」「安全」の5つの視点を、帷子川の河川環境整備計画に反映した。	河川流域整備課 旭区区政推進課、土木事務所
2	阿久和川まほろば地区の河川水辺環境の再整備を考える小学生とのワークショップ	小学3～4年生(約100人)	【各校3回実施】 1回目:令和7年10月 2回目:令和7年10月～11月 3回目:令和8年3月	阿久和川まほろば地区の将来像について、「川の生き物を増やしたい」「きれいな川にしたい」「水辺で休憩したい」など、自然環境や景観、川の利用に関する幅広い意見が寄せられた。 こども達の意見をもとに整理した「自然」「景観」「安全」「地域」「利用」の5つの視点を、阿久和川まほろば地区の河川環境再整備計画に反映した。	河川流域調整課 泉土木事務所
3	河川事業に関する理解促進や水防意識の向上を目的とした小学校向け出前講座におけるアンケート	小学生(約500人)	・令和7年6月6日 ・令和7年6月24日 ・令和7年8月19日 ・令和7年9月3日 ・令和7年11月12日 ・令和7年12月5日	「川の魅力だけでなく、危険性についても学ぶことができてよかった」という回答が多く寄せられた。 アンケート結果は、今後の河川事業の広報や水防活動の啓発に活用する。 また、より子ども達の興味を引き、印象に残る学習内容となるよう、出前講座の充実にも活用する。	河川流域調整課
4	大規模商業施設で実施した子ども向けの河川事	主に小学生を対象(約	令和7年7月29日、3	市内の河川に対するイメージとしては「楽しい」「生き物がいる」といった回答が、河川の	河川流域調整課

	業広報イベントにおけるアンケート	200 人)	0日	利用目的としては「散歩」「水遊び」「生き物観察」「花の鑑賞」といった回答が多く寄せられた。 引き続き、様々な機会を捉えて、子ども達を含む市民の河川利用の状況等を把握し、今後の川づくりに活用する。	
5	横浜市の下水道事業を広く知ってもらうため、「親子の下水道教室」を開催し参加者から意見徴収	横浜市在住の親子(約 160 人)	令和7年7月～8月	「楽しかった。」「微生物を見ることができてよかった。」「汚水がきれいになっていくのが面白かった。」「時間と工程をかけて処理することに驚いた。」「SDGS につながると思った。」などの意見が集まり、次回以降の、より分かりやすい説明方法や新しいコンテンツの検討に活かしていく。	施設管理課

■ 建築局の取組

取組①	「わくわく！こどもハロウィン in 横浜北仲フェス」への 木育体験コンテンツ内で行ったシールアンケート 【建築企画課】	
取組内容	民間建築物への木材利用普及を目的として、市民向けの木育イベントを「わくわく！こどもハロウィン in 横浜北仲フェス」（総務局主催）内で開催した。 翌年度以降のイベントコンテンツ、及び木育・木材利用普及の取組検討のために、6つの選択肢から「気になるもの」を選んでもらうシールアンケートを実施した。	
対 象	未就学児から小学校低学年（約 400 人）	
実施時期	令和 7 年 10 月 18 日、19 日	
主な意見と活用方法等	アンケートでは、「木工体験」が最も多くの票を集め、次いで「木の空間」「家庭の木育」「木造建築」「森のしくみ」「木材と環境」の順となった。 令和 8 年度のイベント内容や、同年度から実施予定の環境教育出前講座の内容検討の参考として活用する。	



取組②	中高生向けの工事現場見学会における参加者へのアンケート 【営繕企画課】	
取組内容	建設業に、より興味を持ってもらうための方法を考案していくため、参加者を対象にアンケートを実施した。 また、外壁デザインのアンケートを行い、こどもたちに建築の仕事の醍醐味であるデザイン決めに体験してもらった。	
対 象	中学生、高校生（10 人）	
実施時期	令和 7 年 12 月 25 日	
主な意見と活用方法等	参加者からは、「建築現場を近くで見ることができ、仕事や現場の雰囲気を知ることができた」「様々な会社関わって工事が進められていることが分かった」などの意見があり、現場ならではの学びにつながっていることが確認できた。多様な担い手によって進められる建設工事の魅力を伝えられるよう、いただいた意見を令和 8 年度の現場見学会の内容検討に活用した。 また、見学会当日、見学対象の建築物の外壁デザイン 2 案について、挙手により意見を聴取した。いただいた意見はデザイン検討に活用され、最も支持を集めた案が実際の外壁デザインとして採用された。	



	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	「わくわく！こどもハロウィン in 横浜北仲フェス」への木育体験コンテンツ内で行ったシールアンケート	未就学児から小学校低学年（約 400 人）	令和7年 10月18 日、19日	アンケートでは、「木工体験」が最も多くの票を集め、次いで「木の空間」「家庭の木育」「木造建築」「森のしくみ」「木材と環境」の順となった。 令和8年度のイベント内容や、同年度から実施予定の環境教育出前講座の内容検討の参考として活用する。	建築企画課
2	よこはま建築ひろばにおけるこどもワークショップ参加者へのアンケート	3歳～中学生（500 人）	令和7年 11 月 15 日	参加したこどもへのアンケートでは、98.7%が「今日のワークショップを楽しめた」、97.1%が「建築に興味を湧いた」と回答。また、「普段できない貴重なものづくりの体験ができた」、「このようなワークショップはまた開催してほしい」といった意見も寄せられた。 これらの結果や意見は、各ワークショップを出展した建設関連団体へフィードバックし、出展内容の振り返りや改善に活用した。 今後は、こどもたちの意見を踏まえながら、体験内容の充実や新たなプログラムの検討など、イベント運営や企画内容の改善に取り組んでいく。	営繕企画課
3	中高生向けの工事現場見学会における参加者へのアンケート	中学生、高校生（10 人）	令和7年 12月25 日	参加者からは、「建築現場を近くで見ることができ、仕事や現場の雰囲気を知ることができた」「様々な会社に関わって工事が進められていることが分かった」などの意見があり、現場ならではの学びにつながっていることが確認できた。多様な担い手によって進められる建設工事の魅力を伝えられるよう、いただいた意見を令和8年度の現場見学会の内容検討に活用した。 また、見学会当日、見学対象の建築物の外壁デザイン2案について、挙手により意見を聴取した。いただいた意見はデザイン検討に活用され、最も支持を集めた案が実際の外壁デザインとして採用された。	営繕企画課
4	第4期横浜市耐震改修促進計画改定に係るこ	小学生、中学生、高校生（0	令和8年 1 月 8 日～令	漢字にはルビを振りこどもでもわかりやすい表現としたが、今後はイラストを配置する	建築防災課

	どもからの意見募集	人)	和8年 2 月 6日	等、よりイメージが掴みやすいような工夫を することで、こどもの意見把握に努める。	
--	-----------	----	---------------	---	--

■ 道路・交通政策局の取組

子どもの通学路交通安全対策事業	
取組①	【道路政策課】
取組内容	令和5年度から、「交通事故データ」や「車両速度データ」などのビッグデータを活用し、ハード・ソフトの両面で子どもの通学路交通安全対策事業を実施している。
	交通安全推進校において、交通安全対策の実施による交通ルールの定着や安全性向上などの事業効果を確認することを目的に、教育委員会事務局と協力してアンケートを実施した。
対 象	小学生（約1,700人）
実施時期	令和7年6月～9月
主な意見と活用方法等	交通安全対策を実施したことで、通学路が「安全になった」という回答が見られた。 アンケート結果は、交通安全対策の効果を定性的に確認するために活用した。

取組②	モビリティマネジメントの出前授業	
		【交通政策課】
取組内容	公共交通利用促進の取組として、小学校へのモビリティマネジメントの出前授業を行っている。(過度なマイカー利用から公共交通等を適切に利用する生活への転換を促す取組)	
	出前授業の時間を活用し、まちの交通課題の解決につながる取組（バスや地域交通の利用促進や自動運転バスの導入）へのアンケート等を実施した。	
対 象	小学4～6年生（234人）※授業参加人数	
実施時期	令和7年9月～令和8年2月	
主な意見と活用方法等	バスや地域交通の利用者を増やすため、車内で楽しく過ごすためのアイデアを交通事業者と共有し、利用促進策の検討に活用した。 また、自動運転バスの試乗体験時の感想を通じて、将来の普及促進に向けた必要性を再確認した。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	小学校授業を通じた都市計画道路事業の理解促進	小学3～6年生(約10人)	令和4年4月～令和8年3月	都市計画道路の開通による地域の安全性向上や渋滞解消、街の発展に期待する意見が見られた。 子どもの視点を通して事業の意義や整備効果について、市民の皆さまにご紹介した。	建設課
2	子どもの通学路交通安全対策事業	小学生(約1,700人)	令和7年6月～9月	交通安全対策を実施したことで、通学路が「安全になった」という回答が見られた。 アンケート結果は、交通安全対策の効果を定性的に確認するために活用した。	道路政策課
3	モビリティマネジメントの出前授業	小学4～6年生(234人) ※授業参加人数	令和7年9月～令和8年2月	バスや地域交通の利用者を増やすため、車内で楽しく過ごすためのアイデアを交通事業者と共有し、利用促進策の検討に活用した。 また、自動運転バスの試乗体験時の感想を通じて、将来の普及促進に向けた必要性を再確認した。	交通政策課
4	産学官連携の取組 (橋梁老朽化対策工事の現場見学会)	大学生(5人)	令和7年11月	「大学の講義で学んだことと実際の現場での施工を結びつけるいい機会となった。」「周辺の交通や安全への配慮をしながら工事していることを知った。」などの意見が見られた。 アンケート結果は、今後の産学官連携の取組の参考にするとともに効果的な市民への情報提供のための参考とした。	橋梁課
5	中学生向け交通安全教室	主に中学3年生(約300人)	令和8年2月～3月	ヘルメット着用の大切さや自転車ルールを改めて学ぶ機会になったというような回答が見られた。 アンケート結果は、今後の自転車をはじめとした交通安全教室の実施にあたっての参考として活用した。	道路政策課

■ 港湾局の取組

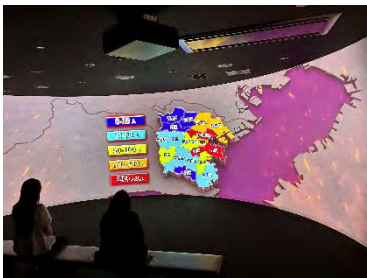
取組①	若い世代への再開発事業の周知方法に係る意見聴取 【山下ふ頭再開発調整課】	
取組内容	山下ふ頭再開発事業において、時代のニーズに沿った新たなまちづくりを進めるために、若い世代に伝わりやすい広報等の工夫や普段利用する情報収集のツール等について意見聴取を実施した。	
対 象	大学生、小学生（約 320 人）	
実施時期	令和 7 年 6 月～令和 8 年 2 月	
主な意見と活用方法等	若い世代に伝わりやすい広報等の工夫や普段利用する情報収集のツール等について意見聴取した結果、SNS が効果的であるという意見が多かったため、インスタグラムを中心とした SNS で情報発信した。 SNS での情報発信の工夫についての意見を基に、発信する時間帯や頻度を見直し、閲覧機会の向上に努めた。	

取組②	事業計画案の作成に向けた山下ふ頭再開発市民検討会の開催による意見聴取 【山下ふ頭再開発調整課】	
取組内容	市が策定した「答申を踏まえた基本的な方向性」について、無作為抽出の手法を活用した市民参加のグループワーク（6 人×6 グループ）を複数回行った。 若い世代を含めた、幅広い世代の方に参加いただき、山下ふ頭の再開発に対する意見をいただいた。	
対 象	グループワーク参加者（36 人の市民の内、10 代・20 代が 6 人）	
実施時期	令和 7 年 9 月～12 月	
主な意見と活用方法等	若い世代の方を含めたグループでは、景観について全体の統一感を持たせることや魅力的な景観形成を図るといった様々な意見をいただいた。 いただいた意見を事業計画案に反映した。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	若い世代への再開発事業の周知方法に係る意見聴取	大学生、小学生(約 320 人)	令和7年6月～令和8年2月	若い世代に伝わりやすい広報等の工夫や普段利用する情報収集のツール等について意見聴取した結果、SNS が効果的であるという意見が多かったため、Instagramを中心とした SNS で情報発信した。 SNS での情報発信の工夫についての意見を基に、発信する時間帯や頻度を見直し、閲覧機会の向上に努めた。	山下ふ頭再開発調整課
2	事業計画案の作成に向けた山下ふ頭再開発市民検討会の開催による意見聴取	グループワーク参加者(36 人の市民の内、10 代・20 代が6 人)	令和7年9月～12 月	若い世代の方を含めたグループでは、景観について全体の統一感を持たせることや魅力的な景観形成を図るといった様々な意見をいただいた。 いただいた意見を事業計画案に反映した。	山下ふ頭再開発調整課

■ 消防局の取組

取組①	こどもを対象とした防災教室におけるアンケート 【予防課】	
取組内容	各消防署が実施する、こどもを対象とした防災教室において、アンケートを実施し、防災学習の理解度や満足度、興味・関心等について意見を聴取した。	
対 象	小学生、中学生、高校生（3,946人）	
実施時期	令和7年10月1日～令和8年3月31日	
主な意見と活用方法等	消火器の使い方や煙の恐ろしさ、災害からの身の守り方について、アンケートに回答のあった児童のうち、約98%が「理解できた」という項目を選択しており、防火・防災に関する基礎的な知識の定着が確認できた。 また、自由記述では、「火事が起きた時にどうするかについて家族と話し合った」といった意見のほか「消防署のことをもっと知りたい」など、消防の仕事の関心を高める機会にもつながった。 初期消火器具の取扱い訓練や煙体験などを通じて、「理解できた」との回答が多く得られたことから、引き続き体験メニューを念頭に置いたカリキュラムとする。	

取組②	借り上げバスを利用した小学校防災体験ツアーにおけるアンケート 【横浜市民防災センター】	
取組内容	こどものニーズや防災意識を把握し、横浜市民防災センターの運営に反映するため、借り上げバスを利用して小学校防災体験ツアーに参加した小学校に対し、アンケートを実施した。	
対 象	小学生（44校）	
実施時期	令和7年5月1日～令和8年3月31日	
主な意見と活用方法等	借り上げバスを利用した小学校防災体験ツアー参加児童へのアンケートでは、「自分の地域が地震でどのくらい被害を受けるのか知りたい」といった意見が複数寄せられた。 こうした意見を踏まえて、令和7年度に更新した災害シアターの地震・火災啓発動画では、横浜市における地震被害想定を盛り込み、地震災害をより身近なものとして理解していただける内容とした。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	こどもを対象とした防災教室におけるアンケート	小学生、中学生、高校生 (3,946 人)	令和7年 10月1日～ 令和8年3 月31日	消火器の使い方や煙の恐ろしさ、災害からの身の守り方について、アンケートに回答のあった児童のうち、約98%が「理解できた」という項目を選択しており、防火・防災に関する基礎的な知識の定着が確認できた。 また、自由記述では、「火事が起きた時にどうするかについて家族と話し合った」といった意見のほか「消防署のことをもっと知りたい」など、消防の仕事の関心を高める機会にもつながった。 初期消火器具の取扱い訓練や煙体験などを通じて、「理解できた」との回答が多く得られたことから、引き続き体験メニューを念頭に置いたカリキュラムとする。	予防課
2	借り上げバスを利用した小学校防災体験ツアーにおけるアンケート	小学生(44校)	令和7年5 月1日～令 和8年3月3 1日	借り上げバスを利用した小学校防災体験ツアー参加児童へのアンケートでは、「自分の地域が地震でどのくらい被害を受けるのか知りたい」といった意見が複数寄せられた。 こうした意見を踏まえて、令和7年度に更新した災害シアターの地震・火災啓発動画では、横浜市における地震被害想定を盛り込み、地震災害をより身近なものとして理解していただける内容とした。	横浜市民防災センター
3	防災イベント「せや防災・救急フェア」来場者アンケート	制限なし (300 人) ※アンケート回答者に景品を配布し、こどもが楽しみながら意見を表明できる機会を設けた。	令和7年 9 月 20 日	地震体験や防災謎解きなどを通じて、親子で楽しみながら防災を学ぶことができ、防災や備蓄について考えるきっかけになったとの意見が多く、満足度も高かった。 子育て世代を対象とした体験型防災啓発事業の有効性が確認できたため、今後の防災啓発事業の企画・広報の参考資料として活用する。	瀬谷消防署 総務・予防課

■ 水道局の取組

取組①	水道週間イベントやはまっ子水道まつりの来場者に対するアンケート実施 【広報課】
取組内容	水道に関する理解促進を目的とする「水道週間」（６月１日～７日）や、水資源・水循環への理解促進を目的とする、「水の週間」（８月１日～７日）に合わせ、横浜市の水道をＰＲするイベントを市庁舎アトリウムで開催した。 来場者にイベントへの満足度や、水道水に対するイメージを把握するためのアンケートをこども用（小学生～高校生）、大人用に分けて実施した。 
対 象	小学生～高校生（１５７人）
実施時期	令和７年６月７日、８月１日
主な意見と活用方法等	イベント内容に関する回答は、局内各課及び出展者に共有し、次年度のイベントの参考としたい。また、水道水に関するアンケートは「水道水を飲む」との回答が７割以上だった。理由として「家族みんなが飲んでいるから」、「つめたいから」、「おいしいから」などの回答があった。こうした意見を踏まえ、水道水の魅力や安全性を伝える広報・ＰＲの参考としたい。
取組②	水源林間伐ボランティア体験ツアーにおける学生とのワークショップ 【広報課】
取組内容	水道局と連携協定を締結している４大学を対象に、横浜市の水源地のひとつである山梨県道志村にて、水源林保全のための間伐を体験することができるバスツアーを実施した。 プログラムのひとつとして、技術継承や今後の水道事業運営のための「人材確保」という水道局の課題について、ワークショップを実施した。 ワークショップでは「水道局で働いてみたい」と思ってもらえるような広報についてグループで検討した。 
対 象	連携大学（４校）の大学生（１７人）
実施時期	令和７年９月２日
主な意見と活用方法等	グループワークでは、ＳＮＳや電車広告などの積極的活用、体験を通じた水道事業の必要性や価値を知る機会の創出、企業の合同説明会への参加、就活サイトの活用、高校等への訪問、卒業生訪問などの意見が出た。 これらの意見は、水道局の採用試験に向けての学生への広報の参考としたい。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	水道週間イベントやまっ子水道まつりの来場者に対するアンケート実施	小学生～高校生(157人)	令和7年6月7日、8月1日	イベント内容に関する回答は、局内各課及び出展者に共有し、次年度のイベントの参考としたい。また、水道水に関するアンケートは「水道水を飲む」との回答が7割以上だった。理由として、「家族みんなが飲んでいるから」、「つめたいから」、「おいしいから」などの回答があった。こうした意見を踏まえ、水道水の魅力や安全性を伝える広報・PRの参考としたい。	広報課
2	水源林間伐ボランティア体験ツアーにおける学生とのワークショップ	連携大学(4校)の大学生(17人)	令和7年9月2日	ワークショップでは、SNSや電車広告などの積極的活用、体験を通じた水道事業の必要性や価値を知る機会の創出、企業の合同説明会への参加、就活サイトの活用、高校等への訪問、卒業生訪問などの意見が出た。 これらの意見は、水道局の採用試験に向けての学生への広報の参考としたい。	広報課
3	中学校出前教室において、生徒に対して、普段家で飲んでいる水や、効果的な広報手段についてのアンケート実施	中学2年生(85人)	令和7年5月20日	普段家で飲んでいる水についての質問では、水道水との回答が7割以上だった。理由としては、「便利だから」、「安心できる」といった回答が多かった。 効果的だと思う広報手段についての質問では、ウェブサイトやYouTube、イベントとの回答が多かった。今後の広報の参考としたい。	広報課
4	水源地ツアー参加者アンケート	小学4～6年生と保護者(15人)	令和7年8月6日	参加者からは、「水源地の大切さがわかった」「水道水を積極的に飲もうと思った」など、水道事業への理解を示す意見が多く寄せられた。一方、滞在時間が短いなど、ツアー行程に関する課題も挙げられた。 今後は、これらの課題を踏まえ、より良いツアーの実施を通じて、多くの子どもたちに水道事業への理解を深めてもらいたい。	浄水課

5	子どもたちが水道水を飲む文化を育む事業における直結給水工事後のアンケート実施	工事対象校の 小学4～6年生、中学生 (165人)	令和7年6月～8月	アンケートでは「工事前よりも水が冷たくなりおいしくなった。」「直結給水に切り替えた蛇口に貼り付けるシールが分かりやすい。」などの回答があった。 直結化したことによる実感の変化について評価すると共に、今後の事業計画に活用したい。 直結給水の蛇口に貼り付けるシールの分かりやすさに関する意見を今後の参考としたい。	給水維持課
6	職業体験における中学生からの意見聴取	中学生(17人)	令和7年10月～令和8年2月	「電話対応をもっとやってみたい」「水道管が漏水した時の修理の実技が印象に残った」などの意見が寄せられた。 いただいた意見や感想を踏まえ、今後の職業体験プログラムの内容の充実や実施方法の改善に活用したい。	鶴見水道事務所 洋光台水道事務所 三ツ境水道事務所

■ 交通局の取組

取組①	市営地下鉄&市営バス乗車マナーポスターコンクールの開催(共催) 【高速鉄道本部営業課】	
取組内容	第 14 回市営地下鉄&市営バス乗車マナーポスターコンクールを横浜市交通局協力会と共催した。市営地下鉄・市営バスの乗車マナーをテーマに小学生からポスターを公募した。 入賞作品(14 点)については、市庁舎アトリウムにて作品展示及び表彰式を実施した。	 入賞作品
対 象	小学生(応募 1101 人、入賞 14 人)	
実施時期	・ 募集期間：令和 7 年 7 月 19 日～8 月 31 日 ・ 表彰式：令和 7 年 11 月 1 日 ・ 入賞作品掲示期間：令和 7 年 11 月～令和 8 年 2 月	
主な意見と活用方法等	応募者は、「多くの人に、心のバリアフリーを知り行動を起こしてもらいたい」「譲り合いを大切にしてほしい」「ポスターを見た人が一人でも多く、マナーを守ってほしい」等の思い(意見)を込めてポスターデザインを作成した。 入賞作品はポスターとして、市営地下鉄、市営バス車内に掲示するほか地下鉄車内ビジョンで放映し、マナー啓発に活用した。	

取組②	市営バス「乗り方教室」、「安全教室」におけるこどもからの意見聴取 【自動車本部営業課、運輸課】	
取組内容	横浜市交通局が事故防止のため実施している「乗り方教室」、「安全教室」に参加いただいた方に対して、ヒアリングを行った。	
対 象	保育園児、小学生、中学生、高校生等 (約 120 人)	
実施時期	通年(令和 7 年度 29 回)	
主な意見と活用方法等	バスの運転席に座りバスの死角を確認することのできる体験型学習を実施した。「バスの利用方法やマナーを学べた」「交通安全に対する関心が向上した」といった意見が多数寄せられた。そのため事故防止活動として継続的に実施することとした。 また、参加者の学習ニーズを把握し、その結果を今後の安全教室の企画・運営に反映させている。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	市営地下鉄&市営バス乗車マナーポスターコンクールの開催(共催)	小学生(応募1101人、入賞14人)	・募集期間: 令和7年7月19日～8月31日 ・表彰式:令和7年11月1日 ・入賞作品 掲示期間: 令和7年11月～令和8年2月	応募者は、「多くの人に、心のバリアフリーを知り行動を起こしてもらいたい」「譲り合いを大切にしてほしい」「ポスターを見た人が一人でも多く、マナーを守ってほしい」等の思い(意見)を込めてポスターデザインを作成した。 入賞作品はポスターとして、市営地下鉄、市営バス車内に掲示するほか地下鉄車内ビジョンで放映し、マナー啓発に活用した。	高速鉄道本部 営業課
2	「スキマモリ」に関する こどもからの意見聴取 ※スキマモリ:大阪の教育機関及び、横浜市交通局を含む鉄道5社が参画する「こども転落防止プロジェクト」のキャラクター	保育園児(93人)	令和7年度 2回	電車を好きな一部のこどもには「スキマモリ」が認知されていた一方、知らないこどももいた。 このヒアリング結果や出前講座の状況を、プロジェクトに参画する学生と共有し、認知度の向上を図った。	高速鉄道本部 営業課
3	市営バス「乗り方教室」、「安全教室」におけるこどもからの意見聴取	保育園児、小学生、中学生、高校生等(約120人)	通年(令和7年度29回)	バスの運転席に座りバスの死角を確認することのできる体験型学習を実施した。「バスの利用方法やマナーを学べた」「交通安全に対する関心が向上した」といった意見が多数寄せられた。そのため事故防止活動として継続的に実施することとした。 また、参加者の学習ニーズを把握し、その結果を今後の安全教室の企画・運営に反映させている。	自動車本部 営業課、運輸課

■ 教育委員会事務局の取組

取組①	第5期横浜市教育振興基本計画の策定に係る児童生徒からの意見把握 【教育政策推進課】	
取組内容	教育委員会事務局では、子どもを中心に据え、安心して意見を表明できる環境づくりや意見を形成し表明するための学びを大切に、日々の教育活動のあらゆる機会を捉えて、児童生徒との対話を重ね、特に、以下①②の取組を実施した。 ①小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・義務教育学校の代表校に伺い、学校生活で大事だと思っていることや未来に向けて学んでいきたいことなどの思いを聞いた。 ②計画素案に関するパブリックコメントの一環として、全児童生徒を対象に1人1台端末で子ども向けリーフレットを配布し、思いを聞いた。	
対 象	横浜市立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒（①119人②9,226人）	
実施時期	①令和7年6月～11月 ②令和7年12月17日～令和8年1月19日	
主な意見と活用方法等	日々の教育活動に子どもの意見を反映させるとともに、 ①子どもたちから、「未来を見据えて自分自身のことを考えたいし、学びたい」といった意見や、「友達と共創して何かを成し遂げることが楽しい」、「自分の居場所があることが自身の力を広げることににつながる」などの思いを聴き、計画の基本的方向や素案に反映した。 ②計画素案に対する意見のほか、日々の教育活動に対する感想や自分の将来を意識した前向きな意見、学校に対する具体的な改善点等があった。計画原案に反映するとともに、計画の施策・取組を進める上での参考にしている。	



取組②	横浜子ども会議 【不登校支援・いじめ対策課】	
取組内容	児童生徒主体のいじめ未然防止を目的に、いじめそのものに向き合った話し合いを学校・中学校ブロック毎に実施した。 また、小学生から高校生が区ごとに一堂に会し、話し合いを行う区交流会も実施した。 さらに、「いじめ防止市民フォーラム」において、「横浜子ども会議」で積み重ねてきた子どもの意見を大人に届け、	



	大人と子どもがそれぞれにできることを対話することで、社会全体でいじめ防止の輪を広げていく。
対 象	横浜市立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒（こどもの意見数不明）
実施時期	通年（学校・中学校ブロック毎に実施）、令和7年8月（区交流会）
主な意見と活用方法等	児童生徒主体のいじめ未然防止を目的として、いじめそのものに向き合った話を学校・中学校ブロック毎に実施した。また、小学生から高校生までの児童生徒の代表者が区ごとに集まり、異学年で話し合いを行う区交流会も実施した。話し合いでは、「一人ひとり違うのは当たり前。価値観を押し付けないようにする」「誰でも気軽に相談できる環境を整えることが大切」などの意見があった。 区交流会の内容を各学校に持ち帰り、各学校の「学校いじめ防止基本方針」に意見を反映する等、各学校の取組につなげている。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	第5期横浜市教育振興基本計画の策定に係る児童生徒からの意見把握	横浜市立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒(①119人②9,226人)	①令和7年6月～11月 ②令和7年12月17日～令和8年1月19日	日々の教育活動に子どもの意見を反映させるとともに、 ①子どもたちから、「未来を見据えて自分自身のことを考えたいし、学びたい」といった意見や、「友達と共創して何かを成し遂げることが楽しい」、「自分の居場所があることが自身の力を広げることにつながる」などの思いを聴き、計画の基本的方向や素案に反映した。 ②計画素案に対する意見のほか、日々の教育活動に対する感想や自分の将来を意識した前向きな意見、学校に対する具体的な改善点等があった。計画原案に反映するとともに、計画の施策・取組を進める上での参考になっている。	教育政策推進課
2	横浜子ども会議	横浜市立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒(こどもの意見数不明)	通年(学校・中学校ブロック毎に実施)、令和7年8月(区交流会)	児童生徒主体のいじめ未然防止を目的として、いじめそのものに向き合った話を学校・中学校ブロック毎に実施した。また、小学生から高校生までの児童生徒の代表者が区ごとに集まり、異学年で話し合いを行う区交流会も実施した。話し合いでは、「一人ひとり違うのは当たり前。価値観を押し付けないようにする」「誰でも気軽に相談できる環境を整えることが大切」などの意見があった。 区交流会の内容を各学校に持ち帰り、各学	不登校支援・いじめ対策課

				校の「学校いじめ防止基本方針」に意見を反映する等、各学校の取組につなげている。	
3	教育課程研究協議会総則部会における子ども実行委員による協議	横浜市立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒(27人)	令和7年8月19日	これからの横浜の学びについての意見交換を実施し、これからの学校がどうなっていくとよいと思うかという問いに対して、「主体性と柔軟性が大切にされる」、「デジタルが普及しAIを活用した学習が当たり前になる」などの意見があった。 学びの質の向上を図る教育課程の在り方の研究を進めるにあたり参考にした。	学校経営支援課
4	「よこはま子ども国際平和プログラム」子ども実行委員会	小学生、中学生(38人)	・令和7年8月25日 ・令和7年12月4日	子ども実行委員が「今、世界の課題だと思うこと」や「その課題の解決のために自分たちにできること」について意見を出し合い、その内容をまとめて「よこはま子どもピースメッセージ」を作成した。このメッセージは、子どもピースメッセンジャーが国連に持参し、伝えた。 また、子どもピースメッセンジャーの国連報告や国際関係者の講話を聴き、同じテーマについてグループ協議し、国際平和に向けたメッセージ動画を作成し、発信した。	学校経営支援課
5	GREEN×EXPO 2027 子ども参画プログラム スタートミーティング	横浜市立小学校、中学校、高等学校の児童生徒(約40人)	令和7年5月29日	市立学校の児童生徒と国際園芸博覧会協会、横浜グリーンエキスポ出展企業、本市職員等によるスタートミーティングを開催した。児童生徒からは「人とのつながり(地域の人、学校内、障害のある方や外国人等)が大切」、「地域とのつながりが薄いという課題を見つけることができた」などの意見が出された。 本取組を契機とし、学校と地域、企業等が連携・協働しながら横浜グリーンエキスポを創るという機運を醸成するとともに、次の取組につなげている。	学校経営支援課
6	グローバル人材育成のための意識調査	横浜市立高等学校(全日制)1、2年生(1,423人)	令和7年6月	英語でのコミュニケーションに対する意欲や海外留学への意識などについてアンケート調査を行い、英語でのコミュニケーションや海外留学に興味のある高校生が多くいることが分かった。 この結果を、市立高等学校でのグローバル人材育成の取組を一層強化するための参考	高校教育課

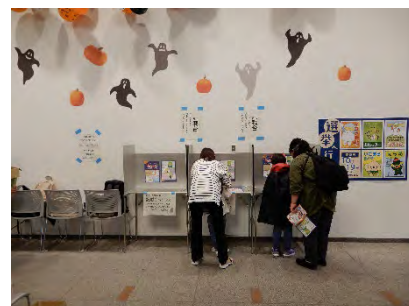
				情報として活用した。	
7	学校統合に関するアンケート調査	小学3～6年生、中学生 (500人)	令和8年2月16日～ 3月6日	学校統合を経験した児童生徒を対象に、学校統合に関するアンケート調査を実施し、「気が合う友達が増えて、学校が楽しいと思うことが多かった」、「トイレが綺麗になったり、空調が整備されたりと環境が良くなった」、「今までの小学校の伝統がなくなってしまうことが悲しかった」などの意見があった。 学校統合による教育環境の向上について、児童生徒及び保護者の意見を踏まえた効果検証を行い、その結果を学校規模適正化の取組に活用する。	学校計画課
8	横浜市いじめ防止基本方針改定素案に関する市民意見募集	制限なし(延べ意見 3,456件) ※こどもが答えやすいような表現で「やさしい版」「もっとやさしい版」の募集チラシや電子申請フォームを作成した。	令和7年2月25日～ 令和7年3月24日	「いじめている人がいたらその人に注意する」「皆が見て見ぬふりをせず皆で向き合っていく」「大人の人に注意してほしい。止めてほしい」「おおごとにしないでほしい」などの意見があった。 令和7年5月改定の横浜市いじめ防止基本方針に反映するとともに、子どもの意見の一覧を公表した。	不登校支援・いじめ対策課
9	ハートフルセンター上大岡 オープンに向けたアンケート	小学生、中学生(15人)	令和7年7月1日～ 令和7年7月14日	ハートフルセンター上大岡の開設にあたり、児童生徒にアンケートを実施し、軽スポーツエリアの名称について「バナナスタジアム」といった意見や、置いて欲しい図書について「学習漫画」などの意見があった。 意見を空間設計等において活用するとともに、児童生徒が主体的に関わることで施設への親しみを深め、自分の意見が尊重される経験を通じて自己肯定感や自己有用感を育むことにつなげた。	不登校支援・いじめ対策課
10	令和7年度 校内ハートフル事業利用者アンケート	中学生(321人)	令和7年11月26日～ 令和7年12月19日	校内ハートフル事業の更なる推進に向け、実際に利用している生徒を対象に利用アンケートを実施した。生徒からは、「支援員や友達と安心して話すことができる」「支援員や友達と過ごす時間が好き」などの意見があっ	不登校支援・いじめ対策課

				た。 いただいた意見を集約し、校内ハートフル事業の研修で発表することで、関わる教員や支援員の意識改革に寄与した。	
11	令和7年度 ハートフルスペース・ハートフルルーム 利用者アンケート	小学生、中学生(289人)	令和8年1月7日～令和8年3月6日	ハートフルスペース・ハートフルルームを利用している児童生徒にアンケートを実施し、安心できる居場所や自己肯定感に関する質問を行ったところ、安心できる居場所が必要だと感じる児童生徒が多いことがわかった。 ハートフルの今後の方向性や新たな教育支援センターの開設に向けた検討の参考とした。	不登校支援・いじめ対策課
12	学校いじめ防止基本方針の改定に係る意見収集	横浜市立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒(子どもの意見数不明)	通年(学校毎に実施)	各市立学校の児童会・生徒会、学校運営協議会などの場やアンケート等を活用して、基本方針について意見を収集した。主な意見として、「相手の気持ちを考えること、違いを認め合うことがいじめ防止につながる」、「困ったときに安心して先生や友達、大人へ相談できることが大切」などがあった。 いじめ防止にかかるスローガンや具体的な取組などに、児童生徒等から取り入れた意見を反映させたうえで、基本方針を改定した。	不登校支援・いじめ対策課
13	中学校給食「みんなで選ぶ給食選挙」	中学1～3年生(37,450人)	令和7年7月、12月	中学校生徒を対象に、生徒が献立作りに参加することで、生徒が食に関心を持つきっかけとなること、食の楽しさを共有すること、生徒の声を反映した献立となることを目的とし、生徒自身の投票によって献立を決める取組を実施した。	学校給食・食育推進課
14	横浜市立図書館のサービス及び利用状況等に関するアンケート	制限なし(103人) ※やさしい日本語版を作成し、漢字にふりがなを付ける、ひらがな表記にする、単語を言い換えるなど、わかりやすく表	・市立図書館 18 館、図書取次所、移動図書館での実施 令和7年9月11日～9月25日 ・電子申請	調べものや学習ができる席を充実してほしい、新しい発見につながる体験型イベントを開催してほしい、などの意見が多かった。 いただいた意見も踏まえて、夏休み期間中の閲覧席の増設等に取り組んだほか、「横浜市図書館ビジョン」に基づいた取組を進めるための参考にした。	企画運営課

		現する工夫を実施した。	での実施 令和7年 9月11日 ～10月5 日		
15	のげやま子ども図書館こどもフロア整備に係るワークショップ	小学生(16人)	令和7年8月19日	小学生から、図書館にあったらいいと思う家具のアイディアとして「集中できる場所」や「大きなソファ」などの意見が出て、設計者が什器の計画に反映した。	サービス課
16	①地域図書館内装リノベーションにおけるアンケート ②地域図書館内装リノベーションにおけるこどもへのヒアリング	①制限なし(363人) ※こども用アンケートは、やさしい日本語、ひらがなを使ってアンケートを作成した。 ②小学生、中学生、高校生、大学生等(48人)	①令和7年5月1日～21日、令和8年2月20日～3月31日 ②令和7年4～5月、令和8年2～3月	閲覧席数、子どもたちがゆったり過ごせるスペース、友達や家族と利用できる座席を望む意見や、探しやすい本棚の配置への期待が多数あった。 いただいた意見を各地域図書館のリノベーションの方向性に反映した(閲覧数の数を増やす、見通しのよい安全な環境、グループで利用できるスペースの設置等)。	教育政策推進課
17	新図書館整備基本構想に向けたインタビュー	対象校の小学5～6年生、中学2～3年生、高校1～3年生(46人)	令和7年9月22日、9月26日、10月17日	現在の図書館のイメージについて、「勉強や調べものをする場所」などの意見があった。また、行ってみたいくなる図書館として、「お店やカフェが併設していて気軽に行ける場所」や「友達と一緒に一日過ごせる場所」などの意見があった。 いただいた意見は、基本構想策定にあたり、目指す姿、機能などに反映した。	教育政策推進課

■ 選挙管理委員会事務局の取組

取組①	こども向けイベントにおける選挙啓発物品作成のための意見聴取 【調査課】
取組内容	市庁舎アトリウムにおいて開催された、「わくわく！ こどもハロウィン」イベントの選挙管理委員会事務局ブースにて、啓発物品として作成するウェットティッシュのカバーの色を決定するため、模擬投票を実施した。各キャラクターがそれぞれの色を公約として掲げ、来場したこどもたちに投票してもらった。 開票の結果、最多得票となった白色のウェットティッシュを作成した。
対 象	未就学児、小学生（680人）
実施時期	令和7年10月19日
主な意見と活用方法等	模擬投票を通じて、実際の投票用紙や記載台、計数機に触れる体験ができてよかった、との声が寄せられた。 作成したウェットティッシュは今年度の市庁舎アトリウムイベントで配付。



取組②	選挙に関する出前授業に対しての高校生等からの意見聴取 【調査課】
取組内容	横浜市内の高等学校、特別支援学校及び専修学校の生徒を対象として、選挙に関する出前授業を実施した。 授業後には、参加生徒を対象に出前授業の改善に向けた意見を聴取し、今後の出前授業及び選挙啓発事業の企画・実施に向けた参考資料とした。
対 象	高校生、専門学校生（311人）
実施時期	・ 令和7年6月16～19日（市立横浜商業高等学校） ・ 令和7年7月9日（神奈川県立保土ヶ谷支援学校） ・ 令和7年7月25日（市立金沢高等学校） ・ 令和7年7月25日（国際フード製菓専門学校）
主な意見と活用方法等	出前授業を通じて、「選挙に関して理解が深まった」との回答が多く見られた。また、投票しやすい環境の整備についても様々な意見が寄せられた。 選挙の大切さをより理解してもらえるよう、今後の出前授業に活用していく。



	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	こども向けイベントにおける選挙啓発物品作成のための意見聴取	未就学児、小学生(680人)	令和7年 10月19日	模擬投票を通じて、実際の投票用紙や記載台、計数機に触れる体験ができてよかった、との声が寄せられた。 作成したウェットティッシュは今年度の市庁舎アトリウムイベントで配付。	調査課
2	選挙に関する出前授業に対しての高校生等からの意見聴取	高校生、専門学校生(311人)	・令和7年6月16～19日(市立横浜商業高等学校) ・令和7年7月9日(神奈川県立保土ケ谷支援学校) ・令和7年7月25日(市立金沢高等学校) ・令和7年7月25日(国際フード製菓専門学校)	出前授業を通じて、「選挙に関して理解が深まった」との回答が多く見られた。また、投票しやすい環境の整備についても様々な意見が寄せられた。 選挙の大切さをより理解してもらえよう、今後の出前授業に活用していく。	調査課

■ 人事委員会事務局の取組

取組①	採用広報イベント及び横浜市職員採用試験・選考におけるアンケート 【任用課】	
取組内容	採用広報イベントの充実に向けて、よりニーズに即した魅力的な企画が実施できるよう、当日の満足度や、参加しやすい条件等について参加者にアンケートを実施した。また、本市職員採用試験・選考専用サイトへの登録時に、就職先を検討する上で知りたい情報や、その情報の入手希望時期等について尋ねるアンケートを実施した。	
対 象	高校生、大学生等（22 歳までの 4,771 人）	
実施時期	【採用広報イベント】 就活・転職セミナーvol. 1～5（令和7年11月～令和8年2月） 【採用試験・選考】 横浜市職員採用試験・選考 専用サイト 登録（通年）	
主な意見と活用方法等	セミナーについては、回答者の9割以上が「志望度が上がった」と回答し、その理由として「職員と直接話せてよかった」等の意見が寄せられた。 職員と直接話す機会をさらに充実させるとともに、アンケート結果を集計・分析し、採用広報活動の実施内容や時期等の検討に活用している。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	採用広報イベント及び横浜市職員採用試験・選考におけるアンケート	高校生、大学生等(22 歳までの 4,771 人)	【採用広報イベント】就活・転職セミナーvol.1～5（令和7年11月～令和8年2月） 【採用試験・選考】横浜市職員採用試験・選考専用サイト 登録（通年）	セミナーについては、回答者の9割以上が「志望度が上がった」と回答し、その理由として「職員と直接話せてよかった」等の意見が寄せられた。 職員と直接話す機会をさらに充実させるとともに、アンケート結果を集計・分析し、採用広報活動の実施内容や時期等の検討に活用している。	任用課

■ 議会局の取組

取組①	子どもアドベンチャーカレッジ 2025「議事堂探検！議員を体験！」におけるアンケートの実施	
取組内容	「主体的・対話的で深い学びのきっかけづくり」と「社会参加のきっかけづくり」の場と機会を提供する当事業の目的を踏まえ、本企画の内容の充実や見直しに活用するため、アンケートを実施した。	【政策調査課】 
対 象	小学3～6年生（38人）	
実施時期	令和7年8月5日～6日	
主な意見と活用方法等	アンケートの結果、「議事堂にまた来たいと思いますか？」という設問に対し、参加した児童の約9割が「ぜひ来たい」と回答した。 また、「議会を見学して学んだこと、気づいたことなどありましたか？また、今後やってみたいことがあれば教えてください。」という設問に対し、「ボタン採決が楽しかった。」という意見が多数寄せられたほか、「普段の日常に議会がとても関わっていることを知れて楽しかった。」、「次は傍聴に来てみたいと思った。」、「議員と話せてよかった。」、「特別応接室にいられてよかった。」、「議長になってみたい。」などの意見があった。 意見をもとに、取組内容の充実を図りつつ、今後とも体験型のプログラムを継続予定。	

取組②	高校生の市会訪問における意見交換及びアンケートの実施	
取組内容	議会・議員活動への理解を促すとともに、社会の動きに対して自分の立場で考え政治に参画する力を育み、主権者意識を高めるため、本会議の流れを体験する他、地域課題や日頃感じていること等について市会議員と意見交換する機会を設けた。また、実施後は、本企画の内容の充実や見直しに活用するため、アンケートを実施した。	【政策調査課】 
対 象	高校生（16人）	
実施時期	令和7年12月23日	
主な意見と活用方法等	市会議員との意見交換では、SNS、高齢化、介護、学食、生徒会活動など、日常生活で感じている課題等についての意見や質問があった。 アンケートでは、「議員の意見や政策についての話がとても印象に残った。」、「声を上げることが社会を少しでも良くするきっかけになるとわかった。」、「議員に意見を伝える機会が	

	思っていたより多いことがわかった。」、「実際の議会を傍聴する機会があれば参加してみたい。」、「発言台で話したことが印象に残った。」、「議員の考えを聞いて改めて議会の大事さを知った。」などの意見があった。 意見をもとに、引き続き本会議場を使用した体験プログラムや議員との意見交換を継続するとともに、取組内容の充実を図る。
--	---

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	子どもアドベンチャーカレッジ 2025「議事堂探検！議員を体験！」におけるアンケートの実施	小学3～6年生(38人)	令和7年8月5日～6日	アンケートの結果、「議事堂にまた来たいと思いますか？」という設問に対し、参加した児童の約9割が「ぜひ来たい」と回答した。 また、「議会を見学して学んだこと、気づいたことなどはありましたか？また、今後やってみたいことがあれば教えてください。」という設問に対し、「ボタン採決が楽しかった。」という意見が多数寄せられたほか、「普段の日常に議会がとても関わっていることを知れて楽しかった。」、「次は傍聴に来てみたいと思った。」、「議員と話せてよかった。」、「特別応接室にいけてよかった。」、「議長になってみたい。」などの意見があった。 意見をもとに、取組内容の充実を図りつつ、今後とも体験型のプログラムを継続予定。	政策調査課
2	キャリア教育プログラムにおける意見交換及びアンケートの実施	大学生(9人)	令和7年8月26日～27日	市会議員との意見交換では、「市内大学のゼミで共同プロジェクトチームを結成し、自治体との意見交換やフィールドワークを重ね、議会に対して意見発表を行うのはどうか。」など、若者の意見を聞くための取組についてアイデアがあがった。 アンケートでは、「市会議員との意見交換が1番印象に残った(参加者全員)。」、「議員の方とグループワークの発表以外のことについても話したかった。」、「働くイメージが湧き、横浜市役所で働きたいと思った。」などの意見があった。 意見をもとに、実施期間の拡充や取組内容の充実を図りつつ、横浜市役所で働く魅力を感じてもらえるよう、引き続き職員との交流	政策調査課

				会や議員との意見交換を継続予定。	
3	高校生の市会訪問における意見交換及びアンケートの実施	高校生(16人)	令和7年 12月23日	市会議員との意見交換では、SNS、高齢化、介護、学食、生徒会活動など、日常生活で感じている課題等についての意見や質問があった。 アンケートでは、「議員の意見や政策についての話がとても印象に残った。」「声を上げることが社会を少しでも良くするきっかけになるとわかった。」「議員に意見を伝える機会が思っていたより多いことがわかった。」「実際の議会を傍聴する機会があれば参加してみたい。」「発言台で話したことが印象に残った。」「議員の考えを聞いて改めて議会の大事さを知った。」などの意見があった。 意見をもとに、引き続き本会議場を使用した体験プログラムや議員との意見交換を継続するとともに、取組内容の充実を図る。	政策調査課

■ 鶴見区の取組

取組①	横浜グリーンエキスポ PR ブースや TSURUMI GO GREEN 宣言でのアンケート収集 【区政推進課】	
取組内容	区民まつり等のイベントにおいて、横浜グリーンエキスポの認知度等に関するシールアンケートを実施した。参加した人には景品を渡すことで、こどもの参加を促し、エキスポに対する反応を確認した。 併せて、日常生活で取り組む脱炭素行動を宣言してもらう「TSURUMI GO GREEN 宣言」について、オンラインで参加できるキャンペーンを実施し、アイデアや意見を収集した。	
対 象	小学生、中学生、高校生（2,652 人）	
実施時期	通年	
主な意見と活用方法等	横浜グリーンエキスポの認知度や、家庭でできる脱炭素行動の工夫などについて把握し、令和 8 年度の事業内容に反映した。	

取組②	第 5 期鶴見区地域福祉保健計画策定に係るこどもからの意見聴取 【福祉保健課】	
取組内容	ケアプラザまつり等で参加したこどもに、シールアンケートで地域福祉に関する意見を聴取した。 地区懇談会にこどもが参加し、地域福祉に関して意見交換を実施した。	
対 象	小学生、中学生（約 960 人）	
実施時期	令和 7 年 6 月～令和 8 年 1 月	
主な意見と活用方法等	地区別計画の取組の内容に反映や関連部署へ共有し対応依頼。 アンケート：結果集約後、地区懇談会で共有している。 懇談会：懇談会を設定し取組に反映させていることを説明している。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	地区センター探索プロジェクト「地区センターはどんな場所？」	小学生(32 人)	令和7年 10 月	3 日間午後の授業の時間をあて、地区センター 2 階や地下 1 階を探検しながら利用者に質問した。地区センターは児童にとって「もうひとつの居場所」であることを確認して今後の利用につなげた。	地域振興課 (矢向地区センター)
2	施設実施事業こども化	小学生(12	令和7年 7	「楽しかった」「またこのような実験をやって	地域振興課

	学教室	人)	月 25 日	ほしい」「難しかった」「今度はスライムを作 てみたい」という、子供達の感想や意見を今 年度にもっと楽しんでいただけるように取り 入れる。	(駒岡地区セ ンター)
3	こどもの本総選挙	小学生(約 100 人)	令和7年 7 月～8 月	回収した投票用紙は、総選挙事務局にその まま送付した。 後日、発表されたトップ 10 を館内に掲示 し、該当する図書を受付横に「子どもの本総 選挙トップ 10」コーナーを設置して配架し た。	地域振興課 (潮田地区セ ンター)
4	0 歳からのコンサートに おける参加者からの感 想募集	0歳から小学 1・2年生(82 人)	令和7年 7 月 19 日	「楽しかった」「また来たい」という声が多 く、自身の手で貼ることで満足感を感じてい たようだ。 今後実施する際の参考とする。	地域振興課 (鶴見区民文 化センター)
5	望遠鏡作りワークショッ プにおける参加者からの アンケート収集	小学生、中学 生(42 人)	令和7年 7 月 26 日	望遠鏡作りの楽しさとともに、天体への興 味がわいたという声が多かった。夏休みの自 由研究にするという声もあった。 今後実施する際の参考とする。	地域振興課 (鶴見区民文 化センター)
6	鶴見区環境行動推進事 業における「つるみ・ちゅ らうみエコフェスタ(イベ ント)」参加者へのアンケ ート	未就学児、小 学4～6年生 (193 人)	令和7年 10 月4日、 10 月5日	満足度:満足・やや満足が91% 「3D 映像や海の先生にまた参加したい」と いう意見を踏まえて、8年度の実施内容検討 時に反映した。(継続)	区政推進課
7	横浜グリーンエキスポ PR ブースや TSURUMI GO GREEN 宣言でのアン ケート収集	小学生、中学 生、高校生 (2,652 人)	通年	横浜グリーンエキスポの認知度や、家庭で できる脱炭素行動の工夫などについて把握 し、令和8年度の事業内容に反映した。	区政推進課
8	区制 100 周年ロゴマー ク投票	3 歳児とその 兄弟(約 30 人)	令和7年 11 月 20 日 ほか	3 パターンのデザイン案より自由に回答し てもらった。 投票結果に反映するほか、アンケートに参 加すること自体が 100 周年の PR になるほ か、アンケート時の反応が 100 周年の PR の参考となった。	区政推進課
9	銭湯体験イベントの開催	未就学児、小 学生(約 30 人)	・令和7年 11 月 22 日 ・令和7年	実施後のアンケートでは、薪をくべる体験が できたことなどにより、「楽しかった。また家 族と銭湯に来たい」といった声が聞かれた。 今後、区の魅力発信やイベントの企画など	区政推進課

			11月30日	の参考としていく。	
10	第5期鶴見区地域福祉保健計画策定に係るこどもからの意見聴取	小学生、中学生(約960人)	令和7年6月～令和8年1月	地区別計画の取組の内容に反映や関連部署へ共有し対応依頼。 アンケート:結果集約後、地区懇談会で共有している。 懇談会:懇談会を設定し取組に反映させていることを説明している。	福祉保健課
11	【矢向地域ケアプラザ】 矢向中学校2年生職場体験	中学生(5人)	令和8年1月16日	地域とつながるためにどのような活動をしているのかを学ぶことができた。 中学生から出た意見を第5期鶴見区地域福祉保健計画策定の参考に使用した。	福祉保健課
12	【馬場地域ケアプラザ】 地域と何ができる会?	小学生、中学生(約60人)	令和7年7月18日	「集いの場のことを自分たちも発信した方がいい。」「集いの場に参加した時、挨拶ができるようになった。」「清掃活動に参加する。」などの意見があった。	福祉保健課
13	【馬場地域ケアプラザ】 LCT!(レッツクリーンツルミ)地域清掃活動打ち合わせ	中学生(約30人)	令和7年7月4日 令和7年10月7日	「活動範囲を広げたい。」「開会式を中学校でおこない、みんな役割をもつ。」などの意見があった。	福祉保健課
14	学童保育向け食品衛生出前講座における手洗いタイミングのアンケート	小学生(57人)	・令和7年11月14日 ・令和7年11月26日	こども達に手洗いを行うタイミングについてアンケートを実施した結果、帰宅後の手洗いより、給食当番や食事の前、トイレ利用後の手洗いに対する意識が低い結果だった。 アンケートで判ったこどもの行動傾向を感染症発生時の拡大予防指導や、翌年度以降の講座に活かしていく。	生活衛生課
15	学園祭食中毒予防講習会受講者アンケート	高校生(191人)	令和7年8月27日	講習会受講者へのアンケート結果から、視覚的に分かりやすい資料に加え、実演等も交えた内容に効果があったことがわかった。 今後期待する講習内容も収集することができ、次年度の講座内容に活かしていく。	生活衛生課
16	寄り添い型学習支援事業における生徒からの意見聴取	小学5・6年生、中学生、高校生等(162人)	(通年の学習支援事業利用者) ・令和7年度当初(もしくは利用開始	「勉強が分かるようになった。」「先生が親しみやすく質問しやすい。」「通うことが楽しみである。」などの意見があった。 アンケート結果を次年度の事業運営に生かしていく。	生活支援課

			時) ・令和8年3 月(年度末) (年3回開催 の高校生世 代支援講座 利用者) ・講座参加 時		
--	--	--	--	--	--

■ 神奈川区の取組

取組①	地域福祉保健推進事業における小学校への出前教室における意見聴取 【福祉保健課】	
取組内容	小学校の総合授業を活用し、第4期かながわ支え愛プランの啓発と、こどもたちの地域活動への参画意識の醸成を図った。 その中で、第5期の計画策定にあたって、こどもたちから「この街がもっとこうなったらいい」という意見を集めた。	
対 象	小学5・6年生（193人）	
実施時期	・令和7年5月9日 ・令和7年5月30日 ・令和7年9月17日 ・令和7年11月14日	
主な意見と活用方法等	きれいな街、挨拶ができる街、安全な街、みんな仲がいい街、といった声を第5期かながわ支え愛プラン（神奈川区地域福祉保健計画）内の自分たちにできること、に掲載し、計画全体で取り組む内容とした。 実際に、授業を踏まえて、世代間交流やまちの美化等の地域の課題に小学生自らが向き合い、ごみ拾いウォーキングや、モルック大会を実施した。	

取組②	公園美化・活性化にかかる小学校児童からの意見徴収 【神奈川土木事務所】	
取組内容	学校教育の一環として、小学校の近くにある公園の美化・活性化のために児童たちが意見を出し合い、切株アートや公園愛護会倉庫の塗装を行った。 また、本取組について、児童たちが商店街や地区センターにPRを行った。	
対 象	小学5年生（約30人）	
実施時期	令和7年9月～11月	
主な意見と活用方法等	片倉公園をもっと魅力的な公園にしたい、という構想が児童から提案された。 提案された中から、片倉公園の美化や活性化に向けて出来る取組として、切株アートや公園愛護会倉庫の塗装を行った。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	かながわ区防災デイキャンプにおける参加者アンケート	区内在住・在学の小学生(65人)	令和7年9月20日	避難所(地域防災拠点)や備蓄について理解が深まったという意見が多かった。 今後の啓発イベントがより効果的なものとなるよう、内容を検討する際に意見を活用する。	総務課
2	かながわ区民カレッジ for Kidsにおける参加者アンケート	小学生(25人)	令和7年8月16日	「太陽光発電は曇りや雨の日にはどうなるのか、光はためておけるのかを知りたい。」、「CO2の削減方法や日々できることを知りたい。」といった意見が集まった。 今後ワークショップを実施する際の題材の検討に活用する。	区政推進課
3	神奈川区制100周年記念ロゴマークの区民投票における、こどもの投票機会の創出	小学生、中学生など(約300人)	・令和7年12月22日～令和8年1月31日 ・令和8年1月10日	こどもたちの投票が、区民投票に反映された。	区政推進課
4	菅田地区センターの運営全般に係るこどもからの意見聴取	小学生、中学生(35人)	令和8年1月～2月	「読みたい本」の質問に対して4割の回答がマンガだったので、ロビーに自由に読めるマンガ(シリーズの揃ったもの)を配置した。	地域振興課
5	神奈川中学校コミュニティハウスでのイベント運営に係るこどもからの意見聴取	小学生、中学生(14人)	令和7年8月、11月	「準備から片付けまで自分たちが関わりたい」という意見があり、イベントの企画から当日の運営まで、延べ14名のこどもが自主的に参加してくれた。	地域振興課
6	みんなの文化祭夏のわくわくワークショップ参加者向けアンケート	未就学児、小学生等(全体で73人)	令和7年7月23日～25日、28日～29日	こどもたちの感想を、次年度の講座内容と依頼先の街の先生(地域活動ボランティア)の選定に活用した。	地域振興課
7	国の文化を伝えるネパールダンスの企画検討(神奈川区多文化共生ラウンジ)	未就学児、小学生、中学生、高校生(7人)	令和7年11月23日	こどもたちの意見を反映し、ダンスを学び披露する企画内容となった。 こどもたちの自主的な活動につながった。	地域振興課
8	地域福祉保健推進事業における小学校への出前教室における意見聴取	小学5・6年生(193人)	・令和7年5月9日 ・令和7年5月30日 ・令和7年9	きれいな街、挨拶ができる街、安全な街、みんな仲がいい街、といった声を第5期かながわ支え愛プラン(神奈川区地域福祉保健計画)内の自分たちにできること、に掲載し、計画全体で取り組む内容とした。	福祉保健課

			月 17 日 ・令和7年 11 月 14 日	実際に、授業を踏まえて、世代間交流やまちの美化等の地域の課題に小学生自らが向き合い、ごみ拾いウォーキングや、モルック大会を実施した。	
9	六角橋地域ケアプラザ実施事業「サンタクリーン大作戦」(クリスマスの時期に実施する地域清掃の事業)における企画への大学生の意見反映	大学生等(30人)	令和7年 12 月 20 日	3か月に渡り、事業の企画を協働で行った。ごみの分別について詳しく知らない人が多い中で、分別方法を外国籍の方も含めた多くの人に知ってもらうためにはどうしたらよいかという話し合いを行い、資源循環局や多文化共生ラウンジに協力を依頼することとした。 企画内には、学生から出た以下の意見を取り入れた。 ○外国籍の方にも分かりやすくごみの分別を知ってもらえるよう、資源循環局に協力を依頼し、外国籍の方向けの分別方法レジュメを活用するとよい。 ○住民参加型のごみ拾い企画は、地域交流ができるほか、地域や地域のごみの現状を知る機会にもなるため実施するとよい。	福祉保健課
10	六角橋地域ケアプラザ実施事業「オハナの遊び場」(公園遊びや宿題を一緒に行う事業)における企画への大学生の意見反映	大学生(1回 10 人程度)	・令和7年8 月6日 ・令和7年8 月7日	地域ケアプラザの事業について、学生自身の主体性を活かし、企画実施を通して実践の場を提供した。また、広報紙等でのお知らせも協力を行った。 企画には、学生から出た以下の意見を取り入れた。 ○親と子との関りの創出と、場の提供があるとよい。 ○季節にちなんだ行事の実施があるとよい。 ○学生同士の交流の機会をつくってほしい。(大学ではあまり先輩後輩同士関わる機会が少ない)	福祉保健課
11	六角橋地域ケアプラザ実施事業「まちを知らう！ハロウィンパレード」における企画への高校生の意見反映	高校生(15人)	令和7年 10 月 25 日	地域ケアプラザの事業について、専門学校と協力し、レクリエーションでは高校生が主体的に企画、実施した。 企画には、学生から出た以下の意見を取り入れた。 ○参加者同士が別の学校在籍の為、互いを知る、交流する機会としてほしい。	福祉保健課

12	六角橋地域ケアプラザ実施事業「スマホ講座」における企画への大学生の意見反映	大学生(1回15人程度)	・令和7年5月11日 ・令和7年7月13日 ・令和7年9月14日 ・令和8年1月11日 ・令和8年3月8日	地域ケアプラザの事業について、大学生が立案した。 ケアプラザは広報の支援と場所の提供、チラシ作成等の支援、自治会町内会の掲示板へチラシを掲示するための依頼や連携協力を行った。 事業内容には、以下のような意見を反映させた。 ○事業自体を後輩に引継ぎやすく、新人ボランティア学生にも紹介や案内、告知しやすい。 ボランティア支援室への誘致につなげたい。 ○地域の方と接する機会が少ない学生にとって、事業を通して交流できることの大切さを知る機会としてほしい。	福祉保健課
13	幼児用遊具の色の選定に伴う保育園及び地区センター利用者からの意見徴収	保育園児、地区センター利用者、公園利用者(全体で562人)	令和7年6月～7月	計562票のアンケートの結果、得票率の高い青、緑の遊具を選定した。	神奈川土木事務所
14	公園花壇の花苗植付にかかる小学校児童からの意見徴収	小学3年生(33人)	令和7年7月～令和8年3月	自分たちで提案した花苗を植えたことにより公園への関心が高まった。花苗の植付後に、公園の利用マナー啓発看板を設置するなど、年間を通して公園の維持管理に参加する機会を創出した。	神奈川土木事務所
15	公園美化・活性化にかかる小学校児童からの意見徴収	小学5年生(約30人)	令和7年9月～11月	片倉公園をもっと魅力的な公園にしたい、という構想が児童から提案された。提案された中から、片倉公園の美化や活性化に向けて出来る取組として、切株アートや公園愛護会倉庫の塗装を行った。	神奈川土木事務所

■ 西区の取組

取組①	にこまちプラン出前講座からの意見聴取 ①「(地域の一員として) 今日からわたしにできること」の意見聴取 ②地域福祉保健計画素案への区民意見募集 【福祉保健課】	
取組内容	①小中学校に「にこまちプラン（西区地域福祉保健計画）」の出前講座を行った際に「(地域の一員として) 今日からわたしにできること」について、その場または後日、意見を聴いた。 ②出前講座で第5期にこまちプラン素案への区民意見募集についても説明し、こどもたちから提出してもらった意見を区民意見に採用した。	
対 象	①小学生、中学生（300 人） ②小学生（83 人） ※区民意見募集には年齢制限なし。出前講座で区民意見募集について説明した。	
実施時期	令和7年4月～令和8年3月	
主な意見と活用方法等	「挨拶をする」「地域のイベントや活動に参加する」などの意見が出された。実際に地域の方から「道で会った時に挨拶してくれるようになった」「こども食堂に来てくれた」という声を聞く。 次年度以降も地域とこどもたちとのつながりをつくるために、出前講座を活用していく。	

取組②	区民まつりでの意見聴取 【福祉保健課】	
取組内容	区民まつりのブースで、3つのオープנקエスチョン 「①10年後、どんな地域に住んでいたい？ ②周りの大人にアドバイスしたいことは？ ③困っていることはどんなこと？」 のうちから、回答したい質問を選び、付箋に回答を書いてもらう形で意見を聴取した。	
対 象	未就学児～高校生（約 300 人）	
実施時期	令和7年11月2日	
主な意見と活用方法等	①→安心・安全なまち、楽しいまち等 ②→タバコを捨てないで、ルールを守って等	

	③→友達とのケンカ、宿題が多い等の意見をもらった。 「にこまちプラン（西区地域福祉保健計画）」の策定にあたり、目標5プロジェクトチーム（「こどもが健やかに成長できるまち」を推進するための区・区社協一体のチーム）にアンケート結果を共有して参考にしてもらった。今後もこどもたちからもらった意見を目標5プロジェクトチームに共有し、にこまちプラン目標5の取組に反映させていく。
--	--

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	藤棚地区センター自主事業「小学生オセロ大会（予選会）」における小学生からの意見聴取	小学1～6年生(9人)	令和7年8月7日	参加者全員が「たのしかった」「また参加したい」と回答した。 7割がポスターを見て参加していたため、引き続き館内での周知に力を入れる。	地域振興課 (指定管理者の取組)
2	藤棚地区センター自主事業「横浜市みどり環境局による講座 音のふしぎを体験してみよう」における小学生からの意見聴取	小学生(11人)	令和7年8月8日	1.参加者の90%が「とても楽しかった」と回答があった。 2.これからやってほしいイベントとして、 ・光の実験や光の錯覚 ・時間の存在 ・アニメのイベント ・お話会 ・工作教室 など多くのご意見があった。 工作教室開催を希望するご意見を参考に、令和8年度夏休みに「土偶づくり」の工作教室を実施する。	地域振興課 (指定管理者の取組)
3	戸部コミュニティハウス自主事業「おもしろ科学教室」における小・中学生からの意見聴取	小学生、中学生(10～20人)	・令和7年7月12日 ・令和7年9月27日 ・令和7年11月8日	自主事業に参加した小学生のイベントの満足度は93%が満足と回答し、感想として「楽しかった」と9割以上が記入していた。 今後開催して欲しいイベントとして「プログラミング」や「ロボット作り」などの回答は、こども達の興味の方向性を知ることができ活用したいと考える。	地域振興課 (指定管理者の取組)
4	戸部コミュニティハウス自主事業「オセロ予選会」における小学生からの意見聴取	小学生(10人)	令和7年8月2日	参加者がイベントについて満足と回答したのは90%で不満回答は0%であった。今後開催を希望するイベントとして「将棋」を希望する回答が特に多かった。 その他様々な希望があり今後の自主事業計画へ反映したいと考える。	地域振興課 (指定管理者の取組)
5	戸部コミュニティハウス	小学生(15)	令和7年8	参加した小学生の満足度として満足が	地域振興課

	自主事業「子ども将棋教室」における小学生からの意見聴取	人)	月 20 日	60%、普通が 33%、不満が 7%(回答者 1 人)であった。満足の回答者は「上の学年に勝てた」や「いろんな人と対局ができたから」、不満の回答者は「こわかった」と記入されていた。1 年生の参加が 33%で小学生としてのイベント参加が初めてだった可能性もあることを考え受付や講師の対応を見直す良い意見をいただいた。 自由回答では「おべんきょうになった」「最高でした。明日は絶対勝ちたい」など、今後開催を希望するイベントは「パソコン教室」が最多であった、今後の自主事業計画へ反映したい。	(指定管理者の取組)
6	戸部コミュニティハウス 自主事業「親子でフェイスペイント」における小学生等からの意見聴取	小学生以上 (7 人)	令和7年 10 月 4 日	参加者 1 人以外は満足と回答していた。記述式の感想では「道具が全て用意されていたことが良かった」という意見が複数あった。本格的なペイントを気軽に体験できたことが好評であった。評価していただいた点を今後の自主事業計画へ反映したい。	地域振興課 (指定管理者の取組)
7	にこまちプラン出前講座からの意見聴取 ①「(地域の一員として) 今日からわたしにできること」の意見聴取 ②地域福祉保健計画素案への区民意見募集	①小学生、中学生(300 人) ②小学生(83 人) ※出前講座で区民意見募集について説明した。	令和7年4 月～令和8 年3月	「挨拶をする」「地域のイベントや活動に参加する」などの意見が出された。実際に地域の方から「道で会った時に挨拶してくれるようになった」「こども食堂に来てくれた」という声を聞く。 次年度以降も地域とこどもたちとのつながりをつくるために、出前講座を活用していく。	福祉保健課
8	区民まつりでの意見聴取	未就学児～高校生(約 300 人)	令和7年 11 月 2 日	①10 年後、どんな地域に住んでいたい？→安心・安全なまち、楽しいまち等②周りの大人にアドバイスしたいことは？→タバコを捨てないで、ルールを守って等③困っていることはどんなこと？→友達のケンカ、宿題が多い等の意見をもらった。 にこまちプラン(西区地域福祉保健計画)の策定にあたり、目標5プロジェクトチーム(「こどもが健やかに成長できるまち」を推進するための区・区社協一体のチーム)にアンケート結果を共有して参考にしてもらった。今後も	福祉保健課

				こどもたちからもらった意見を目標5プロジェクトチームに共有し、にこまちプラン目標5の取組に反映させていく。	
9	夏休みこども企画・昼どきラジオ体操におけるこどもからの意見聴取	幼児、小学生 (10人)	令和7年8月18日～22日	身近な場所でラジオ体操や金魚(おもちゃ)すくいや輪投げゲームをできることが楽しかった、来年もやりたい等の意見が出た。 地域のこどもたちが楽しめ、交流が深まる場として、こどもたちが次年度も開催することを決定した。引き続き、こどもたちの意見と主体的な参加によって、この企画を継続していく。	宮崎地域ケアプラザ
10	町内会こども会によるパン作り教室における意見聴取	幼児、小学生 (15人)	令和7年9月28日	「自宅ではなかなかできない体験であり、いい経験になった」「普段気軽に食べているものも様々な材料や手順で作られているという発見があった」などの意見があった。 貴重な体験の場であるため、より多くの地域のこどもたちが体験できるよう、意見を活用し、次年度以降も実施できるよう調整中。	宮崎地域ケアプラザ
11	中学校職場体験における意見聴取	中学生(4人)	令和8年1月27日～29日	「職員が誰にでも笑顔で優しくまた積極的に接していたり、様々な工夫を感じられて良かった」「認知症についての理解が深まった」などの意見をもらった。 次年度以降も同様に受入予定であり、内容の改善等に活用予定。	宮崎地域ケアプラザ
12	認知症サポーター養成講座(場所:富士見台小学校)における意見聴取	小学1年生 (43人)	令和7年9月19日	「困っている人がいたら助ける」といった意見が多かった。 「認知症」に対して偏見を持たないことと自分たちで出来ることを考えてもらうという意図を持って講座を実施したので目的は達成できたことが確認できた。 困っている人と関わる場合、児童が危険な目に合わないよう今後の児童向け講座ではより配慮した内容にしていく。	藤棚地域ケアプラザ
13	夏休みボランティア体験におけるアンケートからの意見聴取	小学生～大学生等(21人)	令和7年7月～8月	活動場所によっては「あまりやることがなかった」など、活動内容に関する意見があったため、それらを参考にして次年度のプログラムを作成した。 今後もアンケートから率直な意見を聞き、内容の工夫に努める。	西区社協・西区内地域ケアプラザ(区社協とケアプラザの共催)

■ 中区の取組

取組①	中区制 100 周年キャッチフレーズについて 18 歳以下の子どもを対象とした募集 【区政推進課】
取組内容	2027 年に迎える中区制 100 周年について、次世代を担う 18 歳以下の中区民（在学・在勤含む）を対象に、未来に向けて一歩を促すような、中区制 100 周年キャッチフレーズを募集した。  
対 象	主に小学生、中学生、高校生（145 人）
実施時期	令和 7 年 10 月 1 日～11 月 20 日
主な意見と活用方法等	145 件の応募があり、その中から、中区制 100 周年記念事業実行委員会において候補作品を 4 作品に絞ったうえで、一般投票により 1 作品に決定した。 決定したキャッチフレーズのイメージにあった中区制 100 周年記念ロゴマークを作成した。 キャッチフレーズとロゴマークを、今後中区制 100 周年の PR に積極的に活用していく。

取組②	なかくっこ自由研究大作戦でのアンケート実施 【区政推進課】
取組内容	主に小学生を対象として、夏休み期間中に区役所や会社のお仕事、地域について楽しく学ぶことができるプログラム『なかくっこ自由研究大作戦』について、令和 8 年度に実施する題材を検討するため、各題材の参加者にアンケートで意見を募集した。 
対 象	小学生（253 人）
実施時期	令和 7 年 7 月～8 月
主な意見と活用方法等	特に多かった意見は工事現場・車両基地・港湾施設・県庁、市役所、企業の裏側など「普段は入れない場所に入れる企画」であった。 これを受け、令和 8 年度は新規題材として、旧横浜市役所を活用したホテル内部見学企画を実施予定。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	中区制 100 周年キャッチフレーズについて 18 歳以下の子どもを対象とした募集	主に小学生、中学生、高校生(145 人)	令和7年 10月1日～ 11月20 日	145 件の応募があり、その中から、中区制 100 周年記念事業実行委員会において候補作品を4作品に絞ったうえで、一般投票により1作品に決定した。 決定したキャッチフレーズのイメージにあった中区制 100 周年記念ロゴマークを作成した。 キャッチフレーズとロゴマークを、今後中区制 100 周年の PR に積極的に活用していく。	区政推進課
2	なかくっこ自由研究大作戦でのアンケート実施	小学生(253 人)	令和7年7 月～8月	特に多かった意見は工事現場・車両基地・港湾施設・県庁、市役所、企業の裏側など「普段は入れない場所に入れる企画」であった。 これを受け、令和8年度は新規題材として、旧横浜市役所を活用したホテル内部見学企画を実施予定。	区政推進課
3	選挙啓発の出前授業における生徒からの意見聴取(本町小学校)	小学6年生 (90 人)	令和7年 12月23 日	「メニューを増やした方がより興味深くなる」との意見が複数見られた。一方で、講義の評価は概ね良好であったものの、「実際の選挙に参加したいという意欲」との間に顕著な相関は確認されなかった。 これを踏まえ、次年度においては候補メニューの拡充を図るとともに、小学生にとっても選挙をより身近なものとして実感できるような取り組みを推進していく必要がある。	総務課
4	選挙啓発の出前授業における生徒からの意見聴取(港中学校)	港中学校生徒会の3年生 (20 人)	令和7年 12月3日	アンケートでは参加者全員から前向きな意見が得られ、若年層への啓発につながる成果が確認できた。 今後も同様の講義を継続的に実施するとともに、生徒会役員に限らず、生徒会活動に関心を有する生徒にも参加機会を拡充させていきたい。	総務課
5	地域創生まじゅんプロジェクト(中区連携プロジェクト)における大学生からの意見聴取	大学生(5人)	令和7年4 月～12月	言葉の壁や世代を超えて参加者間の結びつきを作るため、スポーツイベントを行った方が良い。 国籍を問わず、好きな漢字を筆で書くイベントはどうか。	地域振興課

				上記の意見を外国籍住民が多く住むエリアの町内会長に伝えた。	
6	≪第5期中区地域福祉保健計画 中なかいいネ！策定における区計画素案への意見聴取≫ ①小学生へのワークショップ ②中学生へのワークショップ ③大学生との意見交換会	①小学生(33人) ②中学1・2年生(28人) ③大学生(18人)	①令和7年11月12日、20日 ②令和7年11月7日、26日 ③令和7年10月17日	①楽しい、優しい、健康など、大切に思うことを絵や文字で表現してもらい、「こどもの意見を聴く取組」として計画に掲載した。 ≪意見≫困っている人を助ける、楽しく仲良く話して運動する、ラジオ体操に参加する、助け合いのマークをつくる など ②地域住民の集まる場所や施設、交通課題などについて意見を記入してもらい、「こどもの意見を聴く取組」として計画に掲載した。 ≪意見≫運動(バスケットボール)をする・集まれる場所がない、たばこのポイ捨て、自転車のマナー違反などを課題に感じている それに対する解決策としては、大人・行政に相談する、同じ悩みを持っている人で集まって考える、注意喚起のポスターを掲示するなど ③「地域活動の情報にたどり着けない」「夏休みだけの参加で OK など、気軽な選択肢があるとよい」「若者はマンパワーに見られがち。企画段階から参加したい」といった意見をもらった。計画にコラムとして掲載した。	福祉保健課
7	④「埋地ミニ夏祭り」に参加したこどもたちから、地域福祉保健についての意見を聴取 ⑤「なかくっこ自由研究大作戦(小学生向けプログラム)」の防災講座およびマルシェ講座に参加したこどもたちから、地域福祉保健についての意見を聴取 ⑥「ハローよこはま(区民	④⑤⑥小学生 ⑦中学生・高校生(計67人)	④令和7年7月26日 ⑤令和7年8月6日 ⑥令和7年11月9日 ⑦令和7年10月25日	自然が多くてよい、まちがきれいなど、景観やイベントの多さに関する意見があった。 優しい人が多い、仲がよい人がいるなど、人との関わりに関する意見があった。 出された意見は、今後の計画推進への参考としていく。	福祉保健課

	まつり)」に参加したこと もたちにアンケートを実施し、地域福祉保健についての意見を聴取 ⑦「にじいろ大合戦(運動会)」に参加した外国にルーツのある中高生にアンケートを実施し、地域福祉保健についての意見を聴取				
8	ピースフルファミリー事業(個性ある区づくり推進費事業)におけるアンケート聴取	主に3～8歳 (17人)	令和7年8月17日	選択式回答では、すべての回答者がこどもと一緒に遊べるイベントを希望したほか、季節に関するイベント(クリスマス・ハロウィン等)を希望する意見もあった。 自由記述では、スポーツなど「身体を動かす」イベントに参加してみたい！という意見が多数だった。また、工作など手を動かすイベントへの関心がみられた。 聴取した意見は今後の事業企画の参考としていく。	こども家庭支援課

■ 南区の取組

取組①	「横総生にオファーです」における喫煙防止対策への提言 【福祉保健課】	
取組内容	地域から提示された課題に生徒（高校2年生）がグループで取り組み、フィールドワーク等を通じて、同じ年代の中学生や高校生が今も将来もたばこを吸わない選択ができるような啓発方法や解決策を検討提案した。	
対 象	高校生（約70人）	
実施時期	・ 令和7年11月12日 ・ 令和8年1月23日	
主な意見と活用方法等	啓発手法として SNS 動画やポスター掲示が多く挙げられた。 SNS 動画では冒頭で引きつけることや時間を短くしホームページに誘導するなどのアイデアが出され、当課で作成予定の生活習慣改善啓発の動画に取り入れる。 ポスター掲示場所は駅、商店街、電柱、路面のアイデアが出された。 「健康への悪影響」ではなく、周囲の目や就活への影響、環境問題など、別の視点での喫煙防止の動機付けを行うアイデアが出された。未成年向けの啓発物の作成や健康教育の場面に取り入れる。	

取組②	市長と語ろう！（市民局広聴相談課主管事業） 【区政推進課】	
取組内容	山中市長との集会広聴の場において、南中学校防災キャンプについて参加した感想や、南中学校での普段の防災に関する活動、地域との関わりについて述べてもらい、意見交換を実施した。	
対 象	中学生（4人）	
実施時期	令和7年12月6日	
主な意見と	中学生の参加が少ない。自分も含め、中学生ももう少し防災意識を高めていきたいという	

活用方法等	意見があった。 発災時の地域の重要な担い手である中学生に向けた防災啓発について、令和7年度に中学生講座を5校で実施、訓練を1校で実施した。令和8年度も引き続き、区内中学校を対象とした講座や体験を主とした訓練実施に取り組む。
-------	---

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	「夏休みちょこっとボランティア」中高生参加者アンケート	中学生、高校生(55人)	令和7年8月21～22日	アンケート結果を、次年度事業におけるオリエンテーションの在り方や記念品の選定等において参考とした。	こども家庭支援課
2	子どもの居場所について区内イベント参加者(子ども)へのアンケート	未就学児～高校生(619人)	・令和7年10月5日 ・令和8年3月21日、22日	自宅の近くで、気軽に立ち寄れて同年代の子や親、地域と交流ができるような場所がよい。 自分の発想で遊べたり、子ども主体の楽しいイベントがある活動場所に行ってみたい。 把握したこれらの子ども自身の希望、意見を、各実施団体と共有することで、各団体の運営、支援に役立てることができた。	こども家庭支援課
3	横浜総合高校の部集会(Ⅰ部・Ⅱ部・Ⅲ部)にてお金に関するミニ講座『一人暮らして、いくらかかるの?』を実施後、講座の理解度とお金に係る講座の内容で心に残ったこと、興味を持ったことについて生徒からの意見聴取	高校生(188人)	令和7年7月17日	アンケートには188人(Ⅰ部96人、Ⅱ部46人、Ⅲ部41人、不明5人)が回答した。講座については、「参考になった」141人、「まあまあ参考になった」44人、「あまり参考にならなかった」3人で、回答者の98%が概ね理解できたと評価した。自由意見からは、生活費の具体的な金額への関心や、生活支援課・相談窓口の存在による安心感、貯金や計画的な金銭管理の重要性への意識向上が見られた。また、横浜総合高校からも、自立に向けた有意義な講座であるとの評価を受けた。 これらの結果を踏まえ、本講座は令和8年度も継続して実施することとなり、アンケートや意見を今後の実施内容の検討・改善に向けて参考とした。	生活支援課
4	南わくわく防災体験バスツアーアンケート	小学生(42人)	令和7年8月20日、22日	小学生や親子向けの防災啓発事業の内容に関するアンケートを行い、どのような防災啓発事業内容であれば関心を持って参加希望を得られるのかについて意見を収集した。 防災工作教室や防災クッキング、現状のバ	総務課

				スツアーに対する関心が高いことが改めて把握でき、今後の小学生世代向け防災啓発事業の企画検討時の参考資料とした。	
5	横総生にオファーです	高校生(11人)	令和8年1月23日	横浜総合高校の生徒に、高校生世代が関心を持ってもらえる防災啓発事業内容について検討・提案をいただいた。学校行事の文化祭とタイアップした啓発や一般的な人気コンテンツであるクイズラリーやVR体験、高校生にも関心が得られやすい防災グッズを詰め合わせたボトル制作のワークショップなど、幅広い事業企画案を得られたため、今後の高校生世代向け防災啓発事業の企画検討時の参考資料とした。	総務課
6	明るい選挙映画会アンケート	未就学児、小学生(61人)	令和7年12月20日	投票用紙に模したアンケート用紙を用いて、上映映画に係るキャラクターの人気投票を行った。好きなキャラクターの名前を選挙に用いる記載台で記入いただくことで、より選挙を身近に感じてもらえるようにした。 アンケートには映画会の感想や今後見たい映画の欄を設け、映画会の満足度を把握するとともに、次年度以降の映画会で放映する映画を選定する際の参考資料とした。	総務課
7	外国につながる青少年のボランティアプログラム	高校生、大学生(8人)	令和7年7～8月	「参加者どうして、コミュニケーションを取り、協力しながらできたのが良かった」、「地域の小学生と交流して、楽しかった」との声が聞かれた。	地域振興課
8	南区文化祭に来場した未就学児から高校生までを対象とする「こどもアンケート」	未就学児～高校生(73人)	令和7年11月	文化祭で「いろんな作品作りの体験ができると楽しい」との意見が多数あった。南区文化祭は、これまで作品の展示やダンス等の披露が中心であったが、参加型のワークショップも実施する方針となった。	地域振興課
9	「横総生にオファーです」における喫煙防止対策への提言	高校生(約70人)	・令和7年11月12日 ・令和8年1月23日	啓発手法として SNS 動画やポスター掲示が多く挙げられた。 SNS 動画では冒頭で引きつけることや時間を短くしホームページに誘導するなどのアイデアが出され、当課で作成予定の生活習慣改善啓発の動画に取り入れる。 ポスター掲示場所は駅、商店街、電柱、路面のアイデアが出された。	福祉保健課

				「健康への悪影響」ではなく、周囲の目や就活への影響、環境問題など、別の視点での喫煙防止の動機付けを行うアイデアが出された。未成年向けの啓発物の作成や健康教育の場面に取り入れる。	
10	市長と語ろう！ ※市民局広聴相談課主 管事業	中学生(4人)	令和7年 12月6日	中学生の参加が少ない。自分も含め、中学生ももう少し防災意識を高めていきたいという意見があった。 発災時の地域の重要な担い手である中学生に向けた防災啓発について、令和7年度に中学生講座を5校で実施、訓練を1校で実施した。令和8年度も引き続き、区内中学校を対象とした講座や体験を主とした訓練実施に取り組む。	区政推進課

■ 港南区の取組

取組①	港南区3R動画コンテスト 【地域振興課】
取組内容	子どもたちの環境問題への関心を高めるため、自ら考え発信する機会の提供の一環として、区内在住・在学の小・中学生および高校生を対象に、「3R（リデュース・リユース・リサイクル）」をテーマとした動画作品を募集する「港南区3R動画コンテスト」を実施した。 また、受賞作品については、表彰式において表彰を行った。
対 象	区内在住・在学の小中学生及び高校生（40人）
実施時期	令和7年7月25日～11月14日
主な意見と活用方法等	3Rについて学んだ内容を動画として制作することで、アウトプットの機会を提供した。 受賞作品については表彰式を開催し、表彰を行うとともに、市のホームページで公開することで、子どもたちのやりがいの創出につなげた。

取組②	港南ひまわりプランのアンケート 【福祉保健課】
取組内容	港南ひまわりプランに関するアンケート 
対 象	中学生以下（454人）
実施時期	令和7年度6月～11月
主な意見と活用方法等	【アンケート結果】 ・港南ひまわりプランの認知度（推進キャラクターの認知度） 知っている26%、知らない74% ・近所に挨拶する人がいるかどうか いる83%、いない17% 【活用方法】 港南ひまわりプランの認知度向上を図るとともに、計画の推進に活かしていく。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	スマホ・SNS 安心セミナー	小学生、中学生(4人)	令和7年11月29日	横浜グリーンエクスポという名称の認知度は高いことが判明したが、開催内容および公式マスコットキャラクターの認知度については低いことを把握できた。 パネル展の展示内容に、アンケートから得られたニーズを反映させた。	区政推進課
2	環境学習講座	小学生(78人)	・令和7年8月9日 ・令和8年2月28日	満足度:満足・やや満足が97% 次年度の実施内容検討時の参考にする。	区政推進課
3	みんなの83交通安全ラボ	小学生(こどもの意見数不明)	令和7年9月～令和8年3月	体験を通じて得た通学路に対する交通安全に関する知識や考えを、子どもたちの中で共有。考えをまとめて同校の下級生・地域の方へ向けて発表することで通学路の安全について意識を高めた。	地域振興課
4	港南区3R動画コンテスト	区内在住・在学の小中学生及び高校生(40人)	令和7年7月25日～11月14日	3Rについて学んだ内容を動画として制作することで、アウトプットの機会を提供した。 受賞作品については表彰式を開催し、表彰を行うとともに、市のホームページで公開することで、子どもたちのやりがいの創出につなげた。	地域振興課
5	港南区と宮城県大崎市の児童が相互のまちを訪問する「ひまわり生活体験交流」の参加者アンケート	小学4～6年生(20人)	令和7年8月	「参加してよかった」、「港南区や大崎市が好きになった」という意見が多くあった。 今回の行程について、沢登りや野外炊飯が楽しかったという声が多かった。その他、行ってみたいところへの希望なども得ており、今後の事業実施の参考にする。	地域振興課
6	「ひまわりミュージックフェスタ」参加者アンケート	小学生、中学生(約120人)	令和8年1月	「他の学校の演奏を聴けて良かった」、「今後も参加したい」という意見が多くあり、引き続き小中学生の発表の場として継続していく。 当日スケジュールやステージ構成などについての要望を先生方とも共有し、今後の改善点を話し合った。	地域振興課
7	「こうなん子どもゆめワールド」及び「メタバース	小学4～6年生(子どもス	令和7年11月～12月	子どもスタッフの参加者からは『がんばって』ありがとう』と言われて嬉しかった」「接	地域振興課

	会場」来場者・参加者アンケート	タッフ)、小学生、中学生、高校生(出演者)、来場者(全体で約40人)		客するのが楽しかった」などの意見が多くあり、ゆめワールドの主役である子どもたちが活躍する場として、引き続き子どもスタッフを継続していく。 メタバース会場の各種コンテンツが「楽しかった」、来年もメタバース会場を「利用したい」という意見が多くあり、8年度も引き続き楽しんでもらえるコンテンツ作りに取り組む。	
8	第三次読書活動推進目標の策定に関するアンケートの実施	制限なし(49人) ※こどもが回答しやすいように、質問項目を簡潔にした。	令和7年6月～8月	「電子書籍の利用経験」や「読書バリアフリー図書の認知度」についてアンケートを実施した結果、第三次読書活動推進計画における「読書バリアフリーの推進」の必要性和重要性が確認された。 「図書館でやりたいこと」に関する自由記述では多様な意見が寄せられており、今後の参考として活用していく。	地域振興課
9	「ひまわりフェスタ」来場者・参加者アンケート	こども含む全世代(2人)	令和7年10月～11月	ひまわりフェスタに参加してみて「良かった」という意見をいただいた一方、10代～それ以下の子どもの回答が無かったため、8年度はより多くの子どもたちに回答してもらえるよう、アンケート方法を工夫したい。	地域振興課
10	第5期港南ひまわりプラン(素案)区民意見募集	19歳以下(103人)	令和7年8月1日～8月31日	「目標はシンプルだけど、地域みんなが主体となってより良い町にしていけるための具体的で良い目標だと思います。」「『支えあう』で声を少しでもかけたり、『大丈夫ですか?』『なにかできることはありますか?』とたずねれば、みんなが笑顔になると思います。」「(概念図について)ひまわりの花の地面が『思いやり』なのが良いと思います。」などの意見があった。 第5期港南ひまわりプランに反映するほか、関係機関と共有し、今後の事業に活かしていく。	福祉保健課
11	港南ひまわりプランのアンケート	中学生以下(454人)	令和7年度6月～11月	【アンケート結果】 ・港南ひまわりプランの認知度(推進キャラクターの認知度) 知っている26%、知らない74% ・近所に挨拶する人がいるかどうか いる83%、いない17%	福祉保健課

				【活用方法】 港南ひまわりプランの認知度向上を図るとともに、計画の推進に活かしていく。	
12	地域福祉保健計画策定に係るこどもからの意見聴取(日野南地域ケアプラザ)	小学4年生 (約 30 人)	令和7年5月～12月	「公園を綺麗にしたい。(環境に関心のある児童が多い)」、「防犯、防災パトロールのおかげで安心して生活できる。」、「子供のために沢山のイベントを企画してくれて嬉しい。」、「今度は自分たちが、皆が笑顔になるまちをつくっていきたい。」などの意見があった。 いただいた意見を地域住民と共有し、日野南地区地域福祉保健計画の策定に反映した。計画のリーフレットにも「地域みんなの声」として記載された。	福祉保健課

■ 保土ヶ谷区の実施

取組①	区制100周年事業「こども未来プロジェクト」における 中学生によるオンラインミーティング 【こども家庭支援課】	
取組内容	区制100周年を盛り上げるためのアイデア（お祭りでワークショップをやりたい、おそろいのTシャツを着て活動したい、キャラクターを使用したグッズを作成したいなど）を話し合い、こどもたちの提案による事業を実施した。（区民まつりへのワークショップ出店、区長ミーティングでのグッズ案企画書のプレゼン）	
対 象	中学生（1回5～10人程度）	
実施時期	・令和7年4月25日 ・令和7年7月4日 ・令和7年9月29日 ・令和8年3月4日	
主な意見と活用方法等	こどもたちの提案による事業を実施した。（区民まつりへのワークショップ出店、区長ミーティングでのグッズ案企画書のプレゼン）	

取組②	横浜国立大学 BOSAI ラボとの防災啓発ショート動画作成 【総務課】	
取組内容	若者をターゲットとした防災啓発を目的とし、若者の防災対策の状況を把握し、効果的な啓発をするためのアンケートを横浜国立大学にて実施した。 若者から「短時間で要点が伝わる動画」「SNSで見やすい形式が良い」との意見が多く寄せられたため、若者に届きやすいショート動画形式で啓発動画を制作した。区 SNS において4本の動画を公開し、約2ヶ月でYouTube・Instagram 合計視聴数は16,000回以上、Xでの表示回数は17,000回以上となった。	
対 象	大学生（約200人）	

実施時期	・令和7年4月（アンケート） ・令和7年5月～令和8年3月（動画制作）
主な意見と活用方法等	防災に関する啓発については、大学生にアンケートを行ったところ、講演会等を実施するよりも、ショート動画や SNS を活用した情報発信の方が、若い世代の関心を引きやすく、効果的であるとの意見があった。 その意見を踏まえ、BOSAI ラボの大学生が主体となって防災啓発動画を制作し、SNS 上で公開したところ、一定の視聴数及び表示回数を獲得することができた。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	区制100周年事業「こども未来プロジェクト」における中学生によるオンラインミーティング	中学生(1回5～10人程度)	・令和7年4月25日 ・令和7年7月4日 ・令和7年9月29日 ・令和8年3月4日	区制100周年を盛り上げるためのアイデア(お祭りでワークショップをやりたい、おそろいのTシャツを着て活動したい、キャラクターを使用したグッズを作成したいなど)を話し合い、こどもたちの提案による事業を実施した。(区民まつりへのワークショップ出店、区長ミーティングでのグッズ案企画書のプレゼン)	こども家庭支援課
2	横浜国立大学 BOSAI ラボとの防災啓発ショート動画作成	大学生(約200人)	・令和7年4月(アンケート) ・令和7年5月～令和8年3月(動画制作)	防災に関する啓発については、大学生にアンケートを行ったところ、講演会等を実施するよりも、ショート動画や SNS を活用した情報発信の方が、若い世代の関心を引きやすく、効果的であるとの意見があった。 その意見を踏まえ、BOSAI ラボの大学生が主体となって防災啓発動画を制作し、SNS 上で公開したところ、一定の視聴数及び表示回数を獲得することができた。	総務課
3	「夏休みこどもエコチャレンジ」(令和7年度)における参加者アンケート	小学生(29人)	令和7年8月	アンケートでは、地球環境に関して次に知りたいこととして「世界で1年間にどのくらいのCO2が出ているのか知りたい」などの意見が出た。 次年度以降実施する際、講座内容への反映を検討する。	区政推進課
4	【読書活動推進事業】第三次保土ヶ谷区読書活動推進目標こどもの意見反映のため	小学生、中学生、高校生(82人)	令和7年9月～10月	「小さい頃に読み聞かせしてもらったのが読書のきっかけとなっている。」「同じ本を読んで、その本について語り合うイベントがあったら参加したい。」「想像していたものと違う展開になるときに読書の楽しさを感じる。」	地域振興課

				などの意見があった。 第三次保土ケ谷区読書活動推進目標に反映した。	
5	「ほどがやこどもファクトリーツアー」におけるアンケート	小学3～6年生(22人)	令和8年3月	「楽しかったのでまた行く!」「説明だけでなく実際に触ったりするのがいいと思った。」などの意見があった。参加者の100%から「面白かった」と回答があった。 次年度の同事業に反映、見学先企業にフィードバックとして共有した。	地域振興課
6	がやっこ探検隊 アンケート	小学3～6年生(64人)	令和7年9月～10月	「宿泊体験が楽しかった。」「色んなお友達と遊べて楽しかった。」などの意見があった。 「とても楽しかった」と「楽しかった」を合わせて100%となった。 次年度の事業に反映した。	地域振興課
7	がやっこ教室 アンケート	小学生、中学生(250人)	令和7年7月、8月、12月	「普段使えない道具を使って工作ができて楽しかった。」「貴重な体験ができた。」などの意見があった。「よかった」と「どちらかといえばよかった」あわせて100%となった。 次年度の事業に反映した。	地域振興課
8	こども歴史まち歩き	小学生、中学生(20人)	令和7年11月30日	アンケートでは、保土ケ谷の歴史を知ってもらうためにどんなことをしたらよいか、という質問に対し、「昔の写真をたくさん見せる」や「歴史に関するゲーム・クイズをする」といったような次年度以降のイベント企画に盛り込めそうな意見も出たので、実施内容への反映を検討する。	区政推進課

■ 旭区の取組

取組①	選挙啓発イベント参加生徒向けアンケート	
取組内容	新たに有権者となる高校生3年生を対象として、選挙への意識や投票のきっかけづくりを目的とした出前授業と、架空の市長選挙での模擬投票を区内高校にて実施。 実施後は、投票率の低い若年層に選挙を身近に感じてもらうにはどうしたらいいかななどを設問としたアンケート調査を行い、次回以降の出前授業実施の参考とした。	【総務課】 
対 象	高校3年生（約90人）	
実施時期	令和7年4月8日	
主な意見と活用方法等	「実際に投票や開票までの流れを知ることができ、選挙への興味が湧いた。」「投票に行くことの重要性を改めて知ることができた。有権者になったら投票に行こうと思った。」「投票できる人とできない人の違いなどをもっと知りたい」といった意見をいただいたため、今年度のイベント内容に反映し、投票日当日不在の場合の投票制度の説明も盛り込んだ。	

取組②	南本宿公園コミュニティハウスのロゴ制作	
取組内容	近隣小学校の児童（有志）からアイデアを募り、南本宿公園内に新たに整備する南本宿公園コミュニティハウスのロゴデザインを制作した。	【区政推進課】 
対 象	小学6年生（16人）	
実施時期	令和7年9月22日	
主な意見と活用方法等	参加児童の新しく整備される南本宿公園コミュニティハウスがどんな場所になってほしいか」という想いを込めて、様々なロゴのイメージを提案してもらった。 そこで提案いただいた、ロゴのイメージから、児童のみなさんの想いをくみ取り、デザイナーがシンボリックなものに再構築し、ロゴデザイン案を3案製作した。 その案の中から全校生徒のみなさんの投票により、ロゴを決定した。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	選挙啓発イベント参加生徒向けアンケート	高校3年生 (約 90 人)	令和7年 4 月 8 日	「実際に投票や開票までの流れを知ることができ、選挙への興味が湧いた。」「投票に行くことの重要性を改めて知ることができた。有権者になったら投票に行こうと思った。」「投票できる人とできない人の違いなどをもっと知りたい」といった意見をいただいたため、今年度のイベント内容に反映し、投票日当日不在の場合の投票制度の説明も盛り込んだ。	総務課
2	令和7年度帷子川環境学習アンケート	小学4・5年生 (約 200 人)	令和7年8 月 25 日～ 令和7年 10 月 11 日	「帷子川にいる生き物と触れ合えて楽しかった」「魚について興味をもつようになった」等の意見が寄せられ、次年度以降の実施内容の検討材料として活用した。	区政推進課
3	あさひわくわく科学ラボ参加者アンケート	小学生(20 人)	令和7年 8 月 14 日	イベント満足度として「楽しかった」「やや楽しかった」を合わせると 100%であった。 内容の理解度や講師の説明について「理解できた」「良くわかった」という意見が多かったことを踏まえて、次年度の内容の難易度も同程度とした。 「簡単な工作の中に科学を感じられてよかった」という意見を踏まえて、次年度も同様の内容を盛り込んだ。 イベントを知ったきっかけとして広報よこはまや HP の割合が多かったため、次回以降の周知方法の参考とした。	地域振興課
4	GREEN×EXPO 2027 機運醸成イベント 「中学生が描く、50 年後のワクワクする未来」参加者アンケート	中学生(3人)	令和8年 1 月 25 日	イベント満足度は 100%であり、「GREEN×EXPO 2027 への関心が高まった」との意見があった。 今後参加したいイベントについて「何かほかのことを絡めたイベント」「みんなで気軽に参加できるイベント」との意見があったので、次年度以降の内容の検討材料として活用した。	地域振興課
5	夏休み POP づくり大作戦！	中学生(13 人)	令和7年 7 月 25 日	イベントや企画について提案があった。 次年度以降の実施内容の検討材料として活用した。	地域振興課

6	南本宿公園コミュニティハウスのロゴ制作	小学6年生 (16人)	令和7年9月22日	参加児童の新しく整備される南本宿公園コミュニティハウスがどんな場所になってほしいか」という想いを込めて、様々なロゴのイメージを提案してもらった。 そこで提案いただいた、ロゴのイメージから、児童のみなさんの想いをくみ取り、デザイナーがシンボリックなものに再構築し、ロゴデザイン案を3案製作した。 その案の中から全校生徒のみなさんの投票により、ロゴを決定した。	区政推進課
7	上白根大池公園こどもログハウスの運営に係る利用者アンケート	小学生、中学生 (100人)	令和7年10月	スタッフの対応が「よい」「とてもよい」が9割を占めた。 おいてほしい物について、遊具が一番多かった。卓球のニーズも高く「体を動かす事」を好む利用者がいる事とマンガを置いて欲しいという意見があり「静かに過ごす」ことを好む利用者もいることが分かった。今後の物品購入計画の参考になった。	地域振興課
8	ジュニアボランティア体験事業	小学5・6年生 (155人)	令和7年7月～令和8年3月	ボランティアを通じて地域のことや地域で活動する人を知るきっかけとなった、乳幼児やご高齢の方、障害のある方と関わる上での知識を学べた、といった感想を受けた。 次年度以降の取組の参考としている。	福祉保健課
9	きらっとあさひプランに係るこどもからの意見聴収	未就学児～高校生 (5人)	令和7年10月19日	福祉は大切だと思ったといった感想を受けた。 きらっとあさひプラン策定の参考としている。	福祉保健課
10	寄り添い型学習支援事業高校生世代支援イベント	高校生(13人)	・令和7年7月9日 ・令和7年11月26日 ・令和8年3月11日	イベントに参加し、「大学生生活のイメージを持てた」、「将来について考えるきっかけとなった」といった感想で、好評であった。 高校生の関心が高いテーマを把握し、次年度以降の実施内容の検討材料として活用した。	生活支援課
11	旭区子育て支援連絡会学習会「居場所を支えるみんなの力」	高校生、大学生 (3人)	令和8年1月7日	ジュニアボランティアやオープンキャンパスでこども食堂を知ったこと、居場所に参加したことがきっかけとなり活動を始めた。 普段関われない人と関われること、思ったこと言える雰囲気やみんなで形にできるこ	こども家庭支援課

				と、純粹に楽しいと思えることで活動を継続している。	
12	帷子川の今後の河川水 辺環境を考える小学生 とのワークショップ	小学5年生 (約 200 人)	【各校 3 回 実施】 1 回目: 令和7年6月 2 回目: 令和7年7月 3 回目: 令和7年12 月～令和8 年1月	将来の帷子川のあり方について、「川で水遊びをしたい」「魚取りをしたい」「水辺を散歩したい」など、自然との触れ合いや川の利用に関する幅広い意見が寄せられた。 こども達の意見をもとに整理した「生物」「景観」「利用」「親水」「安全」の 5 つの視点を、帷子川の河川環境整備計画に反映した。	区政推進課、 土木事務所 下水道河川局 河川流域整備課

■ 磯子区の実施

いそごこどもエコフェスタにおける参加者アンケート		【区政推進課】
取組①		
取組内容	子ども向けエコイベント「いそごこどもエコフェスタ」について、今後のイベントの参考とするため、参加した子供たちを対象にアンケートを実施した。	
対 象	主に小学生（177 人）	
実施時期	令和 8 年 3 月 20 日	
主な意見と活用方法等	楽しかった、環境にやさしい行動をやってみようと思った、という意見が多かった。次年度以降のイベント内容の参考とする予定。	

取組②	地域の小学校向け公演 杉劇アート体験塾 R7 『真昼の夕焼け』参加者に対するアンケート（磯子区民文化センター） 【地域振興課（磯子区民文化センター杉田劇場）】	
取組内容	横浜大空襲の悲劇を、後世に伝える朗読劇『真昼の夕焼け』。アート体験塾の枠組みで地域の小学校向け公演として開催した。森東小学校、屏風浦小学校、滝頭小学校の3校が参加した。	
対 象	小学生（約 250 人）	
実施時期	令和 7 年 9 月 19 日	
主な意見と活用方法等	平和の尊さや戦争の悲惨さについて理解を深め、平和な社会を築くことの大切さを改めて考える機会となった。このため、次年度も平和の大切さについて考え、学ぶことができる企画を検討する。	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	百彩パネル制作事業におけるワークショップ参加者へのアンケート	小学生(166人)	令和8年2月～3月	磯子の街をもっと知りたいと思った、未来が楽しみ、イラストがすごいと思った、などワークショップを楽しんでもらえた意見が多かった。次年度のワークショップの参考とする予定。	区政推進課
2	いそごこどもエコフェスタにおける参加者アンケート	主に小学生(177人)	令和8年3月20日	楽しかった、環境にやさしい行動をやってみようと思った、という意見が多かった。次	区政推進課

	ート			年度以降のイベント内容の参考とする予定。	
3	子ども向けロビーパフォー マンス参加者に対する アンケート(磯子区民文 化センター)	未就学児等 (約 30 人)	令和7年 4 月～令和8 年 3 月まで の各月 1 回	気軽に劇場へ来場できることや、家事の合間 に演奏を楽しめることが好評であった。ま た、子ども向けの音楽だけでなく、大人向け の音楽も聴きたいとの意見があったことか ら、次年度は平日の夜間帯に大人向けコンサ ートの実施を検討する。	地域振興課 (磯子区区民 文化センター 杉田劇場)
4	中学校の地域文化クラブ 推進事業参加者に対す るアンケート(磯子区民 文化センター)	中学生(約 45 人)	令和7年 5 月 17 日	少子高齢化に伴い吹奏楽部の運営が難しく なる中、小編成でも演奏が可能な構成で実施 されたことは学校現場にとって大変有意義 であり、継続を望む意見があった。このため、 次年度も継続して演奏指導を実施する予定 である。	地域振興課 (磯子区区民 文化センター 杉田劇場)
5	こども文化資源発掘隊 2025 竹でいろんな楽器をつく ろう！参加者に対するア ンケート(磯子区民文化 センター)	小学生、中学 生(約 60 人)	令和7年 8 月 5 日	自作の楽器を使って演奏することの楽しさを 体験するとともに、上手に演奏することの難 しさや工夫の大切さを学ぶ機会となった。こ のため、次年度も継続して楽器を作る楽しさ を経験し、音楽への関心を深める機会を設け る。	地域振興課 (磯子区区民 文化センター 杉田劇場)
6	杉劇にこにこ合唱団ワー クショップ参加者に対す るアンケート(磯子区民 文化センター)	小学3年生以 上(約 35 人)	令和7年8 月17日からワー クシ ョップ計 12 回実施 第 9 回磯子 音楽祭「第 九」出演	プロの演奏家と共演できたことが大きな喜 びや達成感につながり、音楽ホールという本 格的な舞台上で演奏した経験に感動したとの 意見があった。このため、次年度は区制 100 周年事業に合わせたイベントへの参加を検討 し、演奏成果を発表する機会の充実を図る。	地域振興課 (磯子区区民 文化センター 杉田劇場)
7	杉劇ファンファーレオル ケスト 結成記念コンサート参加 者に対するアンケート (磯子区民文化センター)	中学生(約 50 人)	令和7年 8 月 23 日	横浜市初の演奏団体として活動できたこと を喜ぶ声や、音楽ホールで演奏できることを 楽しいと感じる声が寄せられた。このため、 吹奏楽の部活動を支援する取組として、今後 も継続して実施する。	地域振興課 (磯子区区民 文化センター 杉田劇場)
8	地域の小学校向け公演 杉劇アート体験塾 R7 『真昼の夕焼け』参加者 に対するアンケート(磯 子区民文化センター)	小学生(約 250 人)	令和7年 9 月 19 日	平和の尊さや戦争の悲惨さについて理解を 深め、平和な社会を築くことの大切さを改め て考える機会となった。このため、次年度も 平和の大切さについて考え、学ぶことができ る企画を検討する。	地域振興課 (磯子区区民 文化センター 杉田劇場)
9	杉劇☆歌劇団ワークショ	小学生、中学	・令和7年	上演本番で実際に舞台に立つことができた	地域振興課

	ツブ参加者に対するアンケート(磯子区民文化センター)	生、高校生 (35 人)	11 月 9 日、16 日、30 日 ・令和8年 1 月 31 日 (本公演)	ことを楽しい経験として受け止め、舞台芸術への関心や意欲を高める機会となった。このため、次年度も当館主催事業としてワークショップを継続して実施する。	(磯子区区民文化センター 杉田劇場)
10	0 歳からのちいさなコンサート ～ひよこコンサート Vol.49～ ”ブリュッセル音楽隊”とクリスマス参加者に対するアンケート(磯子区民文化センター)	未就学児、小学生、保護者 (250 人)	令和7年 12 月 13 日	親子で一緒に音楽を楽しむ機会となった一方で、内容が難しかったとの意見もあった。このため、次回からは演奏内容や話す内容を見直し、より多くの来場者が楽しみながら理解を深められるよう改善につなげる。	地域振興課 (磯子区区民文化センター 杉田劇場)
11	ルロット・オーケストラ 楽器の国のフシギな舞踏会 ～日用品楽器とオーケストラ 奇跡の共演～参加者に対するアンケート (磯子区民文化センター)	未就学児、小学生、中学生、大人 (260 人)	令和8年 1 月 31 日	日用品が楽器として活用できることに驚いたほか、演奏後に実際に楽器に触れて演奏を体験できたことが楽しかったとの意見があった。このため、今後も気軽に音楽に親しむことができる機会を提供し、音楽の楽しさを体験できる事業を継続して展開していく。	地域振興課 (磯子区区民文化センター 杉田劇場)
12	地域の小学校向け公演 杉劇アート体験塾 アウトリーチ公演「雅楽」参加者に対するアンケート (磯子区民文化センター)	小学生(95 人)	令和8年 3 月 18 日	和楽器のすばらしさを体験することで、日本の伝統音楽への関心や理解を深める機会となった。このため、次年度も日本の伝統音楽に触れ、その魅力を学ぶことができる機会を検討する。	地域振興課 (磯子区区民文化センター 杉田劇場)
13	子ども・親子向け自主事業(工作、体験学習、文化活動など)参加者に対するアンケート(杉田地区センター)	幼児～中学生 (168 人)	令和7年6 月～令和8 年2月	「とても良かった」との感想が多数寄せられた。 参加者の意見を参考に、今後の自主事業の企画・運営に活かしていく。	地域振興課 (杉田地区センター)

■ 金沢区の取組

取組①	地域で実現！金沢子どもの夢プロジェクトにおける参加した子どもからの意見聴取 【地域振興課】
取組内容	地域で実現！金沢子どもの夢プロジェクトにおいて、参加した子どもの感想や気持ちの変化を捉えるため、また次年度の事業の参考にするため、アンケートを実施した。 
対 象	小学生、中学生、高校生（30人）
実施時期	令和7年8月6日（1回目）及び各グループの活動終了後随時
主な意見と活用方法等	「自ら企画し、プレゼンし、実現するという貴重な経験ができてよかった」「夢プロをきっかけに色々なことにチャレンジできるようになった」「金沢区を盛り上げるイベントができてうれしかった」などの意見があった。 子どもの提案や意見を受け止め、今後も取組を展開していくことを考えている地域がすでにいくつかある。

取組②	「寄り道×Kanabun」事業での空間構成要素・イメージ作成における 保育園児からの意見聴取 【区政推進課】
取組内容	喫煙やポイ捨てにより、良くない印象であるとの広聴意見のあった金沢文庫駅西口広場を改善するため、区職員横断プロジェクトを実施し、広場全体を明るく楽しい雰囲気にしてイメージアップを図る方向性とした。子供が楽し気にその場で過ごせる空間とすれば、喫煙者やポイ捨て者も遠慮するだろうと考え、全体デザインにあたり、子供の意見を取り入れることとし、広場近隣の市立金沢さくら保育園に協力を依頼した。 保育園児からの意見聴取結果や、保育園児自身が作成した壁画の一部の絵を活用することにより、デザインを行い、広場全体の改修が完成した。  
対 象	保育園児（年長児 25人・年中児 22人）
実施時期	・ 令和7年7月24日（空間構成イメージ意見聴取） ・ 令和7年9月22日（ポール上イラスト選択意見聴取）

	・令和7年10月16日（4歳児描画） ・令和7年11月4日（5歳児描画）
主な意見と活用方法等	壁画モチーフについては、花、ハート、動物、花火等の意見が出た。ポール上の絵については、植物ジャンルで、イチゴ等4種の絵を選定した。壁画のデザインの一部として、それぞれの園児に花びらの絵を描いてもらった。 子どもたちにとっては、自分たちの意見や具体作業の結果が今後もいつでも壁画として見ることができ、多くの人の目にも触れることとなった。事業に関わった大人としても、子供が喜ぶ空間を作成できたことにより、殺風景でモラルのなかった空間を明るい雰囲気となるイメージアップにつながられた。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	地域で実現！金沢子どもの夢プロジェクトにおける参加した子どもからの意見聴取	小学生、中学生、高校生（30人）	令和7年8月6日（1回目）及び各グループの活動終了後随時	「自ら企画し、プレゼンし、実現するという貴重な経験ができてよかった」「夢プロをきっかけに色々なことにチャレンジできるようになった」「金沢区を盛り上げるイベントができてうれしかった」などの意見があった。 子どもの提案や意見を受け止め、今後も取組を展開していくことを考えている地域がすでにいくつかある。	地域振興課
2	子どもプログラミング教室に参加した子どもからの意見聴取	小学生（54人）	令和7年8月8日	「初めてPCでプログラムができた」「自分で指示をして動いたのが楽しかった」「アレンジができた」などの意見が多かったが、「基本的なことは知っていた」といった意見もあり、募集の際、「入門編」であることを明記した。	地域振興課
3	ジュニアサマー金沢2025に参加した子どもからの意見聴取	金沢区内在住又は在学の小学3～6年生（23人）	令和7年8月23日	「わりばしてっぽうづくりのプログラムが面白かった」という意見が多かったため、令和8年度も継続して実施することとした。	地域振興課
4	音楽振興事業コンサートに参加した子どもからの意見聴取	小学生、中学生（231人）	令和7年12月14日	「各楽器の紹介があってよかった」「口笛が楽しかった」などの意見があった。 ワークショップでの体験を取り入れることで満足度向上のために活用した。	地域振興課
5	塩田による塩づくり教室における参加者アンケート	小学生（36人）	令和7年9月28日	「塩づくりが大変なことが分かった」「始めてやることが多く楽しかった」等の意見があり、次年度も継続して実施することとした。	地域振興課
6	海苔づくり教室における参加者アンケート	小学生（36人）	令和8年2月8日	「海苔を採取するところからやりたい」等の意見があり、実施する内容の幅を増やすこと	地域振興課

				を検討する。	
7	第三次金沢区読書活動 推進目標の策定	小学生、中学生 (883 人)	令和7年 10月1日 ～令和7年 10月31 日	小中学校ともに、約7割が本を読むことは「好き」・「なんとなく好き」と回答しており、本を読むきっかけとして回答数が多かったのは、①「良い本、面白い本の情報がある」、②「図書館や学校の図書室が楽しい」だった。また、大きな活字の本や点字の本などを集めたコーナーである「りんごの棚」について尋ねたところ、小中学校ともに、「聞いた(見た)ことがあるがどのようなものかわからない」または「知らない」の回答数が過半数以上だった。 結果について、第三次読書活動推進目標の策定に活用するとともに、今後の事業検討の際にも活用していく。	地域振興課
8	金沢の魅力ふれあい事業の「海の環境学習」における参加者アンケート	小学生(15人)	・令和7年6月1日	「いつまでもきれいな海が保てるように自分ができることを考えたい」「横浜の豊かな自然を今後も残していきたい」といった環境保全や地域の自然を大切にしたいという意見が多くあった。 アンケート結果を踏まえ、こどもたちにとって身近な環境問題や地域の自然について主体的に考える機会となるよう、次年度のプログラムへの反映など、改善に取り組んだ。	区政推進課
9	・「寄り道×Kanabun」事業での空間構成要素・イメージ作成における保育園児からの意見聴取 ・同事業での壁画の一部を保育園児が作成	保育園児(年長児 25 人・年中児 22 人)	・令和7年7月24日(空間構成イメージ意見聴取) ・令和7年9月22日(ポール上イラスト選択意見聴取) ・令和7年10月16日(4歳児描画) ・令和7年11月4日	壁画モチーフについては、花、ハート、動物、花火等の意見が出た。ポール上の絵については、植物ジャンルで、イチゴ等4種の絵を選定した。壁画のデザインの一部として、それぞれの園児に花びらの絵を描いてもらった。 子どもたちにとっては、自分たちの意見や具体作業の結果が今後もいつでも壁画として見ることができ、多くの人の目にも触れることとなった。事業に関わった大人としても、子供が喜ぶ空間を作成できたことにより、殺風景でモラルのなかった空間を明るい雰囲気となるイメージアップにつなげられた。	区政推進課

			(5歳児描画)		
10	金沢若者ライフデザイン事業の「ライフデザインセミナー」における参加者へのアンケート	高校生(12人)、大学生(事前 163人、事後 138人)	・高校 令和7年 12 月 15 日 ・大学 令和7年 12 月 16 日	「将来の選択肢がたくさんあることに気づきました」「将来について具体的に考えるいい機会になりました」など、将来を前向きに考える意見が多くあった。 アンケート結果を分析し、参加者層のニーズに合うように次年度のプログラムへ反映した。	区政推進課

■ 港北区の取組

取組①	「夏休みなんでも教室/冬休みなんでも教室（外国につながる小中学生の学習支援）」に係る参加者アンケート【港北国際交流ラウンジ】 【地域振興課】	
取組内容	大学生を中心とした学生ボランティア団体「Youth 国際なんでも教室」と港北国際交流ラウンジが宿題教室を共催している。学生ボランティアから、開催前には事前研修に対する感想をアンケートで集め、開催後には振り返りミーティングとアンケートを通じて気づきや今後の教室運営などに対する意見を聴取した。	
対 象	高校生、大学生（50人）	
実施時期	・令和7年8月8～10日 ・令和7年12月26、27日	
主な意見と活用方法等	より多くの学生が参加しやすいようにするため、開催時期や時間、運営、広報などについて得られた意見を令和8年度の取り組みに反映させた。	

取組②	港北区地域福祉保健計画策定における小学生からの意見聴取 【福祉保健課】	
取組内容	区民意見募集の際に、北綱島小学校6年生に対して第5期港北区地域福祉保健計画（ひっとプラン港北）に関する授業を実施し、クラス毎に取りまとめた意見を提出いただいた。	
対 象	小学6年生（96人）	
実施時期	令和7年8～9月	
主な意見と活用方法等	北綱島小学校6年生の意見から、「既存の取り組みや居場所を活用しながら、ひっとプラン港北の認知度向上に取り組めます。」の文言等で計画に反映させた。また、「年齢問わず楽しめる場作りが魅力的なので、第5期以降も続けて欲しい。」や「ボール遊びが許可された公園や日陰で休めるベンチが欲しい」といった意見があった。（区民意見募集）	

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	「港北 水と緑の学校」小学校講座に係る受講者アンケート	小学3～5年生(約920人)	令和7年5月～10月	講座の理解度や活動参加の前後における意識の変化等について意見を収集した。理想の横浜像については、「ごみがなくてき	区政推進課

				れいな町」、「平和で安全な町」、「自然が豊かで、生き物を大切にする町」などの意見があった。 理解度に関するアンケート結果を踏まえ、次回の講座の企画検討に役立てている。	
2	子ども向け脱炭素講座に係る参加者アンケート	小学4～6年生(5人)	令和7年 8 月 6 日	イベントの満足度や理解度等について意見を収集した。自由意見では水素ガスへの関心の高さがうかがえた。 理解度に関するアンケート結果を踏まえ、次回の講座の企画検討に役立てている。	区政推進課
3	「港北オープンファクトリー」事業に係る参加者アンケート	小学1～6年生、中学生、高校生(親子約 230 組)	令和8年 3 月 7 日	イベントの感想や印象に残ったこと等の自由意見を収集した。理想の横浜像については「自然豊かで環境に優しい町」、「工業が発展している町」などの意見があった。 アンケート結果を踏まえ、次回の講座の企画検討に役立てている。	区政推進課
4	書道体験教室に係る参加者アンケート	小学1～3生(8人)	令和7年 12 月 20 日	アンケートでは「だんだんコツが分かってきた」「終わりの頃には上手に書けるようになった」などイベント参加に対する満足度の高い意見があった。 子どもたちの意見を次回の企画検討に役立てている。	地域振興課
5	小学生スポーツフェスティバルに係る参加者アンケート	小学生(50人)	令和7年 7 月 27 日	イベントの感想や次年度を希望する種目について意見を収集した。 収集した意見を踏まえ、「剣道教室」を次年度の実施種目に反映した。	地域振興課
6	【菊名コミュニティハウス】 「夏休み福祉体験～不自由から学ぶ」講座に係る参加者アンケート	小学1～6年生(12人)	令和7年 7 月 30 日	「実際に不自由があるとどうという困難が発生するのか学んで、身近にいる高齢の方や障害のある方への理解が深まった。」などの意見があった。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容検討に活用した。	地域振興課
7	【菊名地区センター】 「夏のでぬぐい作り」イベントに係る参加者アンケート	小学生(13人)	令和7年 7 月	「楽しかった」、「初めてだけどうまくできた」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容検討に活用した。	地域振興課
8	【菊名地区センター】 「アメリカンクッキーを	小学4～6年生、中学1～	令和7年 8 月	「おいしくできてうれしい」「楽しくできた」「家でも作りたい」などの意見が寄せら	地域振興課

	焼こう」イベントに係る参加者アンケート	2年生(16人)		れた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容検討に活用した。	
9	【菊名地区センター】 「親子でリースパン作り」イベントに係る参加者アンケート	小学3～6年生、中学生 (6人)	令和7年 12 月	「楽しくておいしかった」、「またお菓子作りに参加したい」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容検討に活用した。	地域振興課
10	【港北国際交流ラウンジ】 「夏休み小学生 英語講座 スマイル イングリッシュ」に係る参加者アンケート	小学2～4年生(12人)	令和7年 7 月 23,25,28,30 日と 8 月 1 日 計5回	講師や講座内容についての満足度や改善点等について意見を収集し、英会話以外に求めていることとして「外国にルーツのあるこどもと交流できるイベント」が挙げられた。 アンケート結果を講師にフィードバックし、令和8年度の同講座内容に反映させている。	地域振興課
11	【港北国際交流ラウンジ】 「小学生国際理解教室 フィリピンを感じてみよう」講座に係る参加者アンケート	小学生(8人)	令和8年 3 月 26 日	アンケート結果より参加型のフィリピンのバンブーダンス体験が大変好評だったため、令和8年度はベトナムのバンブーダンス体験を含む国際理解教室を企画した。	地域振興課
12	【新田地区センター】 「母の日の押し花カード作り教室」イベントに係る参加者アンケート	小学1年生以上(5人)	令和7年 4 月 26 日	「楽しかった、また参加したい」「綺麗にできてうれしかった」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容の改善に活用した。	地域振興課
13	【新田地区センター】 「夏休みこどもチョークアート教室」イベントに係る参加者アンケート	小学1～6年生、中学生 (10人)	令和7年 7 月 26 日	「綺麗な作品が出来上がった時、とても嬉しかった」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容の改善に活用した。	地域振興課
14	【新田地区センター】 「夏休みこどもパン作り教室」イベントに係る参加者アンケート	小学4～6年生、中学生 (9人)	令和7年 8 月 19 日	「家庭でパンを作る機会がなかったので楽しかった」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容の改善に活用した。	地域振興課
15	【新田地区センター】 「子ども書き初め教室」イベントに係る参加者ア	小学生(10人)	令和7年 12 月 26 日	「先生も優しかったし、綺麗に書けたし、コツも教えてくれて本当に良かったです。」などの意見が寄せられた。	地域振興課

	ンケート			アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容の改善に活用した。	
16	【新田地区センター】 「春休みこどもパン作り教室」イベントに係る参加者アンケート	小学4～6年生、中学生 (8人)	令和8年 3 月 31 日	「家庭でパンを作る機会がなかなかないので楽しかった」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容の改善に活用した。	地域振興課
17	【大綱中学校コミュニティハウス】 「こども科学捜査体験講座」に係る参加者アンケート	小学生(17人)	令和7年 7 月 19 日	「保護者も一緒に楽しめた参加型講座で、防犯や科学捜査への知識が学べてよかった」などの意見が寄せられた。 今後の開催希望内容を把握することで、次回の事業企画に活かした。	地域振興課
18	【大綱中学校コミュニティハウス】 「光るスライム体験講座」イベントに係る参加者アンケート	小学生(8人)	令和7年 7 月 26 日	「自宅ではこれだけの材料は集められないので楽しく取り組むことができた」などの意見が寄せられた。 率直な意見を把握することで、今後の開催可否の判断材料とした。	地域振興課
19	【港北国際交流ラウンジ】 「夏休みなんでも教室/冬休みなんでも教室(外国につながる小中学生の学習支援)」に係る参加者アンケート	高校生、大学生(50人)	・令和7年 8 月 8～10 日 ・令和7年 12 月 26、27 日	より多くの学生が参加しやすいようにするため、開催時期や時間、運営、広報などについて得られた意見を令和8年度の取り組みに反映させた。	地域振興課
20	港北区地域福祉保健計画策定における小学生からの意見聴取	小学6年生 (96人)	令和7年8～9月	北綱島小学校6年生の意見から、「既存の取り組みや居場所を活用しながら、ひっとプラン港北の認知度向上に取り組めます。」の文言等で計画に反映させた。また、「年齢問わず楽しめる場作りが魅力的なので、第5期以降も続けて欲しい。」や「ボール遊びが許可された公園や日陰で休めるベンチが欲しい」といった意見があった。(区民意見募集)	福祉保健課

■ 緑区の取組

取組①	こどものまちづくりイベント「Mini Mini Midori ～『GREEN×EXPO 2027』に向けて～」へ参加した小・中学生及びボランティアの大学生を対象としたアンケート実施 【区政推進課】
取組内容	こどもが主役のミニ社会で、働く楽しさやまちの仕組みを体験できるこどものまちづくりイベントにおいて、次年度の事業内容に反映することを目的に、参加した小・中学生やボランティアの大学生を対象にアンケートを実施した。 アンケートでは、イベントに参加して感じたこと、今後のイベントへの意見・提案などについて回答を求めた。
対 象	小学生、中学生、大学生（約 45 人）
実施時期	・ 令和 7 年 9 月 7 日 ・ 令和 7 年 10 月 8 日
主な意見と活用方法等	「いろいろな人と関わりながら仕事のできてたのしかった」「自分が住むまちをよくするための活動をしたい」「次年度もイベントに参加したい」との意見が多かった。大学生からは、運営体制に対する意見もあった。 アンケート結果は次年度のイベント企画検討に活用する。



取組②	みどりサンプラプロジェクト 2025 における実施内容への意見反映 【地域振興課】
取組内容	未就学児や小学生が、大学生とともに地域清掃や環境について学べるお楽しみ企画（ごみ分別ゲーム等）を行う「みどりサンプラプロジェクト 2025」を開催。実施にあたっては、打ち合わせを通して大学生に企画内容を検討してもらい、その内容をイベントに反映させた。
対 象	大学生（24 人）
実施時期	令和 7 年 12 月 14 日
主な意見と活用方法等	未就学児・小学生でも楽しみながら環境活動に触れられる内容として、環境かるた作り、環境ビンゴ、ごみ分別ゲームが提案され、実際にイベントで行った。



	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	こどものまちづくりイベント「Mini Mini Midori ~『GREEN×EXPO 2027』に向けて~」へ参加した小・中学生及びボランティアの大学生を対象としたアンケート実施	小学生、中学生、大学生 (約45人)	・令和7年9月7日 ・令和7年10月8日	「いろいろな人と関わりながら仕事のでてたのしかった」「自分が住むまちをよくするための活動をしたい」「次年度もイベントに参加したい」との意見が多かった。大学生からは、運営体制に対する意見もあった。 アンケート結果は次年度のイベント企画検討に活用する。	区政推進課
2	「緑区民まつり 2025」来場者への横浜グリーンエキスポに向けたメッセージ募集	制限なし(全体で約120人) ※模造紙にはふりがなを振り、こども向けには職員からも説明を行った。	令和7年10月19日	「たのしみ」「トウクトウクに会いたい」「花がだいすき」「桜とひまわり見たい!」などの意見があった。 区ウェブページに掲載するとともに、今後、区で行う機運醸成イベントへの参考とした。	区政推進課
3	みどりサンプラザプロジェクト 2025 における実施内容への意見反映	大学生(24人)	令和7年12月14日	未就学児・小学生でも楽しみながら環境活動に触れられる内容として、環境かるた作り、環境ビンゴ、ごみ分別ゲームが提案され、実際にイベントで行った。	地域振興課
4	「トンボ先生と学ぼう! 夏休みわくわく昆虫観察会」での子どもへのアンケート実施	小学生(12人)	令和7年7月23日	イベントに参加した理由や夏のイベントであつたらいいと思うものをアンケートを通して把握し、「生き物」に関するニーズが高かったため、次年度も引き続き「生き物」に関連したテーマの青少年向けイベントを企画した。	地域振興課
5	東京科学大学共催による「わくわく科学実験教室 2026」の実施	大学生(7人)	令和8年2月23日	小中学生が楽しみながら学べる実験内容をタイトル含めて提案されたものを、活かしながら企画した。	地域振興課

■ 青葉区の取組

取組①	青葉区「GREEN×EXPO 2027」PR プロジェクト 【区政推進課】	
取組内容	若年層に向けた横浜グリーンエキスポの機運醸成を進めるため、区内県立高校3校の現役高校生で構成されるプロジェクトチームを立ち上げた。 グループに分かれて、機運醸成に向けた意見・アイデアを出し合ってもらい、開催1年前記念イベントの企画や、オリジナル動画の制作などのPR施策に繋げた。	
対 象	高校生（23人）	
実施時期	令和7年10月～令和8年3月	
主な意見と活用方法等	開催1年前記念イベントのスタンプラリーについて、「スタンプラリーの台紙に、花や木、動物を使うと環境のイメージにつながるのではないか」という意見を台紙のデザインに反映した。 「SNSで動画を放映すれば若者へのPRになるのではないか」という意見を踏まえ、高校生にオリジナル動画を制作いただき、区公式SNS「あおばGREENDAY」で配信した。 「動画には、トウクントウクンを登場させたり、コントの要素を入れると面白い」という意見を踏まえ、動画に反映した。	



取組②	あおば未来プロジェクトにおける区長への政策提言 【こども家庭支援課】	
取組内容	区内青少年の地域活動拠点が行う区内中高生の「あおば未来プロジェクト」において、年間を通して青葉区の課題とその解決策について調べた結果を区長へ報告してもらった。	
対 象	中学生、高校生とそのサポートをする大学生（24人）	
実施時期	令和7年5月～令和8年3月	
主な意見と活用方法等	「未来の青葉区について考える」「青葉区内の交通の危険箇所についてMAP化」「誰もがスポーツを楽しめるイベントの開催」「中高生の放課後の居場所」について報告があった。 区局の所管課に報告内容を共有し、各事業の参考とする。	



	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	青葉区「GREEN×EXPO 2027」PR プロジェクト	高校生(23人)	令和7年10月～令和8年3月	開催1年前記念イベントのスタンプラリーについて、「スタンプラリーの台紙に、花や木、動物を使うと環境のイメージにつながるのではないか」という意見を台紙のデザインに反映した。 「SNS で動画を放映すれば若者への PR になるのではないか」という意見を踏まえ、高校生にオリジナル動画を制作いただき、区公式 SNS「あおば GREENDAY」で配信した。「動画には、トウキョウトウキョウを登場させたり、コトの要素を入れると面白い」という意見を踏まえ、動画に反映した。	区政推進課
2	美しが丘公園こどもログハウスにおける利用者アンケート	未就学児、小学生、中学生(約120人)	令和7年11月	ログハウスでのイベントについて、「身体を動かせる企画」「季節行事の実施」「工作・アクセサリー作り」などの要望が多く寄せられた。 これらの意見を踏まえ、体操教室、かけっこ教室、ラグビーボール体験、クリスマスイベント、ビーズストラップ作り、フラワーカップ作り、スライム時計作りなどを令和8年度を中心に計画し、利用者ニーズを反映した事業展開に活用している。	地域振興課
3	青葉区民読書活動推進目標の策定に係るアンケートの実施	区内小中高等学校の図書委員、青少年の地域活動拠点に参加する中高大学生(54人)	令和7年6月19日～7月25日	読みたい本は80%以上が小説で、本の読み方は70%が実際の本、電子書籍5%との結果だった。 令和8年度の青葉区読書活動推進事業での参考とする。	こども家庭支援課
4	あおば未来プロジェクトにおける区長への政策提言	中学生、高校生とそのサポートをする大学生(24人)	令和7年5月～令和8年3月	「未来の青葉区について考える」「青葉区内の交通の危険個所について MAP 化」「誰もがスポーツを楽しめるイベントの開催」「中高生の放課後の居場所」について報告があった。 区局の所管課に報告内容を共有し、各事業の参考とする。	こども家庭支援課
5	公園遊具の投票による選定	小学生、近隣住民(全体で134人)	令和7年2月25日	公園の利用者(大人も含む)に公園遊具の投票を依頼し、得票数が多かった遊具を採用し令和7年度の公園工事で設置した。	青葉土木事務所

■ 都筑区の取組

取組①	「こどもたちの健やかな育ちを支える地域づくり事業」の事業化の前提となる、 「放課後等の過ごし方」に関するアンケート実施 【区政推進課、地域振興課、こども家庭支援課】	
取組内容	「学齢期のこどもの居場所」に関する実態を把握し、事業検討に活かすため都筑区内の小中学生を対象にアンケート調査を実施した。 アンケートでは、放課後などの過ごし方や、どのような場所で過ごしたいか、などについて回答を求めた。	
対 象	小学3～6年生、中学生（アンケート回答者 3,040 人）	
実施時期	令和7年6月16日～6月30日（15日間）	
主な意見と活用方法等	63.9%の小中学生から「普段過ごしている居場所以外の居場所が欲しい」との回答があり、こどものニーズを確認することができた。また、「欲しい場所は、どんな場所か」という設問について、「1人でいられる場所」、「友だちといられる場所」、「ほっとできる場所」など、多様な居場所のニーズが確認された。 これらを踏まえ、得られた結果をエビデンスの一つとして活用し、地域住民・関係機関等と連携した小中学生の居場所（場・体験機会）充実に向けた取組を事業化した。	

取組②	第5期都筑区地域福祉保健計画策定に向けた中学校出前授業での意見聴取 【福祉保健課】	
取組内容	第5期都筑区地域福祉保健計画策定にあたり、子どもの意見や視点を反映するため、茅ヶ崎中学校（3年生8クラス）において、公民の授業の一環として「地域福祉」に関する出前授業を実施した。生徒自身が、身近な地域を知り「地域福祉」への理解を深めながら、誰もが安心を実感しながら健やかに住み続けられるまちについて意見交換を行った。	
対 象	中学生（217 人）	
実施時期	令和7年7月	
主な意見と活用方法等	主な意見として、「今回の授業のように中学生の意見を反映できる場があって嬉しかった」「知らない間に自分たちは多くの人々に支えられていることを再確認することができ	

	た」「自分たちがどんなことをしたら都筑区がより良くなるのかを今回よく考えることができてすごくいい機会だった」「地域」のことを考えるきっかけになった」「地域の活動に参加してみようと思った」などの多くの意見があった。 これらの意見を踏まえ、第5期都筑区地域福祉保健計画に反映した。
--	--

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	「こどもたちの健やかな育ちを支える地域づくり事業」の事業化の前提となる、「放課後等の過ごし方」に関するアンケート実施	小学3～6年生、中学生(アンケート回答者 3,040人)	令和7年6月16日～6月30日(15日間)	63.9%の小中学生から「普段過ごしている居場所以外の居場所が欲しい」との回答があり、こどものニーズを確認することができた。また、「欲しい場所は、どんな場所か」という設問について、「1人でいられる場所」、「友だちといられる場所」、「ほっとできる場所」など、多様な居場所のニーズが確認された。 これらを踏まえ、得られた結果をエビデンスの一つとして活用し、地域住民・関係機関等と連携した小中学生の居場所(場・体験機会)充実にに向けた取組を事業化した。	区政推進課、地域振興課、こども家庭支援課
2	eco チャレ 2025 におけるエコチャレンジ宣言	小学生(43人)	令和7年11月29日	イベントをきっかけに新たに実践しようと思った『環境にやさしいこと』は何かを確認する設問項目において、身近で継続しやすい行動に関する回答が多く見られた。 これらを踏まえ、今後の普及啓発における取組の検討に活用した。	区政推進課
3	緑のカーテンづくりアンケート	小学生(118人)	令和7年11月～12月	緑のカーテンづくりが脱炭素行動の一つであることについて、18.6%の児童から「知らなかった」と回答があった。 これらを踏まえ、こどもを含めたより多くの人々が、地球温暖化等の環境問題への関心を高められるよう、効果的な PR 方法の検討に活用した。	区政推進課
4	東山田中学校キャリア教育「プロに学ぶ～課題解決編～」での意見聴取	中学生(10人)	令和7年12月11日	区で実施している「都筑野菜朝市」について、人通りの多い場所や時間帯での実施がより効果的ではないかとの意見があった。 これらの意見を踏まえ、新規事業等の検討に活用した。	区政推進課
5	伝統芸能事業イベント実施における参加者からの意見聴取	小学生、中学生(45人)	令和7年8月9日～31日	「今後伝統芸能・文化に関するイベントが開催される場合、どのようなものを体験したいですか(複数選択可)。」という設問では、回答	地域振興課

			(イベントは 8月9日)	者全体の4割以上が「日本舞踊」を選択した。 アンケート結果を踏まえ、翌年度の体験イベントのコンテンツに反映した。	
6	はあと de ボランティア (一部こども青少年局青少年育成課補助事業)における参加者からの意見聴取	小学5・6年生、中学生、高校生(272人)	令和7年6月から8月	地域や社会への理解が深まった、或いは地域の方や異年齢の参加者との交流ができたことを評価する意見が多数であったが、暑さ対策を求める声などがあった。 アンケート結果を踏まえ、交流や達成感を得られるような体験プログラム及び熱中症等の暑さ対策に反映した。	地域振興課
7	つづきの丘小学校コミュニティハウス自主事業 「つくって遊ぶおもしろ算数教室」でのアンケート	小学生(11人)	令和7年4月14日～ 令和8年3月2日	「さんすうはあまりすきではないけど、このきょうしつはたのしい」など、子どもの素直な感想が確認できた。 これらの感想を放課後キッズクラブに共有し、講座への理解促進に活用した。	地域振興課
8	つづきの丘小学校コミュニティハウス自主事業 「子どもアート教室」でのアンケート	小学生(16人)	令和7年4月20日～ 令和8年3月16日	今は楽しいという気持ちがあっても、次の参加はどちらでもよいなど、教室の雰囲気とは違う意見があった。 アンケート結果を放課後キッズクラブと共有し、今後の改善に係る検討に活用した。	地域振興課
9	都田地区センター・地域ケアプラザでの自主事業におけるアンケート(①こども科学捜査班、②インクルーシブスポーツ体験、③巨大すごろく交流会)	①小学4～6年生(7人) ②小学6年生(51人) ③小学3年生(72人)	①令和7年7月27日 ②令和8年1月16日 ③令和8年2月4日	都田地区センター・地域ケアプラザで実施してほしいこととして、「料理体験」を希望する声が多くあった。また、施設にあるとよいと思う設備や備品等についても、多様な意見があった。 これらを踏まえ、今後の事業内容の検討や施設運営の参考として活用した。	地域振興課、福祉保健課
10	不登校支援「プログラミング・ものづくり講座」での意見聴取	小学生(2人)	令和7年4月より毎月第4日曜日	「外出できてよかった」「楽しみができた」「優しい場を作ってくれてありがとうございます」など、同年代の友達と交流する機会となり、この場が目標となっているといった意見があった。 これらの意見を踏まえ、事業の継続実施の検討に活用している。	福祉保健課
11	「ステキアートをみつけよう!」での意見聴取	小学生、中学生(5人)	令和7年6月より毎月第4日曜日	「自分にもできた!」「楽しい」「うれしい」「また来たい」などの意見があった。また、こどもたちが生き生きと作り上げ達成感を感じ	福祉保健課

			全 6 回(10 月 12 月 2 月休み)	じている様子で、子ども同士安心して関われる場、障害児をもつ保護者同士の情報交換や居場所にもなっており、上記のような喜びの声も確認された。 これらを踏まえ、事業の継続実施の検討に活用した。	
12	第5期都筑区地域福祉保健計画策定に向けた中学校出前授業での意見聴取	中学生(217人)	令和7年7月	主な意見として、「今回の授業のように中学生の意見を反映できる場があって嬉しかった」「知らない間に自分たちは多くの人々に支えられていることを再確認することができた」「自分たちがどんなことをしたら都筑区がより良くなるのかを今回よく考えることができてすごくいい機会だった」「「地域」のことを考えるきっかけになった」「地域の活動に参加してみようと思った」などの多くの意見があった。 これらの意見を踏まえ、第5期都筑区地域福祉保健計画に反映した。	福祉保健課
13	第5期都筑区地域福祉保健計画策定にかかる区民意見募集	制限なし(うち 18 歳未満:6人) ※イラストを多く使用し、こどもにも分かりやすい表現に努めた	令和7年10月1日～31日	「イベントなどがもう少しふえるとより、協力できて、つづき あいになっていくと思います！(盛り上がると思う)」などの意見があった。 これらの意見を踏まえ、第5期都筑区地域福祉保健計画に反映した。	福祉保健課
14	第5期都筑区地域福祉保健計画策定にかかる中学校生徒会との意見交換	中学生(6人)	令和7年10月21日	主な意見として、「小学生に比べると行動範囲は広がるけれど、まちを知る機会は多くない」「近所の人とは挨拶をする程度」「祭りや行事の情報は、自分たちには届いていない」という声があった一方で、「近隣の人をもう少し知り、交流してみたい」「まちのことをもっと知りたい」「まちの情報はインターネットに掲載されていない事もあるので、掲示板などで入手している」という意見があった。 これらの意見も踏まえ、多くの人が気軽に参加できるきっかけづくりや、効果的な情報発信方法の工夫など、具体的な取組内容とし	福祉保健課

				て第5期都筑区地域福祉保健計画に反映した。	
15	横浜市都筑区社会福祉協議会における、ボランティアのコーディネート事業での意見聴取	中学生、高校生(45人)	通年	「様々な人と関わりをつくるきっかけとなった」「ボランティアを通じて地域のことを知るきっかけとなった」「認知症の方やご高齢の方とお話ししたり関わったりする上での知識を学べた」などの意見があった。 これらの意見を踏まえ、今後の活動内容の検討に活用している。	福祉保健課

■ 戸塚区の取組

取組①	虐待防止啓発（図書館での展示）についてのワークショップ 【こども家庭支援課】
取組内容	保育を学ぶ専門学校生を対象に、職員が児童虐待対応の現状について説明し、学生とワークショップ形式で意見交換を行った。 学生がワークショップをもとに掲示物を作成。図書館と連携した児童虐待防止啓発コーナーに掲示物を展示した。 若い世代にも親しみやすく、分かりやすい啓発につなげるとともに、学生が子育て支援について考える一助とした。
対 象	主に 19 歳～20 歳の専門学校生（5 人）
実施時期	令和 7 年 10 月～11 月
主な意見と活用方法等	特に、「若い世代が見やすく、親しみを感じられるデザインが良い」「飾りつけをかわいくした方が良い」といった学生の意見を参考にデザインを工夫した結果、若い世代の関心を引きやすい掲示物となり、児童虐待防止について自然に関心を持ってもらうきっかけづくりにつながった。 学生と協力して制作したことで、若者ならではの感性を生かした親しみやすいデザインや表現を取り入れることができた。



取組②	小学校と連携したインクルーシブ遊具の設置 【戸塚土木事務所】
取組内容	平戸小学校と連携し、インクルーシブ遊具について学び、考える授業を全 4 回実施した。第 1・2 回の授業では、インクルーシブの考え方や事例、さまざまなインクルーシブ遊具について学んだ。あわせて、戸塚土木事務所が提示した複数の遊具候補について、それぞれの長所・短所を子どもたちの視点から検討し、意見を集約したうえで、平戸第一公園に設置するインクルーシブ遊具の選定を行った。 第 3 回の授業では、選定した遊具の設置工事を見学し、工事の過程について理解を深めた。第 4 回の授業では、地域住民を招いて遊具の設置セレモニーを開催し、児童や地域の方々とともに完成を祝った。
対 象	平戸小学校 6 年生（約 40 人）



実施時期	令和7年7月～令和8年2月 (全4回授業：令和7年6月26日、7月16日、令和8年1月27日、2月10日)
主な意見と活用方法等	授業内で検討した結果、「障がいのある方にとって安心できる空間となるだけでなく、こどもたちにとってもよじ登ったり遊んだりできる空間となること」や、「ジャングルジムのようによじ登る、ぶら下がる、コロコロパネルを叩くなど、多様な遊び方ができること」、さらに「青色が目優しいこと」などの意見が挙がったため、イグルージムを採用した。 3種の遊具の特徴を比較討論し、こども達自身で設置する遊具を決定した。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	戸塚区公認柏尾川桜並木テーマソング制作に係るこどもからの意見募集	小学生、中学生等(約600人)	令和7年3月25日～令和7年5月23日	児童からは、家族や友人との思い出、桜の美しさ、将来に残したいという願い等の意見が多く寄せられた。 これらの意見をテーマソングの歌詞に反映した。	区政推進課
2	虐待防止啓発(図書館での展示)についてのワークショップ	主に19歳～20歳の専門学校生(5人)	令和7年10月～11月	特に、「若い世代が見やすく、親しみを感じられるデザインが良い」「飾りつけをかわいくした方が良い」といった学生の意見を参考にデザインを工夫した結果、若い世代の関心を引きやすい掲示物となり、児童虐待防止について自然に関心を持ってもらうきっかけづくりにつながった。 学生と協力して制作したことで、若者ならではの感性を生かした親しみやすいデザインや表現を取り入れることができた。	こども家庭支援課
3	寄り添い型生活支援事業において、課外活動参加児童・生徒から意見聴収	小学生、中学生(5人)	令和7年7月	こどもから「体験できてよかった」「楽しかった」などの意見があり、課外活動がこどもにとって楽しめる居場所となっていることが確認できた。 個別支援の充実の観点からも、意見を活用する。	こども家庭支援課
4	選挙に行く？行かない？ 選挙に対する意識調査企画	大学生(329人)	令和7年5月24日	選挙に行くと思ったきっかけとして「選挙には行くものだという教育を受けてきたから」と答える方が最も多く、選挙に行かないと答えた理由として「興味はあるが、誰に投票すれば良いかわからない」と答える方が最も多かった。 また、なにがあれ投票に行くようになる	総務課

				かという質問に対して、「気軽に投票できる環境」と答えた方が最も多かったことから、市全体として「共通投票所の導入」等、より選挙人の方が気軽に投票できる環境を整えていく。	
5	小学校と連携したインクルーシブ遊具の設置	平戸小学校6年生(約40人)	令和7年7月～令和8年2月 (全4回授業:令和7年6月26日、7月16日、令和8年1月27日、2月10日)	授業内で検討した結果、「障がいのある方にとって安心できる空間となるだけでなく、こどもたちにとってもよじ登ったり遊んだりできる空間となること」や、「ジャングルジムのようによじ登る、ぶら下がる、コロコロパネルを叩くなど、多様な遊び方ができること」、さらに「青色が目優しいこと」などの意見が挙がったため、イグルージムを採用した。 3種の遊具の特徴を比較討論し、こども達自身で設置する遊具を決定した。	戸塚土木事務所

■ 栄区の取組

取組①	幼児用遊具の選定における幼稚園児からの意見聴取 【栄土木事務所】	
取組内容	上郷六反町公園の幼児用遊具の更新にあたり、公園の利用者を代表して近隣幼稚園に通う園児から、どの遊具で遊んでみたいか、シールを貼る方法で意見聴取した。	
対 象	幼稚園児（約 250 人）	
実施時期	令和 7 年 9 月 16～26 日	
主な意見と活用方法等	3 基の遊具の候補について資料を提示し、一番人気のあった遊具を公園の施設改良工事の設計時に採用した。 採用された遊具は令和 8 年度に施設改良工事で設置を行う予定。	

取組②	キッチンカーを活用した地産地消の啓発 【区政推進課】	
取組内容	地産地消の普及啓発を目的として、JA 横浜の協力のもと、栄区産・横浜市産の農産物を使用したメニューをキッチンカー等で販売するにあたり、区内小学校と連携し、メニューの考案を行った。 メニューの検討においては、児童一人ひとりの考案をもとに、キッチンカーで販売する内容を見童自らが選定した。合意形成の過程を経験することで、多様性を受け入れるとともに、他者を尊重する姿勢を育む機会となった。 また、販売に向けた周知方法（チラシ・動画・看板の作成等）についても児童自らが検討するなど、児童の意見や考えを大きく反映する機会を確保した。これにより、メニューを通じた地産地消の取組発信という事業目的の達成につながった	
対 象	小学生（約 300 人）	
実施時期	令和 7 年 6 月～令和 8 年 3 月	
主な意見と活用方法等	キッチンカーで販売するメニューは一品料理になってしまうほか、より多くのこどもの意見（メニューアイデア）を採用したいと考えていた中で、JA 横浜からの紹介により神奈川大	

	学みなとみらいキャンパス内にあるレストラン「VOYAGE」にて、児童たちの考案したメニューを販売することができた。 一品料理に限らず、レストランならではの主菜・副菜を取り入れたセット料理の販売が出来たことで、地産地消の普及啓発の幅が広がったほか、こどもたちの意見の幅をより広げることが出来た。
--	--

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	幼児用遊具の選定における幼稚園児からの意見聴取	幼稚園児(約250人)	令和7年9月16～26日	3基の遊具の候補について資料を提示し、一番人気のあった遊具を公園の施設改良工事の設計時に採用した。 採用された遊具は令和8年度に施設改良工事で設置を行う予定。	栄土木事務所
2	キッチンカーを活用した地産地消の啓発	小学生(約300人)	令和7年6月～令和8年3月	キッチンカーで販売するメニューは一品料理になってしまうほか、より多くのこどもの意見(メニューアイデア)を採用したいと考えていた中で、JA 横浜からの紹介により神奈川大学みなとみらいキャンパス内にあるレストラン「VOYAGE」にて、児童たちの考案したメニューを販売することができた。 一品料理に限らず、レストランならではの主菜・副菜を取り入れたセット料理の販売が出来たことで、地産地消の普及啓発の幅が広がったほか、こどもたちの意見の幅をより広げることが出来た。	区政推進課
3	青少年指導員と中学生の協働事業「SAKAE ヤングフェスティバル事業」における参加者へのアンケート	中学生(72人)	令和8年3月	令和7年度に実施したアンケートでは、地域との交流や地域のつながりを実感したとの意見が複数見られた。 今後設営や運営に対して意見があった場合には、次年度以降の開催時に改善する予定。	地域振興課
4	GREEN×EXPO2027PR 動画制作	小学生(60人)	動画作成時期: 令和7年9月～令和8年2月 動画公開: 令和8年3月	授業で栄区の魅力あるスポットやそれを伝える方法について意見を出し合ってもらい、その意見に基づいて動画を作成した。	区政推進課
5	<上郷地区センター> こどもログハウス利用に	未就学児、小学生(96人)	令和8年3月1日～3	ログハウスはおもしろいかどうかについて、多数が「少しおもしろい」、どれが一番好	地域振興課

	あたってのアンケート		月 22 日	きかについては「滑り台」「吊り輪」、置いて欲しいおもちゃ等については「ぶらんこ」「鉄棒」「迷路」等、イベント希望については「金魚すくい」「UNO 大会」「障害物リレー」等だった。可能なものは来年度以降取り入れている。	
6	放課後キッズクラブの事業者再選定のためのアンケート	笠間小、小菅ヶ谷小、庄戸小、本郷台小の放課後キッズクラブを利用する児童(約 100 人)	令和8年2月	「キッズクラブでのイベントやプログラムはたのしいですか」「キッズクラブはあんしんしていただけるばしょですか」などについて4段階の評価で確認した。 アンケート結果は、運営法人に共有し、今後の運営に生かしていく。	こども家庭支援課
7	選挙出前授業におけるアンケート	小学生、中学生、高校生(約 350 人)	・令和7年5月 16 日 ・令和7年 11 月 25 日 ・令和8年 2 月 25 日 ・令和8年 3 月 6 日	授業後のアンケートでは「若い人が投票に行かないと困ることがわかった。」「投票のやり方がわからなかったが、実際に体験で来てよかった」などの回答が多かった。 こどもたちから出前授業のアンケートでは満足度が高かったため、次年度も継続して同じ内容での授業を行う予定	総務課
8	栄区寄り添い型学習支援事業における利用者アンケート	中学生、高校生等(約 30 人)	・利用開始時 ・講座参加時 ・年度末 等	「勉強が苦手だったけど自分から勉強しようと思えるようになった。利用してよかった。」「自分の将来についてやりたいことがイメージできるようになった」、「自分の思いや考えたことを相手に伝えることができるようになった」などの意見があった。 意見は利用者の状況や成長度合いに応じた学習支援につなげている。	生活支援課
9	地域と学校との協働等に関するアンケート	小学5年生、中学2年生(約 400 人)	令和8年1～2月	「地域の行事(お祭り、運動会、交流会など)に参加したことがある児童」は 85.3%、「地域の大人たちに見守られていると思う児童」は 84.3%だった。 アンケート結果は庁内で共有し、地域福祉保健計画の子ども向けリーフレットにアンケート結果を反映予定。	こども家庭支援課
10	「夏休みわくわく社会科見学」のイベント参加者へのアンケート	小学生4～6年生(62 人)	令和7年8月	アンケート結果では、今回のイベントで一番楽しかった・学びになった見学エリアにショールームを挙げた子どもが全体の 50%を占	区政推進課

				め、最も満足度が高いことがわかった。 この結果を踏まえ、今年度はショールームでの見学時間を延長し、展示内容をより深く学べるよう見学プログラムを見直した。	
11	「オリジナルマイボトルを作ろう！」のイベント参加者へのアンケート	小学生(15人)	令和8年3月	温暖化対策について学が取組としてSDGs ゲームを実施したが、アンケートでは「時間が足りなかった」、「内容が難しかった」といった意見が見られた。 この結果を踏まえ、次回は子どもたちがより参加しやすく、楽しみながら学べる内容となるよう、実施プログラムの見直しを行い、別の手法による環境学習の取組を検討することとした。	区政推進課
12	「グリーンリース作り講座」におけるイベント参加者へのアンケート	小学生(35人)	令和7年9月	ワークショップについて大変満足したと回答した人が参加者の100%であったため、令和8年度も継続してワークショップを開催することにした。	区政推進課
13	「自然体験教室」におけるイベント参加者へのアンケート	小学生(8人)	令和7年12月13日	イベント内で区内の森づくり団体から自然環境を守っていくことについての講義を行ったが、アンケートで「少し難しかった」との意見があったため、団体にアンケート結果を共有し改善を依頼した。	区政推進課
14	＜栄区民文化センター＞さかえアートのトビラにあたってのアンケート	小学生(13人)	・令和7年9月20日 ・令和7年11月8日 ・令和8年1月24日	「もっと、いろいろな場所でこのイベントが知れるようにしてほしいです(地域掲示板など)」、「普段家ではなかなかそろえられない材料を思いっきり使って工作をすることができて、貴重な時間になりました」などの意見があった。 頂いた意見をもとに今後イベントを開催する際の広報やイベント構成の参考とする予定。	地域振興課
15	＜栄区民文化センター＞横浜市プラットフォーム事業にあたってのアンケート	小学生(120人)	公田小学校:11月7日 庄戸小学校:12月1日～3日 本郷台小学校:12月	「初めてだったけどうまくできた」、「友達の考えが知れて楽しかった」、「好きな音を探ることができた」、「色んな表現があることを知れた」などの意見があった。 頂いた意見をもとに今後イベントを開催する際の広報やイベント構成の参考とする予定。	地域振興課

			23日 本郷特別支 援学校:12 月5日		
16	さかえの歴史魅力発信 事業「子ども向け歴史講 座」にあたってのアンケ ート	小学生(69 人)	令和7年7 月	ミニ講座がやや長く勾玉の制作時間が不足 との意見があったため、今年度は講座時間や 構成を見直し、よりじっくり制作作業に取り 組める内容となるよう改善する予定。	地域振興課

■ 泉区の実施

取組①	第5期泉わくわくプラン（泉区地域福祉保健計画）の素案についての区民意見募集 【福祉保健課】
取組内容	第5期泉わくわくプラン（泉区地域福祉保健計画）の策定にあたって区民からの意見募集を行った。区民意見募集中に泉わくわくプランの関係で小学校で出張授業を行う機会があり、意見募集について周知したところ協力をしてくれた。 
対 象	小学6年生（27人）
実施時期	令和7年9月1日～9月30日
主な意見と活用方法等	「スポーツイベントがあるといい」「みんなが交流できる食事会などを開いてほしい」「段差があまりない町にしてみんなが暮らしやすいようになるといい」など、イベントや公園整備・緑化・挨拶やごみ拾い・防犯に関する意見が寄せられた。 泉わくわくプランへの反映・関係各課への共有や推進の参考にした。

取組②	いっずん LINE スタンプ作成に係るワークショップ 【区政推進課】
取組内容	区内中学校の職場体験プログラムの一環として、区制40周年を記念して作成を検討していた「いっずん LINE スタンプ」のデザインに係るワークショップを実施し、若い世代も使いたくなるようなデザインのアイデアをいただいた。 
対 象	中学2年生（5人）
実施時期	令和7年11月27日
主な意見と活用方法等	「ありがとうっ」「ごめんっ」「かえるよっ」等、日常的に使いやすいフレーズを実際のデザインに反映した。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	第5期泉わくわくプラン (泉区地域福祉保健計画)の素案についての区 民意見募集	小学6年生 (27人)	令和7年9 月1日～9 月30日	「スポーツイベントがあるといい」「みんなが 交流できる食事会などを開いてほしい」「段 差があまりない町にしてみんなが暮らしやす いようになるといい」など、イベントや公園整 備・緑化・挨拶やごみ拾い・防犯に関する意見 が寄せられた。 泉わくわくプランへの反映・関係各課への 共有や推進の参考にした。	福祉保健課
2	泉わくわく応援隊(地域 行事を小中学生がお手 伝いをする取組)として 活動した子どもへのアン ケート	小学4～6年 生、中学生 (23人)	通年	応援隊として地域活動のお手伝いを行い、 「やりがいを感じた」と答えた方が19人、 「少しやりがいを感じた」が4人だった。感想 では「面白い」「ボランティアの楽しさを知っ た」等の意見が寄せられた。 その他、今後参加したい地域行事等を聞き 地域へフィードバックしたり、もらえる景品の 希望を聞き、参考になっている。	福祉保健課
3	区への愛着心向上に向 けた効果的な販促物に 関するアンケート	未就学児、小 学1～6年生 (925人)	令和7年 10月17 日、10月 18日	「欲しいと思う区のマスコットキャラクター グッズ」について4つの選択肢を設定した結 果、いずれのグッズ候補についても一定のニ ーズがあることが確認され、今後のグッズ展 開を検討する際の参考とした。 なお、新規グッズであるミニタオルは令和 8年夏より販売を開始している。	区政推進課
4	阿久和川まほろば地区 の河川水辺環境の再整 備を考える小学生とのワ ークショップ	小学3～4年 生(100人)	【各校3回実 施】 1回目：R 7.10月 2回目： R7.10月 ～11月 3回目：R8. 3月	将来の阿久和川まほろば地区のあり方につ いて、「川の生き物を増やしたい」「きれいな 川にしたい」「水辺で休憩したい」など、自然 環境や景観、川の利用に関する幅広い意見が 寄せられた。 子ども達の意見をもとに整理した「自然」 「景観」「安全」「地域」「利用」の5つの視点 を、阿久和川まほろば地区の河川環境再整備 計画に反映した。	泉土木事務所 下水道河川局 河川流域調整 課
5	いっずん LINE スタンプ 作成に係るワークショッ プ	中学2年生(5 人)	令和7年11 月27日	「ありがとう」「ごめんっ」「かえるよっ」等、 日常的に使いやすいフレーズを実際のデザイ ンに反映した。	区政推進課

■ 瀬谷区の実施

取組①	未来へつなごう横浜グリーンエキスポの輪～上瀬谷意見交流会～における児童の意見交換 及び実施後のアンケート 【区政推進課】
取組内容	横浜グリーンエキスポの開催地に最も近い小学校に通う児童の発案により、横浜グリーンエキスポに関する意見交換会を実施した。児童たちは、自ら区役所の職員へ協力を依頼するとともに、他学年に参加を呼びかけ、意見交換会の企画から当日の進行まで主体的に担った。 当日は、区役所や GREEN×EXPO 協会、関係部署も参加する中で開催され、横浜グリーンエキスポに関するアイデアや課題について活発な意見交換が行われ、多くの児童から意見が出された。 意見交換会終了後には、児童自らが作成したアンケートを実施し、その結果を区役所へ届けた。
対 象	小学生（150 人）
実施時期	令和 7 年 10 月 8 日
主な意見と活用方法等	「会場周辺のポイ捨てをなくしてきれいな状況を保ってほしい」「夏は暑いので日陰を作った方がいい」「瀬谷の良さを世界に伝えたい」「渋滞が起きると思うので工夫してほしい」「外国人向けに英語の看板を置いてほしい」「花植えやゴミ拾いのボランティアなど、自分たちも手伝う場がほしい」などの意見があった。 横浜グリーンエキスポに関する今後の課題を検討する際の参考とするとともに、関係部署への情報提供を行った。

取組②	スーパーキッズボランティア 【福祉保健課（横浜市中屋敷地域ケアプラザ）】
取組内容	地域活動やイベント等において、こども達が「参加者」ではなく「地域の担い手」として関わる機会を設けた。活動内容や役割について、こども達から「やってみたいこと」「必要だと思うこと」を聞き取りながら実施した。
対 象	主に小学生（約 20 人）

実施時期	令和7年4月1日～令和8年3月31日
主な意見と活用方法等	「受付や案内だけでなく、もっと小さい子と関わる役割をやってみたい」「地域の人ともっと話したい」「ありがとう」と言われると嬉しい」などの意見があった。 意見を踏まえ、こども同士で関われる遊びコーナーやサポート役を取り入れたり、シニアや地域住民と交流できる場面を意識的に設けたりしたほか、活動後に振り返りや感想共有の時間を設け、達成感や自己肯定感につながるよう工夫した。

	取組名	対象	実施時期	主な意見と活用方法等	所管課
1	横浜グリーンエキスポ開催 500 日前記念イベント「花×環境ワークショップ」の企画参加及び当日のブース運営	中学生、高校生(15 人)	令和7年4月～11月	横浜グリーンエキスポに関心をもってもらうための取組について、「テーマの1つである環境について、イベント参加者に楽しく学んでもらうため、結婚式場で使用されたお花を活用したバスボムづくりワークショップを実施する」という意見をふまえ、令和7年11月1日に実施した500日前記念イベントにて、ワークショップのブースを出店した。当日はブース運営からワークショップの実施まで中学・高校生が主体的に取り組んだ。	区政推進課
2	未来へつなごう横浜グリーンエキスポの輪～上瀬谷意見交流会～における児童の意見交換及び実施後のアンケート	小学生(150 人)	令和7年10月8日	「会場周辺のポイ捨てをなくしてきれいな状況を保ってほしい」「夏は暑いので日陰を作った方がいい」「瀬谷の良さを世界に伝えたい」「渋滞が起きると思うので工夫してほしい」「外国人向けに英語の看板を置いてほしい」「花植えやゴミ拾いのボランティアなど、自分たちも手伝う場がほしい」などの意見があった。 横浜グリーンエキスポに関する今後の課題を検討する際の参考とするとともに、関係部署への情報提供を行った。	区政推進課
3	「せやまち手しごと市」におけるガリバーマップの作成	未就園児、小学生など(約25 人)	令和8年3月28日	小学校、幼稚園、地区センターなど、身近な施設を挙げていた。 都市計画マスタープラン(区別方針)を策定する際の参考とする。	区政推進課
4	市長と語ろう！における市長と神奈川県立横浜瀬谷高等学校「未来共創	高校生(9 人)	令和7年12月15日	「日用品をエコなものに変えるなどの取組を行っていききたい」「体感してもらう機会を作るなど、同世代に発信していきたい」「エコを	区政推進課

	ラボ」(任意団体)との意見交換			発信することで思いが伝わり、横浜グリーンエクスポに参加するきっかけになるのではないか」「横浜グリーンエクスポで普段の生活では見られないエコ技術に触れたい」などの意見があった。 ご意見を踏まえ、「STYLE PARTNERS」における、高校生など若い世代との創発機会の確保(脱炭素・GREEN×EXPO推進局)につなげていく。	
5	「第三次瀬谷区読書活動推進目標」策定に係る意見聴取	小学生、中学生(204人)	令和7年5月下旬～6月末	みんなが本を読みたくする方法については「本を読んでスタンプやプレゼントがもらえる」「面白そうな本をすすめてもらう」、本を読もうとするきっかけについては「図書館や本屋で見つけて気になった」「インターネットやSNSで紹介されていて気になった」、どんな本のイベントに行ってみたいかについては「クイズ、ゲーム」「読書ラリー」「読み聞かせなどのイベント」などの意見があった。 意見を踏まえて、年齢別ブックリストの提供・読書スタンプラリーの継続実施、SNS等を活用した情報発信の充実を読書目標に明記した。	地域振興課
6	せやっこわくわくワークの参加者へのアンケート	小学4～6年生(138人)	令和7年6月～11月	アンケートの項目に「そのほかで意見があれば書いてください。(もっとこんなことがやりたい!など)」という項目を設け、「小麦を最初から育ててみたい」「オリーブだけでなく他の植物も育ててみたい」「もっといろいろなことを学びたい」などの意見があった。 意見は次年度の事業内容の検討の参考にした。	地域振興課
7	第5期瀬谷区地域福祉保健計画策定にかかることからの意見聴取	小学生、中学生、高等特別支援学校(326人)	令和7年7月	9割以上からの「やさしい日本語」の素案がわかりやすいとの意見を受けて、完成した計画でも「やさしい日本語」の概要版を作成した。 「計画の大切さがわかった」「自分自身でも取り組んでみたい」と言った意見が多く挙げられており、計画の理解と実際の取組につなげることができた。	福祉保健課
8	スーパーキッズボランティア	主に小学生	令和7年4月	「受付や案内だけでなく、もっと小さい子と	福祉保健課

	イア	(約 20 人)	月1日～令和8年3月31日	関わる役割をやってみたい」「地域の人とちょっと話したい」「ありがとう」と言われると嬉しい」などの意見があった。 意見を踏まえ、こども同士で関われる遊びコーナーやサポート役を取り入れたり、シニアや地域住民と交流できる場面を意識的に設けたりしたほか、活動後に振り返りや感想共有の時間を設け、達成感や自己肯定感につながるよう工夫した。	(横浜市中屋敷地域ケアプラザ)
9	地域の子どもの視点から見た、地域の魅力や課題を反映したガリバーマップ(地域マップ)の作成	未就園児、小学生など(約 50 人)	令和7年 5 月 30 日～6 月 30 日	「公園のここが好き」「暗い道が怖い」「地域の人が話しかけてくれるのが嬉しい」などの意見があった。 意見を踏まえ、地域の魅力発信としてマップに掲載したり、地域の見守りや安全面を考える際の参考意見として共有したほか、地域交流の大切さを再確認する機会となった。	福祉保健課 (横浜市中屋敷地域ケアプラザ)
10	障がいのある高校生・20 代の若者と、地域住民との交流を目的としたユニバーサルスタイルカフェの企画・運営	障害のある高校生から 20 代までの若者(約 80 人)	令和7年4月1日～令和8年3月31日(実行委員会)	「演奏発表をしてみたい」「地域の人と話したり交流したい」「自分達も運営側として関わりたい」「緊張しやすいので安心できる雰囲気してほしい」などの意見があった。 意見を踏まえ、トーンチャイム演奏の発表機会を企画内容に取り入れたり、カフェ形式や交流しやすいレイアウトを検討したほか、実行委員として企画段階から参加し、役割分担を行ってもらったり、少人数で話しやすい場づくりや無理なく参加できる進进行を意識した。	福祉保健課 (横浜市中屋敷地域ケアプラザ)
11	命を守る思春期応援プロジェクト事業における意見聴取	横浜隼人高校インターアクトクラブ(26 人)	・令和7年 9 月 19 日 ・令和8年1月 16 日	中高生が身に付けやすいグッズについて、缶バッジや文具用クリップはどうかとの意見や、明らかに性に関するグッズと分かると身に付けにくい人もいるのではないかなど、中高生の目線での意見が出された。 聴取した意見は、啓発グッズの作成に活用する予定。	こども家庭支援課

5 まとめ

条例が施行された初年度の令和7年度は、まずは広くこどもの意見を聴く取組に重点を置き、各区局統括本部において、アンケートやワークショップ、ヒアリングなど様々な方法で意見聴取を行いました。

こどもの意見推進会議の開催等を通じて、こどもの声に耳を傾ける取組は全庁的に広がりつつあります。今後は、例えば今回、他の対象と比べて取組件数が少なかった未就学児や大学生世代以上の意見表明の機会を確保することをはじめ、いただいた意見の施策への反映やこどもへの結果のフィードバックなどについても充実を図っていく必要があります。

一方、いただいた意見を施策に直接反映させることが難しい場合であっても、こどもたちからは、行政や大人が意見を聴いてくれたことに対する肯定的な声がありました。引き続き、意見を聴くプロセス自体も大切にしながら、こどもの意見を丁寧に受け止め、適切にフィードバックすることで、こどもの自己肯定感の向上を図っていきます。

今後も、好事例の共有や職員の意識醸成等を進め、こどもの視点に立ってこども・子育て施策を総合的に推進することで、こどもたちの健やかな成長と子育てしやすいまちの実現につなげていきます。

【参考資料】

横浜市こども・子育て基本条例

令和 6 年 6 月 14 日

条例第 30 号

横浜市こども・子育て基本条例をここに公布する。

横浜市こども・子育て基本条例

こどもは社会の宝であり、未来を担うのは今を生きるこどもたちである。

しかしながら、急速な少子化の進展その他の社会の大きな変化の中で、こどもを取り巻く環境はめまぐるしく変わっており、このような状況の下、全てのこどもが、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、それぞれの幸せを実感できる社会を実現するためには、こどもが、愛され保護される存在であることに加え、社会を構成する一員として、その年齢及び発達に応じて、意見を表明し、多様な活動に参画することができる機会が確保されることが重要である。

また、このような経験は、こどもが、自立心を養い、自ら研鑽に努め、多様性を受け入れ、他者を尊重する心を身に付けながら成長し、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画するための基礎となる。

そして、こどもにとっての最善の利益が考慮され、全てのこどもが伸び伸びと成長し、その個性と能力を十分に発揮できる環境を整えることは、父母その他の保護者を始めとしたこどもを取り巻く社会全体の責務である。

ここに、こども基本法にのっとり、こども及び子育て世代に選ばれる、こどもと子育てに優しい都市横浜の実現に向け、こども・子育てに関する施策を総合的に推進するため、この条例を制定する。

(目的)

第 1 条 この条例は、こども・子育てについて、基本理念を定め、横浜市(以下「市」という。)の責務並びに市民、事業者及び育ち学ぶ施設の関係者の役割を明らかにするとともに、こども・子育てに関する施策の基本となる事項を定めることにより、その施策を総合的に推進し、もってこども及び子育て世代に選ばれる、こどもと子育てに優しい都市横浜の実現に寄与することを目的とする。

(定義)

第 2 条 この条例において、[次の各号](#)に掲げる用語の意義は、[当該各号](#)に定めるところによる。

- (1) こども 心身の発達の過程にある者をいう。
- (2) 保護者 親権を行う者、未成年後見人その他の者で、こどもを現に監護するものをいう。
- (3) 事業者 個人又は法人その他の団体であって、事業を行うものをいう。
- (4) 育ち学ぶ施設 児童福祉施設、学校その他の施設のうち、こどもが入所し、通所し、通学し、又は交流するものをいう。

(基本理念)

第 3 条 全てのおとなは、こども基本法(令和 4 年法律第 77 号)の精神にのっとり、こどもがその個性と能力を十分に発揮でき、社会を構成する一員として、その年齢及び発達の程度に応じて意見が尊重される環境を整備することが、誰もが未来への希望が持てる活力ある社会を構築するための基盤であるという認識の下、相互に協力してこどもを育む社会の形成に取り組むものとする。

(こどもの意見の尊重等)

第4条 全てのこどもについては、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その年齢及び発達
の程度に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が考慮されるとともに、意見を表明する機会
及び多様な社会活動に参画する機会が確保されるものとする。

(市の責務)

第5条 市は、[第3条](#)の基本理念にのっとり、こども・子育てに関する施策を総合的に推進する責務を
有する。

2 市は、こども・子育てに関する施策を推進するに当たっては、こどもが、社会を構成する一員とし
て、その年齢及び発達に応じて、意見を表明する機会を確保し、その意見を施策に反映させる
よう努めるものとする。

3 市は、こどもが社会を構成する一員としてその年齢及び発達に応じて学校教育、地域社会等
における多様な活動に積極的に参画する機会が確保されるよう、必要な環境の整備に努めるものとし
る。

4 市は、こども・子育てに関連するあらゆる分野における施策を講ずるに当たっては、こどもの視
点を重視するよう努めるものとする。

(市民及び事業者の役割)

第6条 市民及び事業者は、こどもが社会を構成する一員であることを認識し、その年齢及び発達
の程度に応じて、意見を表明する機会及び選択の機会が確保され、社会においてその個性と能力を十分に
発揮できるよう、こどもとの対話の機会の確保、居場所づくりその他の必要な取組を行うよう努める
ものとする。

(育ち学ぶ施設の関係者の役割)

第7条 育ち学ぶ施設の関係者は、こども・子育てに関する施策に協力し、こどもが社会を構成する一
員であることを認識し、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その年齢及び発達
の程度に応じて、その意見及び提案を実現するために必要な環境の整備に努めるとともに、こどもが主体的に
考え、自ら課題を解決できる能力を身に付けることができるよう、必要な支援に努めるものとする。

(こども計画等の策定)

第8条 市は、こども計画(こども基本法第10条第2項の市町村こども計画をいう。)及びこども・子
育てに関する施策について、この条例を踏まえて策定するものとする。

(子育て支援)

第9条 保護者が安全で安心な環境の中でこどもを育てることができるよう、市は、こども及び保護者
の意見を尊重しつつ、子育てしやすい社会の実現のために、こどものある家庭に対する支援を始めとし
た様々なこども・子育てに関する施策を、学童期から、就労、結婚、妊娠、出産、育児等の各段階
に応じて切れ目なく総合的に推進するものとする。

2 市民、事業者及び育ち学ぶ施設の関係者は、[前項](#)の施策に協力するよう努めるものとする。

(こどもの養育)

第10条 こどもの養育は家庭を基本として行われるとの認識の下、父母その他の保護者は、こどもを
育むための第一義的責任を有する者として、こどもが、その年齢及び発達
の程度に応じて、意見を表明する機会及び選択の機会が確保され、社会においてその個性と能力を十分に発揮できるよう、健全
な養育に努めるものとする。

2 市は、家庭での養育が困難な子どもにはできる限り家庭と同様の養育環境を確保するよう努めるものとする。

（広報及び啓発）

第11条 市は、子どもに対し、その年齢及び発達に応じて、自らが社会を構成する一員であること等について広報及び啓発に努めるものとする。

2 市は、子どもの最善の利益が考慮されること等について市民、事業者及び育ち学ぶ施設の関係者の理解を深めるため、広報及び啓発に努めるものとする。

（体制の整備）

第12条 市は、子ども・子育てに関する施策を推進するに当たっては、子どもがその年齢及び発達の程度に応じて意見を表明する機会を確保し、その意見を施策に反映させるために必要な体制の整備に努めるものとする。

（財政上の措置）

第13条 市は、子ども・子育てに関する施策を総合的に推進するために必要な財政上の措置を講ずるよう努めるものとする。

（市会への報告等）

第14条 市長は、毎年、子ども・子育てに関する施策へのこどもの意見の反映の状況等について、市会に報告するとともに、インターネットの利用その他の方法により公表するものとする。

（主権者教育）

第15条 市は、子どもの年齢及び発達の程度に応じて、市政及び二元代表制における市会の役割等に対するこどもの理解と関心を深める主権者教育を推進するものとする。

附 則

この条例は、令和7年4月1日から施行する。

令和四年法律第七十七号
こども基本法

第一章 総則

(目的)

第一条 この法律は、日本国憲法及び児童の権利に関する条約の精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、社会全体としてこども施策に取り組むことができるよう、こども施策に関し、基本理念を定め、国の責務等を明らかにし、及びこども施策の基本となる事項を定めるとともに、こども政策推進会議を設置すること等により、こども施策を総合的に推進することを目的とする。

(定義)

第二条 この法律において「こども」とは、心身の発達の過程にある者をいう。

2 この法律において「こども施策」とは、次に掲げる施策その他のこどもに関する施策及びこれと一体的に講ずべき施策をいう。

- 一 新生児期、乳幼児期、学童期及び思春期の各段階を経て、おとなになるまでの心身の発達の過程を通じて切れ目なく行われるこどもの健やかな成長に対する支援
- 二 子育てに伴う喜びを実感できる社会の実現に資するため、就労、結婚、妊娠、出産、育児等の各段階に応じて行われる支援
- 三 家庭における養育環境その他のこどもの養育環境の整備

(基本理念)

第三条 こども施策は、次に掲げる事項を基本理念として行われなければならない。

- 一 全てのこどもについて、個人として尊重され、その基本的人権が保障されるとともに、差別的取扱いを受けることがないようにすること。
- 二 全てのこどもについて、適切に養育されること、その生活を保障されること、愛され保護されること、その健やかな成長及び発達並びにその自立が図られることその他の福祉に係る権利が等しく保障されるとともに、教育基本法（平成十八年法律第百二十号）の精神にのっとり教育を受ける機会が等しく与えられること。
- 三 全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること。
- 四 全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されること。
- 五 こどもの養育については、家庭を基本として行われ、父母その他の保護者が第一義的責任を有するとの認識の下、これらの者に対してこどもの養育に関し十分な支援を行うとともに、家庭での養育が困難なこどもにはできる限り家庭と同様の養育環境を確保することにより、こどもが心身ともに健やかに育成されるようにすること。
- 六 家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できる社会環境を整備すること。

(国の責務)

第四条 国は、前条の基本理念（以下単に「基本理念」という。）にのっとり、こども施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第五条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、こども施策に関し、国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、その区域内におけるこどもの状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業主の努力）

第六条 事業主は、基本理念にのっとり、その雇用する労働者の職業生活及び家庭生活の充実が図られるよう、必要な雇用環境の整備に努めるものとする。

（国民の努力）

第七条 国民は、基本理念にのっとり、こども施策について関心と理解を深めるとともに、国又は地方公共団体が実施するこども施策に協力するよう努めるものとする。

（年次報告）

第八条 政府は、毎年、国会に、我が国におけるこどもをめぐる状況及び政府が講じたこども施策の実施の状況に関する報告を提出するとともに、これを公表しなければならない。

2 前項の報告は、次に掲げる事項を含むものでなければならない。

- 一 少子化社会対策基本法（平成十五年法律第百三十三号）第九条第一項に規定する少子化の状況及び少子化に対処するために講じた施策の概況
- 二 子ども・若者育成支援推進法（平成二十一年法律第七十一号）第六条第一項に規定する我が国における子ども・若者の状況及び政府が講じた子ども・若者育成支援施策の実施の状況
- 三 こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律（平成二十五年法律第六十四号）第八条第一項に規定するこどもの貧困の状況及びこどもの貧困の解消に向けた対策の実施の状況

第二章 基本的施策

（こども施策に関する大綱）

第九条 政府は、こども施策を総合的に推進するため、こども施策に関する大綱（以下「こども大綱」という。）を定めなければならない。

2 こども大綱は、次に掲げる事項について定めるものとする。

- 一 こども施策に関する基本的な方針
- 二 こども施策に関する重要事項
- 三 前二号に掲げるもののほか、こども施策を推進するために必要な事項

3 こども大綱は、次に掲げる事項を含むものでなければならない。

- 一 少子化社会対策基本法第七条第一項に規定する総合的かつ長期的な少子化に対処するための施策
- 二 子ども・若者育成支援推進法第八条第二項各号に掲げる事項
- 三 こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律第九条第二項各号に掲げる事項

4 こども大綱に定めるこども施策については、原則として、当該こども施策の具体的な目標及びその達成の期間を定めるものとする。

5 内閣総理大臣は、こども大綱の案につき閣議の決定を求めなければならない。

6 内閣総理大臣は、前項の規定による閣議の決定があったときは、遅滞なく、こども大綱を公表

しなければならない。

7 前二項の規定は、こども大綱の変更について準用する。

(都道府県こども計画等)

第十条 都道府県は、こども大綱を勘案して、当該都道府県におけるこども施策についての計画（以下この条において「都道府県こども計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

2 市町村は、こども大綱（都道府県こども計画が定められているときは、こども大綱及び都道府県こども計画）を勘案して、当該市町村におけるこども施策についての計画（以下この条において「市町村こども計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

3 都道府県又は市町村は、都道府県こども計画又は市町村こども計画を定め、又は変更したときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

4 都道府県こども計画は、子ども・若者育成支援推進法第九条第一項に規定する都道府県子ども・若者計画、こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律第十条第一項に規定する都道府県計画その他法令の規定により都道府県が作成する計画であってこども施策に関する事項を定めるものと一体のものとして作成することができる。

5 市町村こども計画は、子ども・若者育成支援推進法第九条第二項に規定する市町村子ども・若者計画、こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律第十条第二項に規定する市町村計画その他法令の規定により市町村が作成する計画であってこども施策に関する事項を定めるものと一体のものとして作成することができる。

(こども施策に対するこども等の意見の反映)

第十一条 国及び地方公共団体は、こども施策を策定し、実施し、及び評価するに当たっては、当該こども施策の対象となるこども又はこどもを養育する者その他の関係者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。

(こども施策に係る支援の総合的かつ一体的な提供のための体制の整備等)

第十二条 国は、こども施策に係る支援が、支援を必要とする事由、支援を行う関係機関、支援の対象となる者の年齢又は居住する地域等にかかわらず、切れ目なく行われるようにするため、当該支援を総合的かつ一体的に行う体制の整備その他の必要な措置を講ずるものとする。

(関係者相互の有機的な連携の確保等)

第十三条 国は、こども施策が適正かつ円滑に行われるよう、医療、保健、福祉、教育、療育等に関する業務を行う関係機関相互の有機的な連携の確保に努めなければならない。

2 都道府県及び市町村は、こども施策が適正かつ円滑に行われるよう、前項に規定する業務を行う関係機関及び地域においてこどもに関する支援を行う民間団体相互の有機的な連携の確保に努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、前項の有機的な連携の確保に資するため、こども施策に係る事務の実施に係る協議及び連絡調整を行うための協議会を組織することができる。

4 前項の協議会は、第二項の関係機関及び民間団体その他の都道府県又は市町村が必要と認める者をもって構成する。

第十四条 国は、前条第一項の有機的な連携の確保に資するため、個人情報 の適正な取扱いを確保しつつ、同項の関係機関が行うこどもに関する支援に資する情報の共有を促進するための情報通信技術の活用その他の必要な措置を講ずるものとする。

2 都道府県及び市町村は、前条第二項の有機的な連携の確保に資するため、個人情報の適正な取扱いを確保しつつ、同項の関係機関及び民間団体が行うこどもに関する支援に資する情報の共有を促進するための情報通信技術の活用その他の必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

（この法律及び児童の権利に関する条約の趣旨及び内容についての周知）

第十五条 国は、この法律及び児童の権利に関する条約の趣旨及び内容について、広報活動等を通じて国民に周知を図り、その理解を得るよう努めるものとする。

（こども施策の充実及び財政上の措置等）

第十六条 政府は、こども大綱の定めるところにより、こども施策の幅広い展開その他のこども施策の一層の充実を図るとともに、その実施に必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めなければならない。

第三章 こども政策推進会議

（設置及び所掌事務等）

第十七条 こども家庭庁に、特別の機関として、こども政策推進会議（以下「会議」という。）を置く。

2 会議は、次に掲げる事務をつかさどる。

一 こども大綱の案を作成すること。

二 前号に掲げるもののほか、こども施策に関する重要事項について審議し、及びこども施策の実施を推進すること。

三 こども施策について必要な関係行政機関相互の調整をすること。

四 前三号に掲げるもののほか、他の法令の規定により会議に属させられた事務

3 会議は、前項の規定によりこども大綱の案を作成するに当たり、こども及びこどもを養育する者、学識経験者、地域においてこどもに関する支援を行う民間団体その他の関係者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。

（組織等）

第十八条 会議は、会長及び委員をもって組織する。

2 会長は、内閣総理大臣をもって充てる。

3 委員は、次に掲げる者をもって充てる。

一 内閣府設置法（平成十一年法律第八十九号）第九条第一項に規定する特命担当大臣であつて、同項の規定により命を受けて同法第十一条の三に規定する事務を掌理するもの

二 会長及び前号に掲げる者以外の国务大臣のうちから、内閣総理大臣が指定する者

（資料提出の要求等）

第十九条 会議は、その所掌事務を遂行するために必要があると認めるときは、関係行政機関の長に対し、資料の提出、意見の開陳、説明その他必要な協力を求めることができる。

2 会議は、その所掌事務を遂行するために特に必要があると認めるときは、前項に規定する者以外の者に対しても、必要な協力を依頼することができる。

（政令への委任）

第二十条 前三条に定めるもののほか、会議の組織及び運営に関し必要な事項は、政令で定める。

附 則 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、令和五年四月一日から施行する。

(検討)

第二条 国は、この法律の施行後五年を目途として、この法律の施行の状況及びこども施策の実施の状況を勘案し、こども施策が基本理念にのっとって実施されているかどうか等の観点からその実態を把握し及び公正かつ適切に評価する仕組みの整備その他の基本理念にのっとりたこども施策の一層の推進のために必要な方策について検討を加え、その結果に基づき、法制上の措置その他の必要な措置を講ずるものとする。

附 則 (令和六年六月二六日法律第六八号) 抄

(施行期日)

第一条 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。